

令和6年2月9日
地域学校連携課

世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会報告書（案）について

1 主旨

区では、国の動きを受け、世田谷区における中学校部活動の地域移行のあり方について議論するため、令和4年10月に「世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会」を立ち上げ、12回にわたり議論を積み重ねてきた。

この度、これまでの検討委員会の議論のまとめとして、提言として、報告書（案）が取りまとめられたので、報告する。

今後は、検討委員会において、3月末に報告書を取りまとめ、教育委員会への提言を行う。提言を受け、教育委員会では、11月を目途に、教育委員会における区立中学校部活動地域移行に向けた方針を決定する予定である。

2 検討状況

- (1) 検討委員会委員名簿 別紙1のとおり
- (2) これまでの検討状況 別紙2のとおり

3 報告書(案)の概要

- 「生徒を中心とすること（スチューデント・センタード）」の考えを基本とする「新たな価値」を前提に、部活動地域移行を進めていく
- 将来にわたって生徒が継続的に参加できる場を確保する方策を早期に検討し、着実に具体的な策を進めていくことが重要である
- 「教員のワークライフバランス推進のための部活動の地域連携」及び、「地域でスポーツ・文化に親しめる環境づくり」の2つの視点から、具体的な進め方を提言する
- 区立中学校の部活動の実態（ヒアリング結果）、中学生・保護者・教員へのアンケート、検討部会での中学生等の意見、トライアル事業の参加者の意見等を掲載し、これらから考察される課題等をあげている

4 今後のスケジュール（予定）

- 令和6年3月 第13回検討委員会（最終とりまとめ、提言）
- 8月 教育委員会としての方針案まとめ
- 9月 文教常任委員会報告（方針案について）
- 11月 教育委員会としての方針決定

別紙1

世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会委員名簿

(令和5年度)

		氏名	役職・所属等
委員長	有識者	近藤 智靖	日本体育大学児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科 教授
副委員長	有識者	細越 淳二	国士舘大学文学部教育学科 教授
委員	有識者	芳地 泰幸	日本女子体育大学体育学部健康スポーツ学科 准教授
委員	総合型地域スポーツ・文化クラブ	岸田 耕治	東深沢スポーツ・文化クラブ副会長
委員	地域団体	宮幸 朱美	青少年船橋地区委員会副会長
委員	保護者	栄 裕美	世田谷区立中学校PTA連合協議会会長
委員	保護者	松浦 和輝	笹原小学校PTA会長
委員	区立中学校校長	加藤 敏久	区立砦中学校校長
委員	区立中学校校長	大塚 洋一	区立桜木中学校校長 (東京都中学校体育連盟会長)
委員	教員	宮内 将之	区立船橋希望中学校

(次ページに続く)

(前ページから続き)

		氏名	役職・所属等
委員	世田谷区スポーツ振興財団	浅野 康	事務局長
委員	せたがや文化財団	志賀 毅一	事務局長
委員	世田谷区	大澤 正文	スポーツ推進部長
委員	世田谷区	渡邊 謙吉	生活文化政策部長
委員	世田谷区教育委員会事務局	小泉 武士	学校教育部長
検討部会	委員	中学生	世田谷区立の中学生（8～10名程度） 部活動や地域移行について、検討部会において意見交換をする。 その結果を資料にまとめ、代表者（数名）が検討委員会に出席し、報告する。
	委員	高校生	公立中学校での部活動経験をもつ高校生、大学生（複数名） 部活動や地域移行について、検討部会において意見交換をする。 その結果を資料にまとめ、代表者（数名）が検討委員会に出席し、報告する。
	委員	大学生	

<交代した委員> 任期：令和4年10月26日～令和5年3月31日

		氏名	役職
委員	せたがや文化財団	松下 洋章	事務局長
委員	世田谷区	片桐 誠	生活文化政策部長
委員	世田谷区教育委員会事務局	内田 潤一	生涯学習部長

別紙2

これまでの検討状況

回	日時	主な議題
第1回	令和4年10月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校部活動地域移行の制度理解について ・ 世田谷区立中学校の部活動の現状について ・ 地域移行の在り方について
検討部会	令和4年11月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討部会中学校の部活動に関する意見交換会 中学生の部 高校生・大学生の部
第2回	令和4年12月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生、高校生、大学生委員代表による意見の報告 ・ 部活動地域移行の検討の方向性について
第3回	令和5年1月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動地域移行のあり方検討（目指すべき地域移行の方向性） 地域資源を活用した地域クラブ活動のパターン ・ 地域移行に伴う諸課題について（検討部会の意見より） ・ 報告書の考え方について
第4回	令和5年2月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動地域移行のあり方検討（目指すべき地域移行の方向性） 教師等の兼業兼職 理念やキャッチフレーズ ・ 地域移行に伴う諸課題について
第5回	令和5年3月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動地域移行のあり方検討（目指すべき地域移行の方向性） 「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」 東京都中学校体育大会の大会実施要項の改定 アンケート結果 キャッチフレーズ ・ 地域移行に伴う諸課題について
第6回	令和5年6月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動地域移行に係るトライアル事業の取組みについて トライアル事業の実施状況 アンケートの質問内容 ・ 部活動地域移行に係るキャッチフレーズとその趣旨について

回	日時	主な議題
第7回	令和5年6月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動地域移行に係るキャッチフレーズとその趣旨について ・部活動地域移行トライアル事業のアンケート集計結果について ・部活動地域移行に関するアンケート(全生徒/保護者/教員向け)について
第8回	令和5年7月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動地域移行に係る検討委員会報告書(中間まとめ)について ・部活動地域移行に関するアンケート(全生徒/保護者/教員向け)について
第9回	令和5年9月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活動地域移行に係る検討委員会報告書(中間まとめ)」について ・来年度以降の取組みについて
第10回	令和5年11月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒等対象アンケート集計結果について ・来年度以降の取組みについて
第11回	令和5年12月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・区立中学校部活動に関する現状について ・他自治体における実施状況について ・報告書の最終まとめ案について
第12回	令和6年1月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書の最終まとめ案について

世田谷区立中学校部活動地域移行に係る
検討委員会報告書
(案)

令和6年●月

世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会

目 次

はじめに	3
第1章 世田谷区立中学校部活動地域移行に係る提言	5
世田谷区立中学校部活動地域移行に係る提言のイメージ	12
第2章 世田谷区における中学校部活動地域移行の検討	
2-1 検討委員会の立ち上げ	13
2-2 検討委員会における検討状況	14
第3章 区立中学校部活動における現状	
3-1 部活動の現状	15
3-2 ヒアリング、アンケートによる実態把握	16
第4章 区立中学校部活動地域移行に係る課題と検討	
4-1 部活動地域移行の課題	30
4-2 地域移行のためのトライアル事業の実施	32
第5章 今後に向けた検討と取組み	
5-1 トライアル事業の検証	36
5-2 世田谷区立中学校部活動の今後の方向性について	45
5-3 地域移行の「新たな価値」と「キャッチフレーズ」	46
5-4 今後の継続的な検討	47
資料編	50
資料1 世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会設置要綱	52
資料2 世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会委員名簿	54
資料3 検討委員会 これまでの検討状況	56
資料4 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的な ガイドライン【概要】(スポーツ庁・文化庁)	58
資料5 「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」 及び「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」について (概要版)(東京都)	59
資料6 区立中学校部活動における現状(令和6年2月)	62
資料7 部活動支援員学校別内訳(令和6年2月)	64

資料8 中学校部活動に関する中学生・高校生・大学生委員による意見	
(1) 意見交換会（検討部会）での意見.....	6 5
(2) 意見交換会後に寄せられた意見（回答シートの集計結果）.....	6 9
資料9 部活動地域移行トライアル事業に関するアンケート集計結果	
令和5年6月実施分.....	8 6
資料10 部活動地域移行トライアル事業に関するアンケート集計結果	
令和6年1月実施分.....	1 1 4
資料11 中学校部活動地域移行に関するアンケート集計結果	
(1) 生徒対象 アンケート結果.....	1 4 1
(2) 保護者対象 アンケート結果.....	1 4 7
(3) 教員対象 アンケート結果.....	1 5 6

はじめに

国は、少子化の影響による中学校部活動の持続可能性や、休日を含めた部活動の指導が、教員にとって大きな業務負担となっているなどの課題を踏まえ、スポーツ庁及び文化庁において検討会議を設置し検討を進め、令和4年6月に「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」、令和4年8月に「文化部活動の地域移行に関する検討会議提言」をそれぞれ取りまとめました。

また、スポーツ庁及び文化庁では、これらの提言を踏まえ、令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を取りまとめました。

このような国の動きもあり、令和4年10月に世田谷区でも外部有識者、学校関係者、地域クラブの代表者、文化財団、スポーツ振興財団の代表者などを構成とする世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会(以下「検討委員会」という。)を立ち上げ、世田谷区における中学校部活動の地域移行のあり方についての検討を始めました。

検討委員会では、学校の部活動が教員にとって大きな業務負担になっているという国の課題認識を共有したうえで、「部活動が何よりも生徒のためのものであり、それが地域クラブの活動に移行することは、生徒にとって、新たな出会いや期待、楽しみといった「新たな価値」をもたらすものであることが重要」という観点を最も大事にし、生徒のことを何よりも中心に考え、生徒にとってより良い「生徒を中心とすること(スチューデント・センタード)」を共通の視点として、これまで12回にわたり議論を積み重ねてきました。

検討委員会では、まずは当事者である中学生に加え、世田谷区立中学校で部活動を行っていた高校生や大学生の意見を聴くことから始めました。また、生徒や保護者、部活動の顧問教員を対象とするアンケート調査も実施し、当事者の声を聴きながら検討を進めました。

検討委員会では、これまでの議論の結果として、この部活動地域移行の取組みが、生徒にとって「新たな価値」を感じられるものとしていく必要があるとして、以下の6つの「新たな価値」を共有しました。

世田谷区 部活動地域移行の「新たな価値」

- 1 自己選択、自己決定、自ら選べる選択肢が今まで以上に広がる
- 2 よりよい指導環境、専門的な指導を継続的に受けられる
- 3 多世代の交流、世代を超えた地域の人々との交流の機会がある
- 4 多種目・多様な志向、スポーツ・文化の多様な経験と担い手の育成につながる
- 5 地域への誇りを感じられる
- 6 家庭や学校とは違う居場所がある（サードプレイス）

この度、これまでの検討委員会の議論のまとめとして、世田谷区の部活動を「生徒を中心とすること（スチューデント・センタード）」の考えを基本とし、これらの「新たな価値」を実現する活動とするために、部活動の地域連携や地域移行のあり方を提言として取りまとめました。

第1章 世田谷区立中学校部活動地域移行に係る提言

1 世田谷区の部活動地域移行・地域連携の進め方

「生徒を中心とすること（スチューデント・センタード）」の考えを基本とする「新たな価値」を前提に、部活動地域移行を進めていくとしながらも、世田谷区では、区立中学校及び部活動の数が非常に多いため、これら全てについて、直ちに、地域団体による活動に地域移行を実現することは難しいことは明らかです。

しかしながら、将来にわたって生徒が継続的に参加できる場を確保する方策を早期に検討し、着実に具体的な策を進めていくことが重要です。

このため、「教員のワークライフバランス推進のための部活動の地域連携」及び、「地域でスポーツ・文化に親しめる環境づくり」の2つの視点から、具体的な進め方を提言します。

（1）教員のワークライフバランス推進のための部活動の地域連携

世田谷区立中学校の部活動は、生徒の自主的、自発的な参加により行われているものであり、スポーツや文化、科学等に親しみ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するもので、学校教育の一環として位置づけられています。こうした部活動は、平日の勤務時間後の指導、土曜・日曜の休日の練習や大会引率だけでなく、大会の運営も生徒の成長を見守る教職員の大きな熱意と使命感によって支えられています。

学校の管理下で行われている部活動は、生徒にとっては学校の代表として大会に出場ができ、また、日頃から使っている校庭や体育館などの学校施設で活動ができるという安心感があります。

一方で、部活動を指導する教員の中には自身が経験したことのない競技や種目の顧問となり指導だけでなく審判を行うための講習を休日に受けたり、大会引率のために休日を返上し部活動指導に従事したりするなどしており、教員のワークライフバランスを見直す必要があります。

このため、当面は現在の学校の管理下での部活動を維持しながら、部活動の地域連携により、生徒が安心して活動でき、可能な限り教員のワークライフバランスの改善を図ることを提案します。

部活動の地域連携とは、部活動支援員制度を活用し、学校管理下での運営とし

ながらも、技術的な指導を出来る外部人材を配置することにより部活動を指導する教員の関与を減らし、教員の負担軽減を図ろうとするものです。

現在、部活動支援員を活用していない部活動は、まず、地域の指導者が生徒を教えるという仕組みを導入し、部活動を教員のみならず運営する形に、段階的に移行していく必要があります。

また、技術指導だけでなく教員が不在でも部活動指導や区大会・都大会への単独での引率可能な「監督」（部活動支援員の形態。以下同じ。）を配置することにより、部活動指導の一貫性と教員のワークライフバランスの改善を図ることができます。

また、複数の学校が協力して行う合同部活動、合同練習会、拠点校方式など、生徒が、自校の部活動に限らず他校の部活動に参加できる仕組みを取り入れることにより、生徒の活動の機会が広がるだけでなく、より専門的な指導ができる教員や部活動支援員の指導を受けられる可能性があります。

更に、例えば運動部活動の大会審判について、外部人材を活用することにより、引率を担当する教員や監督が引率業務に集中でき、生徒の安全な活動を確保することにもつながります。

このような部活動支援員制度をすべての希望する部活動で活用できるようにするためには、財政的な措置と人材確保の一層の強化を図ることが必要です。

<目指す姿>

○令和8年度までに、すべての学校で生徒が継続して専門的な技術指導を受けられる体制として、少なくとも土・日曜等の休日の部活動については、原則として単独での引率が可能な監督と技術指導を行う部活動支援員が協力して指導を行う体制を作ると同時に、教員が連続して5日を超えて連続して勤務している状況を解消し、教員のワークライフバランスの改善が図られていること。

○将来的には、平日、土・日曜ともに、可能な限り監督及び部活動支援員により部活動の指導が行われる体制が構築されていること。教員は管理顧問として、学校として必要な手続き等のみを行い、日常的な部活動の運営や保護者対応は監督及び部活動支援員が行うことにより、教員が学習指導や生活指導により集中できる体制となることが望まれる。

○主に教員が担っている大会の審判や大会運営については、競技団体や学生

団体、大会運営のノウハウを持つ民間事業者の協力により、教員の負担を軽減するだけでなく、生徒にとっても望ましい大会となるよう改善していくこと。

<実現に向けて留意すること>

学校の管理下で行われる部活動は、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、教育課程との関連が図られるよう留意する必要があります。このため、監督や部活動支援員が学校の教育方針を十分理解するとともに、教員が活動場所にいないことについて生徒や保護者の理解が得られるよう、十分に説明をする必要があります。

(2) 地域移行の実現による地域でスポーツ・文化に親しめる環境づくり

次に、学校の管理下から離れた活動を行っている地域クラブ活動に生徒が自ら選んで、学校の枠にとらわれず、地域活動としてのスポーツ、文化活動に参加することは、将来の地域を担う人材の育成にも繋がる可能性が大いにあることから、地域クラブ活動の運営や設立に区が積極的な支援を行うことを提案します。

地域クラブ活動と部活動との大きな違いは、地域クラブ活動が学校教育活動ではないため、学校の管理外の活動となる点です。学校の単位を基本とすることなく、複数の学校の生徒を対象とした地域クラブや、中学生に限らず小学生から成人まで幅広い年代を対象として活動する地域クラブもあります。

地域クラブ活動を通じて、生徒の自主性や自発性を発揮できることや、異年齢との交流の中で、生徒自身が活動を通じて自己肯定感を高めたりすることが出来ることは、学校の管理下で行われる部活動との違いはありません。また、地域クラブ活動に参加する場合には、学校と家庭とも異なる生徒にとっての第三の居場所を生徒は持つことになり、生徒の活動の場がより広がる可能性があります。

現在、世田谷区には10の総合型スポーツ・文化クラブがあり、また、地域で活動し、中学生が参加できるスポーツや文化の地域団体も多くあります。このような地域クラブの活動は、単に中学校部活動の受け皿としてではなく、地域の活性化にもつながる可能性があることから、地域クラブ運営への支援を図ることが必要です。

<目指す姿>

- 学校の部活動の受け皿となる活動を行う地域クラブの活動が安定し継続できるよう、令和8年度までに地域クラブ団体を対象とする補助制度を確立するとともに、学校施設の優先利用などの支援制度を整備していくこと。あわせて、経済的に困窮する家庭の生徒も学校の部活動と同様に安心して参加できるよう経済的な支援策についても整備を行っていくこと。
- 生徒が安心して地域クラブの活動に参加できるよう活動内容、指導体制や活動場所などの情報を集約し、発信していくこと。
- 放課後活動「STEP」を地域クラブ活動として、位置づけの変更を行うこと。
- 民間事業者の地域クラブへの参加を推進すること。
- 地域クラブ活動の充実のために、(公財)世田谷区スポーツ振興財団賛助会員の協力等により指導者の確保に努めるとともに、地域クラブ同士の交流や情報交換の場を持つこと。

<実現に向けて留意すること>

地域クラブの活動が安定的に継続して行われるためには、活動場所が確実に確保されていることが重要となります。このため、特に生徒が参加する地域クラブの場合には、校庭や体育館などの学校施設を優先的に利用できるよう配慮することが必要になります。その際、地域クラブの活動は学校の管理下で行われる活動ではないこととあわせて、その活動の責任の所在や事故の際の保険の適用等については、生徒や保護者に十分に説明をしていく必要があります。

また、教員が地域クラブの指導者として指導することができるよう兼職・兼業に関する取扱いを整理する必要があります。

2 地域資源の活用

(1) 総合型地域スポーツ・文化クラブについて

世田谷区では、令和6年3月現在、10団体の総合型地域スポーツ・文化クラブ(地域クラブ)があり、部活動の地域移行には、期待するところです。様々なスポーツを体験する東深沢中学校体力向上部で令和5年度に総合型地域スポー

ツ・文化クラブに指導を委託するトライアル事業を実施し、総合型地域スポーツ・文化クラブが学校の部活動の受け皿として相応しいことが分かりました。東深沢中学校体力向上部は、生徒が学校の部活動にはないスポーツや運動を行っており、大会参加を目指すものではありませんが、授業が始まる朝の活動に多くの生徒が参加していました。今後は、生徒の意向も十分に踏まえた上で、楽しむ活動に加えて各種大会への参加も目指した活動を行う総合型地域スポーツ・文化クラブを育成するなど、様々なタイプの総合型地域スポーツ・文化クラブの開設も望まれます。

(2) (公財) 世田谷区スポーツ振興財団について

(公財) 世田谷区スポーツ振興財団は、(公財) 世田谷区スポーツ振興財団賛助会員を有し、区内外のスポーツ事業にも精通し、全国のスポーツ団体とも連携していることや、中学生を対象とした自主事業も展開していることから、部活動の地域移行への協力については、大きな期待を寄せるものです。また、部活動の地域移行として自主事業を行うだけでなく、賛助会員を通じて様々な競技の指導者を監督や部活動支援員として派遣することにより、部活動の地域連携としての協力も期待できます。

また、指導者育成や、研修等についても、情報を共有しながら、地域移行や地域連携に欠かせない人材バンク機能等についても、区や教育委員会と課題を共有し、ともに解決を図っていくことを期待します。

(3) (公財) せたがや文化財団について

(公財) せたがや文化財団は、既に、演劇等の分野で、中学生を対象とした、ワークショップ等を実施しています。また、中学生を含む区民を対象とした、音楽、美術、演劇等の講座を、幅広く開催・提供しています。令和5年度のトライアル事業では、区立中学校全校から生徒を募集し、合同部活動の形式で演劇部の活動を行い、演劇部のない学校の生徒が参加することが出来ました。

引き続き中学生が、部活動に代わる地域での文化活動に参加できるよう、区、教育委員会とも連携し共有し、生徒や学校に対して、広く情報提供を行い、多くの生徒が演劇をはじめとする芸術文化の分野で参加する活動が一層充実されることを期待します。

(4) 大学との連携について

世田谷区は、区内(隣接を含む)に17にも上る大学(学部)があり、たいへん恵まれた環境にあります。既に、部活動支援員など、多くの大学生に協力をいただいています。今後、大学が設立する地域クラブと連携した地域移行や、教職

やスポーツ指導者を目指す学生の協力による地域連携についてより多くの取組みが行われることを期待します。また、特に将来教職に就くことを目指す学生がより多く参加できる仕組みを教育委員会や学校と連携して構築することを期待します。

3 地域移行の環境の構築

(1) 合同部活動・合同練習会、拠点校方式の導入について

合同部活動（合同チームによる大会参加）については、既にいくつかの学校の部活動で実施されていますが、今後、合同練習会、拠点校方式などの手法も更に研究しながら、実施していくことが望まれます。生徒が、自校の学校にない競技や種目を選択できるようになることや、よりよい施設環境で活動することができる可能性があります。

また、活動形態を工夫することで、専門的な技術指導が出来る指導者の確保が容易になったり、これまで学校単独では人数不足のために参加できなかった大会に参加できるようになったりする可能性もあり、特に少人数での活動を余儀なくされている学校間で協議を進めることが望まれます。

(2) 指導者の報酬について

地域クラブの活動に際し、指導者に対しての報酬は、一時的な活動ではなく継続した活動を維持していくためには、必ず支払う必要があります。生徒に対する、安全で適切な、責任ある指導を求めるためにも、指導者のボランティア(自発的、自由意志)のみを求めることなく、地域クラブ運営を民間企業、地域団体のいずれが行う場合も、指導者への適正な報酬を支払う必要がある点については、非常に重要です。

また、現在世田谷区では多くの部活動支援員を活用していますが、その報酬(時給)は、令和5年度現在、23区中17位となっています。交通費が支給されないことも部活動支援員の確保を難しくしている一因となっています。中学生の指導者として相応しい人材を確実に確保するための適切な報酬額の設定など、部活動支援員を確保するための取組が必要です。

なお、学校の教員が平日に部活動の指導を行う場合には、その指導が勤務時間外であっても手当を支給する制度とはなっていません。また、休日の練習や大会引率の場合でも交通費の支給もありません。このため、部活動指導を行う教員に対する適正な手当を支給するための制度改正を行うよう国や都教育委員会に対して要望するなど、部活動を指導する教員が適切に処遇されるようにすることが必要です。

(3) コーディネートを担う人材の配置について

部活動の地域連携や地域移行を行う場合、指導者の確保だけでなく、活動している地域クラブの情報を学校や生徒に紹介したり、学校施設の利用を学校と調整したりする「コーディネーター」の役割が重要となります。学校単位の活動だけでなく、区全体の活動を調整できるよう民間企業等への委託などの方法が考えられ、学校の負担軽減につながる可能性もあることから、コーディネーターの配置が望まれます。

少子化等の影響による生徒の運動や文化活動の体験機会の減少や、教員の働き方改革の観点から、持続可能な新たな活動のあり方として、現行の部活動を地域クラブ活動への移行を検討することは必要です。

今後、何よりも「生徒を中心とすること（スチューデント・センタード）」の視点を教育委員会だけでなく、学校、家庭、地域の方々、中学校の部活動に関わる全ての人が共有し、より良い方向に進めることが重要です。

世田谷らしい中学校部活動の地域移行を実現するために、当事者である子どもたちの意見や、幅広い多くの方の意見を取り入れながら、着実に生徒の新しい活動の場の整備が進められることを要望します。

世田谷区立中学校部活動地域移行に係る提言のイメージ

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
地域移行	<ul style="list-style-type: none"> ●部活動支援を行う団体への補助制度の確立 ●受益者負担となる場合、経済的に困窮する家庭の生徒への支援等の検討 				
	<ul style="list-style-type: none"> ●合同練習会、拠点校方式などの活動形態の導入 ●地域クラブによる「部活動に準ずる活動」の生徒に向けた情報提供。生徒の参加情報を学校に共有する仕組みづくり ●民間企業による部活動運営（部活動の地域クラブ化）の検討 ●教員が指導を行う場合の兼職・兼業の仕組みづくり ●STEPの地域クラブ化 				
	<ul style="list-style-type: none"> ●世田谷区スポーツ振興財団、総合型地域スポーツ・文化クラブ等による、地域クラブ活動の充実 ●部活動に準ずる活動を行う「地域クラブ」の情報収集、団体の育成・支援（生徒から関心の高い、魅力ある種目の展開） ●地域クラブの充実による部活動の整理 				
部活動の地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ●土・日曜の活動を、顧問が出勤せず、監督が指導を行う体制づくり 				
	<ul style="list-style-type: none"> ●監督が部活動運営を行い、平日、土・日曜ともに、顧問が部活動に参加しない体制づくり ●監督が大会引率を行う体制づくり ●大会の審判、大会運営スタッフを顧問教員に代行し対応する体制づくり ●部活動支援員配置のための、人材バンク機能の構築・運営 ●責任を持って任せられる部活動支援員（監督）の育成 				
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> ※中体連等の大会のあり方が整備された後、「大会に参加する部活動」の地域移行の方向性を改めて検討 </div>				

第2章 世田谷区における中学校部活動地域移行の検討

2-1 検討委員会の立ち上げ

国は、少子化の影響による中学校部活動の持続可能性や、休日を含めた部活動の指導が、教員にとって大きな業務負担となっているなどの課題を踏まえ、スポーツ庁及び文化庁において検討会議を設置し検討を進め、令和4年6月に「運動部活動の地域移行に関する検討会議提言」、令和4年8月に「文化部活動の地域移行に関する検討会議提言」がそれぞれ取りまとめられた。また、経済産業省では、地域×スポーツクラブ産業研究会が令和4年9月に「未来のブカツ」ビジョンを取りまとめている。

スポーツ庁及び文化庁では、前述の提言を踏まえ、令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（以下「総合的なガイドライン」という。）を取りまとめた。

総合的なガイドラインでは、改革の方向性としては以下が示されている。

- ① スポーツ・文化芸術団体との連携や保護者等との協力の下、学校と地域が協働・融合した形で環境整備を進めること。
- ② 地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等の関係者を集めた協議会などの体制を整備すること。
- ③ 指導者資格等による質の高い指導者の確保と、都道府県等による人材バンクの整備、意欲ある教師等の円滑な兼職兼業を行うこと。
- ④ 競技志向の活動だけでなく、複数の運動種目・文化芸術分野など、生徒の志向等に適したプログラムを確保すること。
- ⑤ 困窮家庭への支援を行うこと。
- ⑥ まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進。平日の環境整備はできるところから取り組み、休日の取組みの進捗状況等を検証し、更なる改革を推進すること。
- ⑦ 令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すこと。
- ⑧ 大会参加資格を地域クラブ活動の会員等も参加できるよう見直すこと。
- ⑨ できるだけ教師が引率しない体制を整備し、運営に係る適正な人員を確保すること。

なお、部活動の地域移行にあたっては、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の

持続可能で多様な環境を一体的に整備し、地域の実情に応じスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要とされている。

こうした背景から、世田谷区では、当区らしい中学校部活動の地域移行について検討を進めるため、令和4年10月に「世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を立ち上げ、検討を行った。

<資料1・2参照>

2-2 検討委員会における検討状況

検討委員会では、令和4年10月以降12回の会議を開催し、世田谷区に相応しい中学校部活動の地域移行のあり方を検討するため、部活動の現状を踏まえて、地域移行に向けた課題の整理を行った。<資料3参照>

部活動が地域に移行することについて、教員が部活動に関わる負担を軽減することで、教員の働き方改革を実現することはもとより必要である。

それとともに、世田谷区における部活動は、何よりも生徒のためのものであり、それが地域クラブの活動に移行することは、生徒にとって、新たな出会いや期待、楽しみといった「新たな価値」をもたらすものであることが重要である。

当検討委員会では、いつも、生徒のことを何よりも中心に考え、生徒にとってより良い「生徒を中心とすること（スチューデント・センタード）」の共通の視点から、議論が交わされた。

この部活動地域移行の取組みが、生徒にとって「新たな価値」を感じられるものとしていく必要があるとして、検討委員会で議論を重ねる中で、以下の6つの「新たな価値」が、導き出された。

世田谷区 部活動地域移行の「新たな価値」

- 1 自己選択、自己決定、自ら選べる選択肢が今まで以上に広がる
- 2 よりよい指導環境、専門的な指導を継続的に受けられる
- 3 多世代の交流、世代を超えた地域の人々との交流の機会がある
- 4 多種目・多様な志向、スポーツ・文化の多様な経験と担い手の育成につながる
- 5 地域への誇りを感じられる
- 6 家庭や学校とは違う居場所がある（サードプレイス）

こうした考え方に加え、令和4年6月に制定されたこども基本法を踏まえ、現役の中学生だけでなく、中学校で部活動を経験している高校生や大学生からの部活動に関する意見聴取を行い、子どもから直接意見を聞く機会も設けて、検討を行った。<検討部会における生徒等の意見については、資料8参照>

第3章 区立中学校部活動における現状

世田谷区では、世田谷区立学校管理運営規則（昭和53年世教委規則第7号）第27条において「中学校は、その管理下において、部活動を行う。」としており、29の区立中学校においては、20種類の運動系部活動、36種類の文化系部活動が行われており、令和6年2月現在で合計389の部活動が設置されている。〈資料6参照〉

3-1 部活動の現状

3-1-1 生徒の部活動への参加の状態

世田谷区立中学の全生徒のうち、男子で部活動に所属している割合は84%、所属していない割合は16%、女子で部活動に所属している割合は93%、所属していない割合は7%である。

また、部活動に所属している生徒のうち、運動系部活動に所属している生徒が68%、文化系部活動に所属している生徒が32%である。

男女別にみると、男子で、部活動に所属している生徒のうち、運動系部活動に所属している生徒が78%、文化系部活動に所属している生徒が22%、女子で部活動に所属している生徒のうち、運動系部活動に所属している生徒が57%、文化系部活動に所属している生徒が43%である。

〈資料6参照〉

3-1-2 世田谷区部活動の指導体制

中学校では、部活動を推進するために、部活動ごとに顧問教員を置き、部活動の指導を行っている。また、世田谷区では、部活動を支援するため「部活動支援員制度」を活用した取組みを行っている。

部活動支援員は、595人配置されており、その内訳は、監督¹172人、部活動指導員²423人となっている。（令和6年2月現在）³〈資料7参照〉

¹ 「監督」は、「世田谷区立中学校部活動支援員の設置及び活動に関する要項」で規定するものであり、顧問教員を置けない部活動において、管理顧問教員と協力して、必要な技術の指導を行う。また、練習試合や一部の大会において単独引率を行うことができる。

² 「部活動指導員」は、「世田谷区立中学校部活動支援員の設置及び活動に関する要項」で規定するものであり、顧問教員または監督の技術指導の補佐等の業務を行う。なお、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第78条の2で規定されている「部活動指導員」とは異なる。

³ 部活動支援員の報償費（令和5年度）（1時間あたり）監督1,500円 部活動指導員1,300円

また、部活動支援員を配置している部活動は、全29校の246部の部活動となっている。

部活動支援員は、地域の指導者や大学生のほか、(一財)東京学校支援機構(TEPRO)のサポーターバンク、(公財)世田谷区スポーツ振興財団のスポ・レクネット等の指導人材登録システム等を活用し、学校からの要望を踏まえて教育委員会が配置を行っている。

3-2 ヒアリング、アンケートによる実態把握

3-2-1 中学校へのヒアリング

区立中学校の部活動の実態を把握するため、全29校を対象に、調査及びヒアリングを行った(実施期間:令和5年12月~令和6年2月)。

(1) 部活動の基本情報

■顧問教員の人数

	顧問教員数	左記のうち競技等の経験がある人数
運動系部活動 計	503人	235人(46.7%)
文化系部活動 計	253人	73人(28.9%)
区立中学校 合計	756人	308人(40.7%)

■活動日

	平日 週1日	平日 週2日	平日 週3日	平日 週4日	休日も 活動あり
運動系部活動 計	2部	26部	132部	84部	208部
文化系部活動 計	37部	62部	21部	19部	30部
区立中学校 合計	39部	88部	153部	103部	238部

■部費の徴収(年額)

	部費の徴収が ある部活動	年額で ~5,000円	5,001円~ 10,000円	10,001円~ 20,000円	20,000円~
運動系	216部	154部	58部	4部	0部
文化系	66部	47部	15部	2部	2部
合計	282部	201部	73部	6部	2部

(2) 合同部活動

103の運動部及び吹奏楽部、演劇部で合同部活動を実施しており、うち18部(サッカー10部、野球8部)が合同チームを結成して大会に出場している。

合同部活動の有無や相手校は、部員数により、年度ごとに変化する場合もある。また、私立中学校と合同チームを組む例もある。

(3) 部活動支援員の配置

部活動支援員・監督を配置している部は246部あり、管理顧問として、部活動運営を概ね監督に任せている部も少数ではあるが、既にある。また、土曜・日曜の部活動について、管理顧問が不在で、監督が指導している部が、2部ある。

部活動の支援員は、平日の午後4時～6時の時間帯に従事できることが条件となるため、いわゆる勤め人の方には対応が難しい。最近では、フレックスや、在宅勤務なども一般化してはきたが、学生や高齢者以外の指導者は、比較的、配置が難しい。

<意見>

■大学生の支援員について

- ・大学生の支援員は、とても熱心で良い方も多いが、4年間で卒業してしまうので、持続性がない。
- ・大学生は、「行けるときに行く」というような感覚の方もいて、授業等の都合などで、急に欠席するなど、責任をもって任せられないこともある。
- ・大学生は、熱心に技術指導をしてくれているが、教員不在での活動を任せるとなると、不安要素が多い。そこまで重い負担を持つことに、学生にも不安があるのではないか。
- ・教員志望の大学生は、学校生活の中での部活動の意義もよく理解しており、安心して任せられる場合もある。

■謝礼について

- ・交通費の出るアルバイトと比較すると、謝礼が安く、余程、ボランティア意識の高い方でないと続かない。
- ・交通費が高くつき、指導の2時間の謝礼のうち、1時間分はほとんど交通費で消えてしまう。週に何日も来てもらうと、来れば来るだけ損をするような感じなので、申し訳なくて、頼めない。
- ・中学が、駅から遠く、バスを乗り継ぐなど、不便な場所にある。通うのに時間がかかる上に、謝礼の他に交通費が出るわけではないので、他の中学と違い、支援員の募集をしてもなかなか応募がない。

- ・土曜の練習を、顧問無しで任せられるような指導員は、区外の方も多く、良い人がいても、謝礼が安いと、他の区に取られてしまって、依頼できない。

■支援員全般について

- ・学校によっては、時間外講師、すまいるルーム（特別支援教室）の講師などが、兼ねて部活動支援員を行っている。こうした指導者は、生徒指導の考え方等をよく理解しており、部活動の指導を安心して任せられるため、教員は管理顧問として、部活動全体を支援員に任せ、実際には部活動指導・大会引率には関わっていない部もある。
- ・支援員の中には、厳しすぎる指導や暴言など、問題が発生する場合がある。世代の違いによる要因が多く、ベテランの指導者である場合が多い。問題解決には、校長・副校長や顧問が対応する必要があり、支援員を入れることで、かえって仕事が増える場合もある。

（４）大会参加について

大会を主催する中体連は、顧問の教員により運営されており、大会運営に係る業務は負担感が大きい。

なお、中体連主催の大会は、部活動の地域移行に伴い参加規定が変更されている面がありながらも、競技により引率の規定等が異なり、顧問教員が関わらない（または顧問不在の）部活動や、地域クラブによる参加の場合、現実的には参加できない競技もある。

<意見>

- ・大会で、上位大会に勝ちあがると、試合が続き、顧問が毎週、大会に引率しなくてはならない。
- ・大会の前日の土曜は、練習をしておかないと、（生徒が）けがをするなど危険がある。（その場合は、前後週の平日を休みにしている。）
- ・大会の引率者の条件は、大会主催者側が規定しているが、関東大会、全国大会などでは、教員もしくは部活動指導員（国の制度による会計年度任用職員）でないと引率ができない大会もある。
- ・支援員を増やしても、大会引率をすっかり任せることは難しい。
- ・大会の会場校になると、来校する生徒・引率者や保護者の対応が多くなりとても大変。
- ・吹奏楽部は、大会時には楽器の移動があり大変。経費もかかる。

(5) 大会審判について

運動部が大会に参加する場合、競技によっては、顧問教員が試合での審判を担当することがある。そうした競技の顧問に就くと、たとえ未経験の競技であったとしても審判資格を取る必要があり、また、講習受講料や資格取得・更新の費用、審判着の購入などの諸経費を全て、教員が自己負担している。

自校の試合が終了した後も他校の試合の審判を担当するために顧問だけ会場に残ることや、自校の試合のない日でも顧問は審判のために大会会場に出向く、ということがある。大会の開催期間は、自校の試合とは別に、数週間も続けて毎日曜に審判に従事する教員もいる。

<意見>

- ・顧問になると、経験していない競技の審判資格を取らなくてはならない。講習に参加したり、勉強して資格取得することが大きな負担。
- ・講習費用や、資格取得や更新の費用、審判着等の購入など、かなりな高額(数万円)を、全て教員が自己負担している。
- ・経験の浅い審判だと判定に対する保護者等観客からのクレームも多く、それによるストレスが大きい。
- ・他校の試合の審判をしなくてはならないため、自校の試合が終わった後も、生徒を待たせて(あるいは顧問教員のみ会場に残って)審判を行わなければならない。
- ・自校の試合がない時も、顧問は審判のために、日曜などに出向く必要がある。大会の期間は、自校の試合とは別に、何週間も続けて毎日曜に、審判に従事する教員もいる。

(6) 部活動全般について

学校ごと・部活動ごとに活動のスタンスに相違があり、①大会に参加し、より上位を目指す運動系部活動、吹奏楽部 ②大会参加に拘らず、スポーツや音楽に友達と取り組むことを楽しむ運動系部活動、吹奏楽部 ③文化系部活動 の概ね3つに分類できる。

傾向の違いには、必ずしも地域による特性があるとは言えないが、複数の部活動が①に属する学校が数校、また、突出して実力があり、継続して上位大会に出場する部活動も区内に数部ある。

一方で、②、③に属する部では、部員数がとても少ない部もある。

また、③のうち、日本文化(茶道、華道、和楽器等)の部活動等では、地域の指導者が、地域貢献活動の一環として、安定した指導を行っている部が少なからずあり、既に地域移行に近い形で、以前から活動を行っている。

<意見>

- ・教員の中には、土・日曜の勤務に難色を示す人もいる。地域移行の体制がまだ整っていないので、学校運営に苦勞する。結果、生徒にしわ寄せがいつてしまうことは望ましくない。
- ・近年は、部活動を持たせると、それが原因でやめてしまう教員も少なからずいる。特に、運動系部活動の経験がない教員に、大会のある運動部の顧問を担当させると、負担感が大きい。
- ・部活動顧問を熱心にやっている教員の意見としては、教員が部活動を担当することで報酬が出る仕組みをつくって欲しい、部活動支援員の報酬が教員の時間給よりも高くがっかりする、などの声もある。
- ・大会を勝ち上がるような運動部活動について、これまでの経緯などから保護者からの期待が大きく、運営形態を変えることが難しい中学校もある。

3-2-2 中学生、保護者、教員へのアンケート

区立中学校全29校の生徒、保護者、教員を対象にアンケートを行った。

○期 間 令和5年10月31日（火）～11月12日（日）

○回答数

- 1 生徒 7,664人（全生徒数約11,800人、回答率約65%）
- 2 保護者 2,650人
- 3 教員 372人（全教員数764人、回答率48.7%）

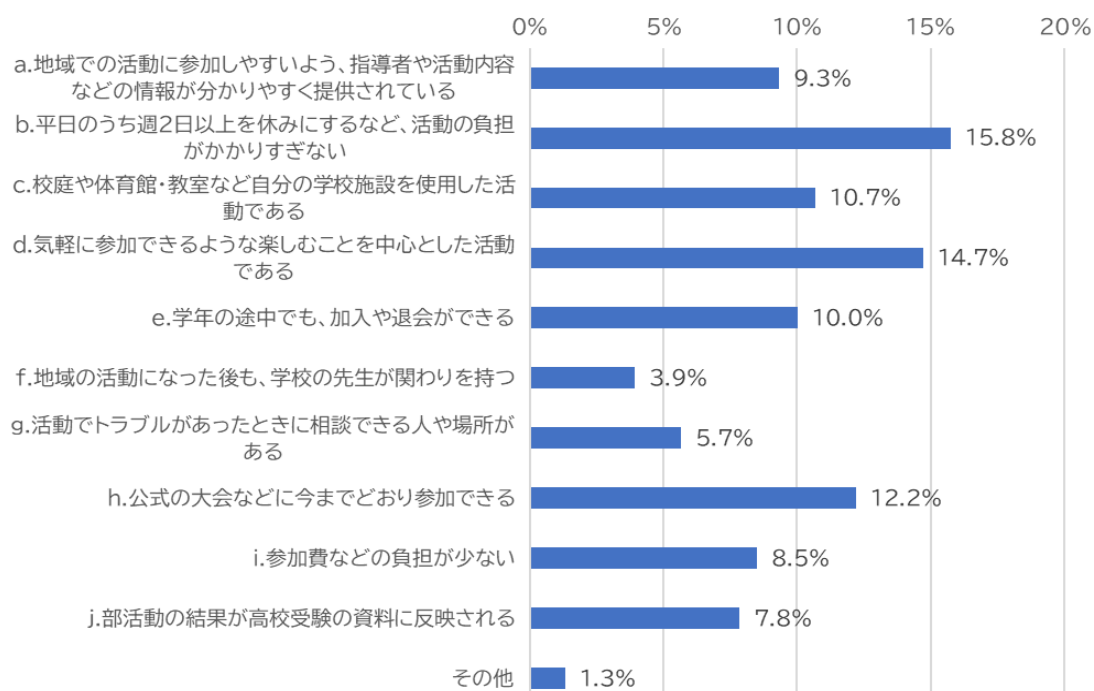
<アンケート結果の詳細は、資料10参照>

（1）生徒へのアンケート（回答）

「今の部活動に満足していますか」という設問に、合わせて87.7%の生徒が「満足している」「どちらかと言えば満足している」と答えている。

「部活動の地域移行をするときに、優先してほしいこと」について、①「平日のうち週2日以上を休みにするなど、活動の負担がかかりすぎない」部活動をしたい人が15.8%、②「気軽に参加できる楽しみを中心とした」部活動をしたい人が14.7%いる一方で、③「公式の大会などに参加できる」部活動をしたい人が12.2%いる。

部活動の地域移行をするときに、優先してほしいことを3つまで選んでください。（生徒が回答）



また、「学校で平日に行っている部活動とは別に、土・日曜日などに地域で行う活動があったら、参加してみたいと思いますか」という設問に、42.3%が「はい」と答えている。

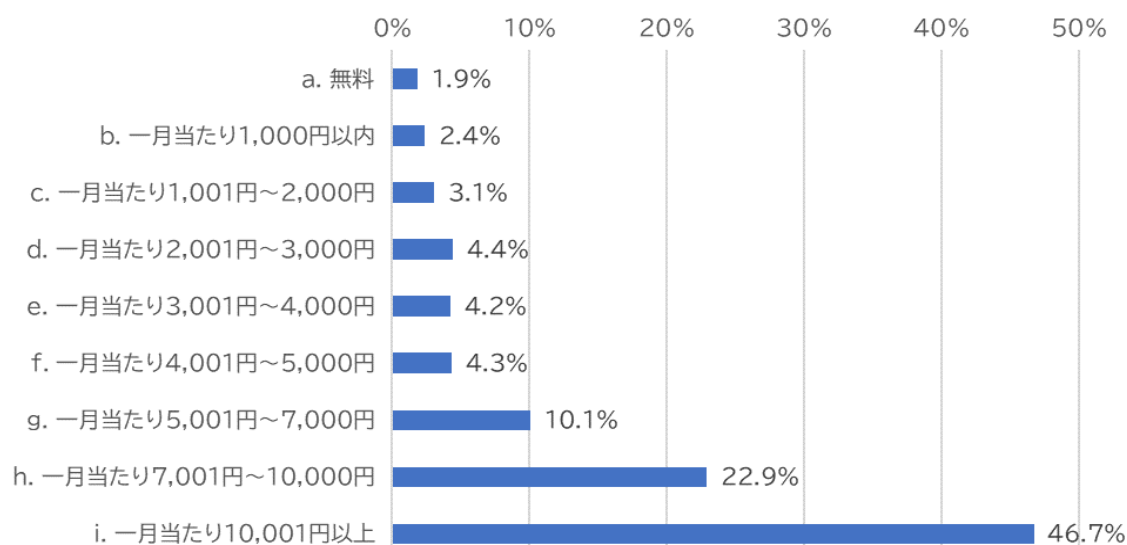
「中学生の間にやってみたい部活動」については、ダンスが最も多く全体の14%が、弓道は全体の約5%があげたほか、競技かるた、チアリーディング、軽音楽、空手、ラクロス、自転車、ゴルフ、天文、鉄道研究、登山、ジャグリングほか、多くの希望があがった。

(2) 保護者へのアンケート（回答）

「お子様は、学校の活動以外に地域やクラブチーム等の活動、習い事（学習塾以外）に参加していますか。」の問いに、38.3%が「参加している」と回答。

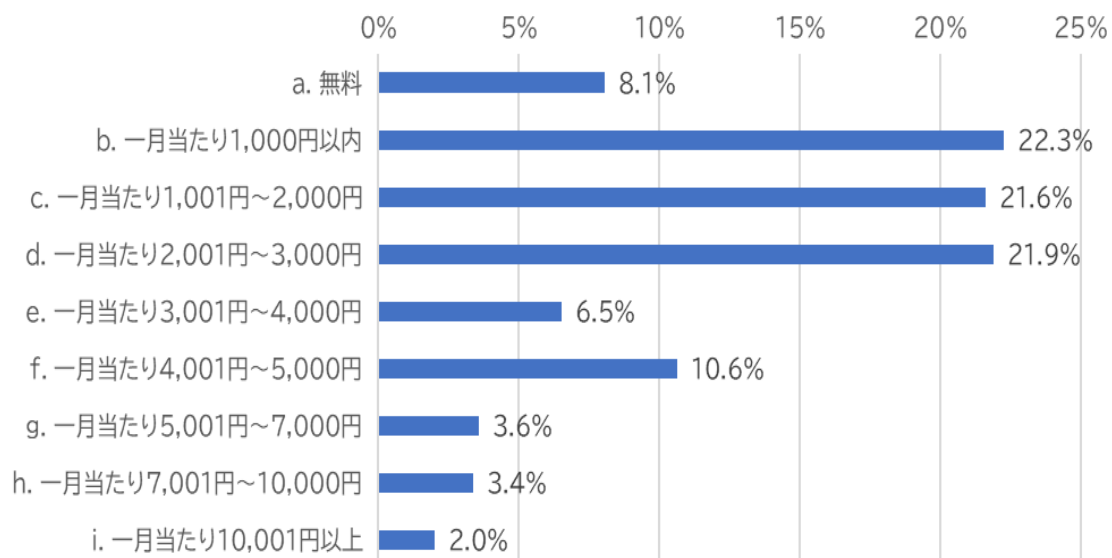
「一月当たりどれくらいの参加費用を支払っていますか。」には、「一月当たり10,001円以上」が46.7%、「一月当たり7,001円～10,000円」が22.9%、「一月当たり5,001円～7,000円」が10.1%だった。

一月当たりどれくらいの参加費用を支払っていますか。いくつかの習い事（学習塾を除く）に参加している場合は、一番高いものを選んでください。

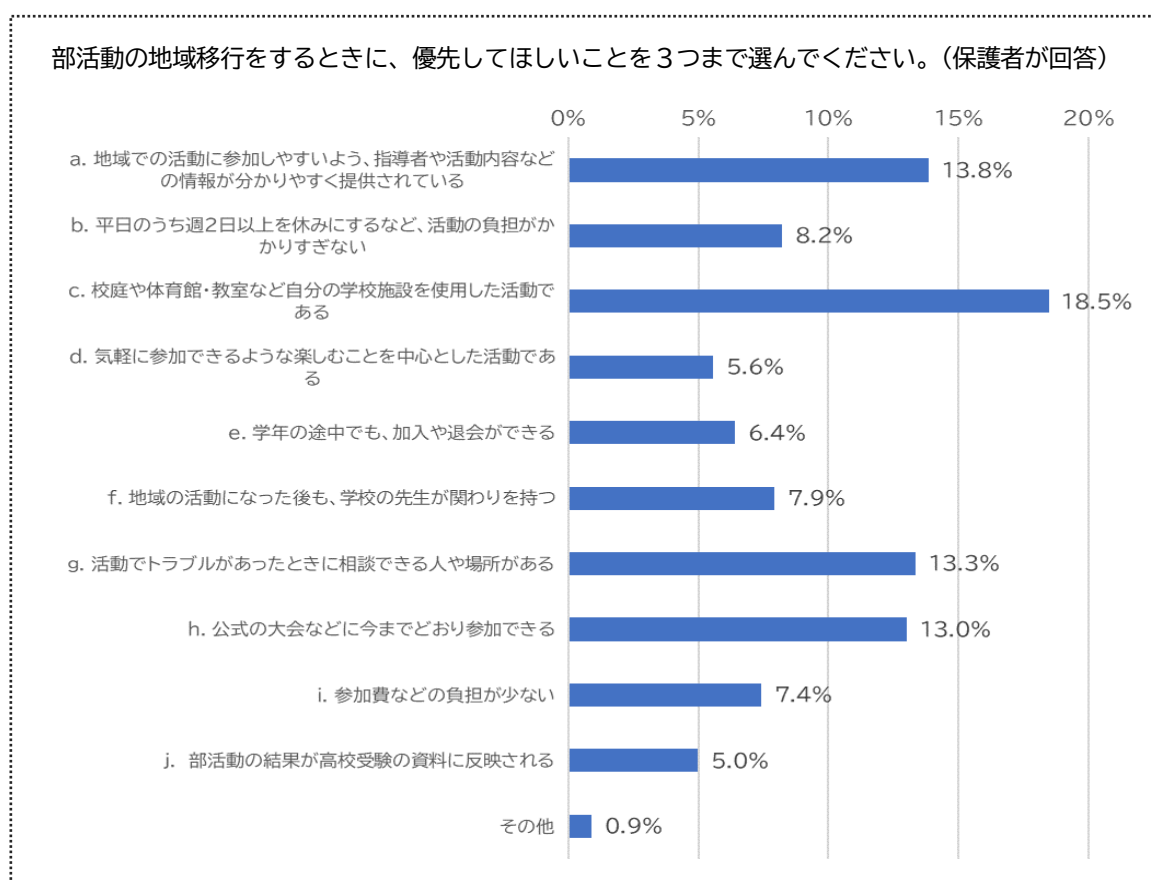


一方で、「今後、継続的な活動を維持するために、参加費、指導者に対する謝礼や施設利用料等の負担を参加者をお願いする場合があります。一月当たりどれくらいの費用が妥当だと思いますか。」という問いには、「一月当たり1,000円以内」が22.3%、「一月当たり2,001～3,000円」が21.9%、「一月当たり1,001～2,000円」が21.6%だった。

今後、継続的な活動を維持するために、参加費、指導者に対する謝礼や施設利用料等の負担を参加者をお願いする場合があります。一月当たりどれくらいの費用が妥当だと思いますか。



「部活動の地域移行をするときに、優先してほしいこと」については、①「校庭や体育館・教室など自分の学校施設を使用した活動」がよいと思う人が18.5%、②「地域での活動に参加しやすいよう、指導者や活動内容などの情報が分かりやすく提供されている」が13.8%、③「活動でトラブルがあったときに相談できる人や場所がある」が13.3%いた。



「優先してほしいこと」のその他の意見としては、

- ・ レベルを下げて欲しくない
- ・ 学校生活態度や教師や仲間との関わりの中で育むものなので、学校と切り離して部活をすることに強く反対
- ・ 指導者や活動内容などの情報公開、指導者資格や研修、負担にならない程度の費用、中体連の大会にも参加できるなど
- ・ 不登校の子でも参加できるような場所が欲しい
- ・ 文化系の部活は学校内だと吹奏楽や美術部に限られてしまうので、中学生でも軽音や文芸や映画など多様な選択肢があるとうれしい

等の意見があった。

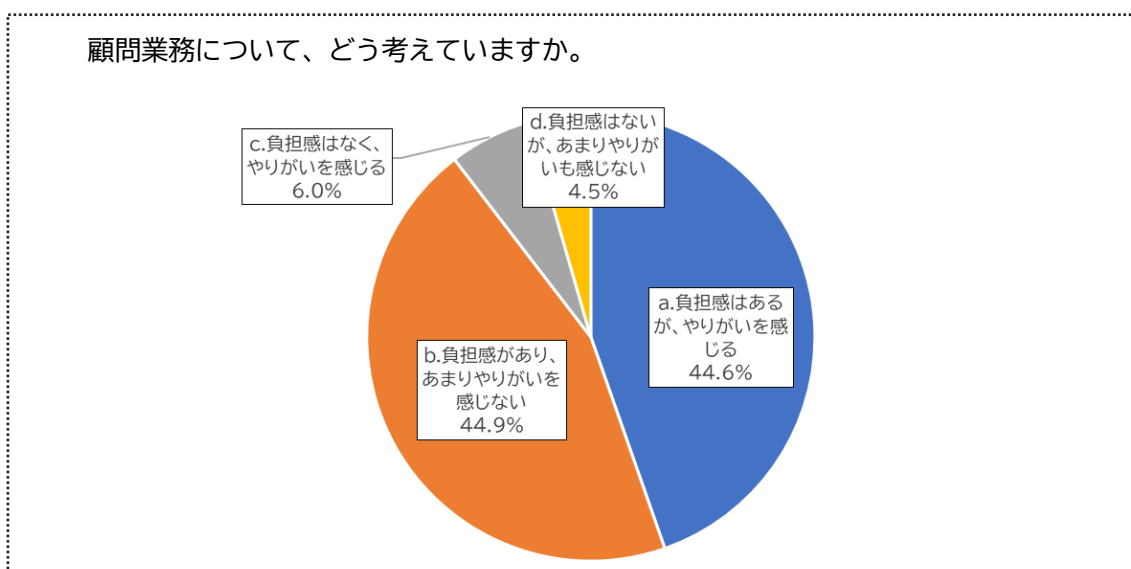
生徒が比較的、「楽しい、負担感のない活動」を選択した人が多いのに対し、保護者は部活動に厳しさを求める傾向があり、方向性の違いがみられた。

(3) 教員へのアンケート（回答）

教員では、「運動系部活動の顧問をしている」が59.9%、「文化系部活動の顧問をしている」が26.6%、「運動系と文化系の両方の顧問をしている」が3.8%で、「顧問をしている部活動について、中学、高校、大学等で競技者（選手・補欠を問わない）としての経験（文化系部活動の場合はその分野の経験）はありますか。」の問いには、「経験がある」が47.6%、「経験がない」が52.4%いた。

「顧問をしている部活動の技術的な指導は主に誰が行っていますか。」の問いには、「自分が行っている」が48.5%、「自分以外の顧問教員が行っている」が17.6%、「部活動支援員が行っている」が33.9%。

「顧問業務について、どう考えていますか。」には、「負担感はあるが、やりがいを感じる」が44.6%、「負担感があり、あまりやりがいを感じない」が44.9%、だった。



「大会や練習試合の引率業務は主に誰が行っていますか。」の問いには、「自分が行っている」が72%、「複数の顧問教員が交代で行っている」が11%、「部活動支援員が行っている」は1%だった。

「大会や練習試合の引率業務で、特に課題があれば教えてください。」の問いには、「休日に休めない」が27.2%、「休日に引率業務を行っても平日に代休

を取れない」が24.6%、「交通費が十分支給されない」が16.2%だった。

「自分自身が技術指導のできる競技等の部活動の顧問となることについて、教えてください。」の問いには、「部活動の顧問はしたくない」が36.3%、「平日だけであれば、顧問として部活動に従事してよい」が18.0%。

「技術指導者(部活動支援員)が配置されている部活動の顧問となることについて、教えてください。」の問いには、「部活動支援員が配置されている部活動であっても、部活動の顧問はしたくない」が35.2%、「平日だけであれば、顧問として部活動に従事してもよい」が21.8%だった。

「中学校の部活動が地域に移行された場合、教員の兼職兼業制度により、地域の指導者として関わりたいと考えますか。」には、「自分の経験や技術が行かされるのであれば、兼職兼業で指導を続けたい」が17.7%、「事故等に対する補償制度、振替休日制度が整っているのであれば兼職兼業で指導を続けたい」が20.7%だった。

教員については、部活動の顧問業務に、負担感がありながらもやりがいを感じている人が約半数いる一方で、休日の活動が特に大きな負担になっている点が伺える。

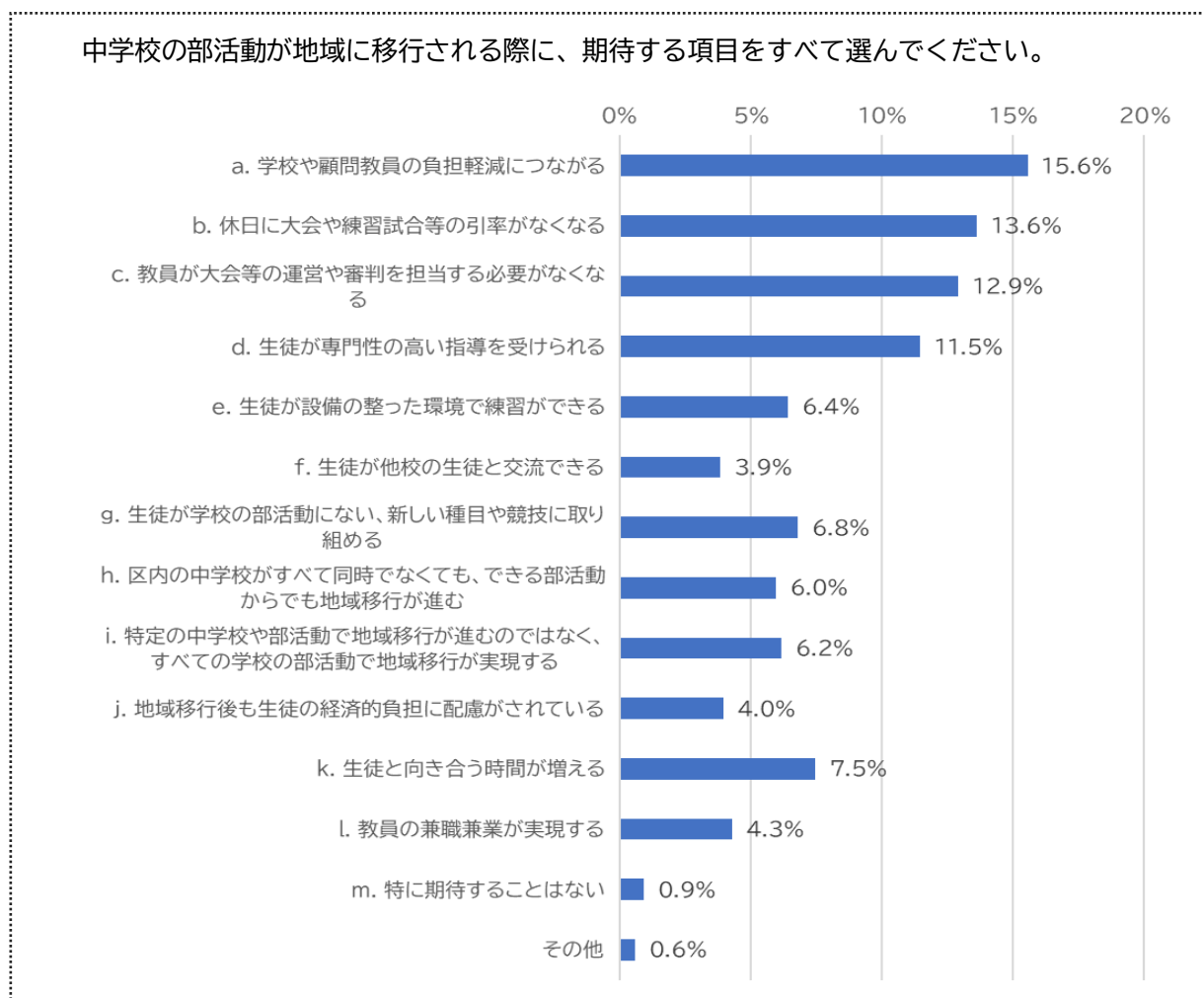
地域移行後も、兼職兼業による謝礼よりも振替休日により「きちんと休める」が重視されている印象がある。

また、活動に対して、制度上、報酬がない、または低額であること、さらに自己負担が生じること等への不満がみられる。

「中学校の部活動が地域に移行される際に、期待する項目を選んでください。」には、①「学校や顧問教員の負担軽減につながる」が15.6%、②「休日に大会や練習試合等の引率がなくなる」が、13.6%、③「教員が大会等の運営や審判を担当する必要がなくなる」が12.9%だった。

これに次いで、④「生徒が専門性の高い指導を受けられる」が11.5%、⑤「生徒と向き合う時間が増える」が7.5%だった。

「中学校の部活動が地域に移行される際に、懸念する項目を選んでください。」の問いには、①「参加者の募集や地域活動を担う団体等との調整があり、教員の負担軽減につながらない」が25.3%、②「地域に移行された活動であっても、活動中の事故等の相談が学校に寄せられる」が23.6%だった。



(4) その他

生徒、保護者、教員に同様の設問として、「部活動の活動場所が勤務校以外の

施設（区の競技場や他の中学校等）を利用する場合に、移動の手段として自転車利用についてどう思いますか。」と聞いた。

これに対し、生徒は89.3%、保護者は86.6%が「各家庭の判断での自転車利用を認めてほしい」としている。また、教員は64.8%が「各家庭の判断での自転車利用を認めた方がよい」としている。

3-2-3 検討部会の実施（中学生、高校生、大学生の意見）

検討委員会では、「生徒を中心とすること（スチューデント・センタード）」の視点を重視しながら、部活動の地域移行を検討するにあたり、部活動の当事者の意見を知るため検討部会を開き、中学生、高校生、大学生から中学校の部活動についての意見を聞いた（実施日：令和4年11月17日）。

当日は、中学生8名、高校生3名・大学生3名から、率直な意見を聞くことができた。

さらに、第2回検討委員会（令和4年12月20日）に代表として中学生、高校生、大学生それぞれ2名に出席いただき、委員との意見交換を行った。

<意見の詳細は、資料8参照>

■中学生からの意見

部活動への希望としては、

- 「休みが規則正しくあった方がよい」「勉強との両立を図りたい」という意見の一方、「練習の機会・時間がもう少し増やせるとよい」という意見もあった。
- また、「もっと大人の指導を受けたい。相談をしたい。」「同じ実力のある者同士でチームを組みたい。同じ実力のチームと試合をしたい」という意見のほか、「やる気が上がるような環境（設備の充実）」を望む声もあった。

部活動の地域移行については、

- 合同部活等については、「他の学校とプレイできるのがいい」「他校の交流は良いが、人間関係が大変そう」「合同チームはカラーが違って、かみ合わない」などの意見があった。
- 指導者については、「顧問が熱心なので、指導者が変わると残念」「レベルの高い指導を受けられるのはよい」「複数の指導者から指導を受けることになり、意見が違ふと迷ふと思う」などの意見があった。
- その他として、「吹奏楽部は楽器の運搬があるので大変」「交通費が負担になる」「挨拶や礼儀の指導がなくならないようにしてほしい」などの意見があ

った。

■高校生・大学生からの意見

部活動の地域移行についての意見として、

- 合同部活動については、「他校との実力差の解消。レベルアップが期待できる」「初めてのメンバーでは気を遣う」「違う中学との練習は刺激があるが、意見の違いが出てくるのでは」「交通費は負担だ」といった意見があった。
- 指導者については、「実力ある指導者の指導を受けられるのはよい」という意見があった。
- その他として、「活動が厳しくない部活があってもよい。」「自由に参加できる部活があるとよい。スポーツ自体を純粋に楽しみたい人もいた」「(多世代による活動は)小学生、高校生とはレベル差の課題がある」といった意見があった。

第4章 区立中学校部活動地域移行に係る課題と検討

4-1 部活動地域移行の課題

地域移行を進めていく際には、生徒にとってプラスとなる「生徒を中心とすること（スチューデント・センタード）」の視点で進めていく必要がある。

また、これまで中学校の部活動は、学校教育活動の一環として学校の管理下で行われてきていることを踏まえ、仮に部活動が学校からは切り離された活動とされる場合に、どのような課題があるか事前に十分検討し、生徒や保護者、活動の受け皿となる団体等と事前に共通理解を得た上で対応していく必要がある。

これまでの検討委員会においては、世田谷区が部活動の地域移行を検討するにあたっては、以下の課題が想定されることが示されており、今後も継続して課題を把握するとともに、一つ一つ確実に対策を講じていく必要がある。

(1) 生徒、教職員、保護者及び地域への周知について

- a. 生徒たちが不安にならずに、部活動の地域移行に明るいイメージを持ち、正しい理解ができるよう、分かりやすく情報を伝えていくこと
- b. 教職員への情報提供を的確に行うこと
- c. 地域の協力を得られるよう、地域住民や団体への情報提供を行うこと

(2) 指導者について

①指導者の質の確保

(ア) 専門性や資質・能力を有する指導者の確保

- a. 指導者の養成や資質向上の取組み
- b. 指導者は、生徒を安全・健康管理等の面で支えるため、また、文化芸術活動では著作権の研修等が必要
- c. 指導者同士の情報共有の仕組みづくりが必要

(イ) 体罰・ハラスメントの防止

- a. 練習が過度な負担とならないようにすること
- b. 生徒の安全の確保や暴言・暴力、行き過ぎた指導、ハラスメント等の行為の防止

②指導者の量の確保

- a. 部活動支援員の制度を充実し、PRを強化
- b. 部活動支援員を中心とした人材バンクの整備
- c. 退職教師、企業関係者、スポーツ推進委員、大学生・高校生、保護者な

ど、様々な関係者から指導者を確保

③教員等の兼職兼業及び労務管理

- a. 地域クラブ活動での指導を希望する教師等の兼職兼業に関する規程や許可基準等の整備
- b. 教師等の勤務校業務への影響、健康への配慮と適切な労務管理

④指導におけるハラスメント等の対策

- a. 指導者に行き過ぎた指導やハラスメントが見られた場合に、生徒や保護者が相談できる窓口の設置
- b. 相談を受け、各団体等と連携しながら対応する仕組みの検討

(3) 会費・経費の負担について

- a. 地域クラブ活動では、会費等の負担が生じる可能性があること
- b. 経済的に困窮する家庭の生徒に対しする支援等の検討

(4) 保険の加入について

- a. 指導者、生徒等の怪我等を補償する保険や個人賠償責任保険の種類や費用負担
- b. 学校管理下での事故に対する災害共済給付制度との格差

(5) 学校との連携等について

- a. 活動方針や状況、スケジュール等の調整
- b. 部員の募集、トラブル等への対応
- c. 個人情報管理の仕組みの検討

(6) 大会参加や大会運営について

- a. 大会等への参加資格
- b. 教員の引率や大会運営に係る負担軽減

(7) 地域団体の支援や民間企業等の参入について

- a. 地域の各種スポーツ団体や文化活動団体等の協力を得るための支援
- b. 民間企業やNPO法人等が中心となる活動の参入の可否

(8) 学校外施設利用

- a. 学校以外の施設を利用する場合に施設利用料の負担

- b. 学校以外の施設を利用する場合の移動時の自転車利用
- c. 学校以外の施設を利用する場合の移動に係る費用負担

世田谷区の地域資源

- ・ 総合型地域スポーツ・文化クラブ 10クラブ（令和6年3月現在）
- ・（公財）世田谷区スポーツ振興財団
- ・（公財）せたがや文化財団
- ・（公財）世田谷区スポーツ振興財団賛助会員 49団体
- ・ 区内及び隣接の大学（17大学・学部）
- ・ スポーツクラブ（区内15か所、周辺区4か所）
- ・ 中学生の放課後活動支援（STEP） 17校
- ・ NPO法人や、各種区民団体 等

上記をはじめ、地域でのスポーツ・文化活動を支える地域資源が多くあるが、これらの団体等が部活動地域移行に参入するためには、その活動を支える補助制度等の構築が必要となる。

4-2 地域移行検討のためのトライアル事業の実施

検討委員会の議論において、部活動の地域移行を進める際には、多様な実施主体の選択肢があること、また、実施主体や方式によって異なる課題が生じることが指摘された。

これを踏まえ、今後の円滑な地域移行に向けた事業検証のため、地域資源を活用したトライアル事業を令和5年度に実施している。なお、現時点においては、指導者や生徒の事故やケガの際の保障の問題や、大会参加の要件等について十分に整理されていないことから、トライアル事業で行う活動は、学校の管理下において行う活動と位置付けている。

4-2-1 トライアル事業の実施状況

①（公財）世田谷区スポーツ振興財団によるトライアル事業

i) 顧問に代わり外部指導員が指導する部活動トライアル（指導者派遣型）

目的：現在の学校部活動をベースに、顧問に代わり外部指導員が部活動指導を行う。「よりよい指導環境、専門的な指導を継続的に受けられ

る」活動の新たな価値を検証する。

対 象：船橋希望中学校 ソフトテニス部

部員数：41人（令和5年4月時点）

会 場：船橋希望中学校ソフトテニス部が活動する場所

活動日：週2日間 1回2時間程度

指導者：ソフトテニス連盟の指導者を主に、大学生、財団職員など

大会の引率：中学の要望に合わせ対応

検 証 項 目	生徒の満足度、指導の適切さ、学校施設利用の適切さ、学校との調整の課題、必要経費、等
対応する課題	(2) ① (ア) (イ)、 (2) ②、 (5) a, b. ※主に、専門性の高い指導者の確保、外部指導員を中心とした部活動における顧問のあり方等を検証

ii)運動部の合同部活動トライアル（合同部活動型・教員の兼職イメージ）

目 的：通常の部活動に加え、週1日程度、競技専用の環境で2つの中学校が合同の部活動を行う。「よりよい指導環境、専門的な指導を継続的に受けられる」活動の新たな価値を検証する。

対 象：砧中学校・船橋希望中学校 陸上部

部員数：船橋希望中学校陸上部 51人

砧中学校陸上部 45人 計96人（令和5年5月時点）

会 場：総合運動場グラウンド

活動日：週1日間程度（火・土・日のいずれか） 2時間程度

指導者：上記部活の顧問が合同・交代で指導

各指導者がそれぞれ得意とする陸上種目を指導する

その他、大学生、財団職員、専門の指導員なども一部指導に参加

大会の引率：合同部活動では大会参加なし

検 証 項 目	生徒の満足度、指導の適切さ、施設利用の満足度、移動の課題、学校との調整の課題、教員の負担、合同部活動の課題、等
対応する課題	(2) ① (ア) (イ)、 (2) ②、 (2) ③、 (8) b, c. ※主に、教員等の兼職兼業につながる課題、学校以外の施設への移動時の課題等を検証

②（公財）せたがや文化財団によるトライアル事業

●文化系の合同部活動トライアル（合同部活動型・地域移行のイメージ）

目的：区内全中学の希望する生徒を募集し、複数の学校で合同の部活動を行う。「自己選択、自己決定、自ら選べる選択肢が今まで以上に広がる」地域クラブ活動の新たな価値を検証する。

対象：区内全中学から希望する生徒

部員数：15人（11校の生徒が参加、令和5年5月確定）

会場：パブリックシアターを中心に、学校施設も利用

活動日：土・日・祝日のいずれか。2時間程度

指導者：演劇活動の専門家等による指導

活動内容：合同部活動で4つのワークショップ(初夏・夏休み・秋・冬)を行う。秋のワークショップでは、計16日間の練習をし、区大会で発表する。

検証項目	生徒の満足度、指導の適切さ、施設利用の満足度、移動の課題、学校との調整の課題、合同部活動の課題、等
対応する課題	(2)①(イ)、(2)②、④、(4)、(8) ※主に、専門性の高い外部指導者による指導のあり方、学校以外の施設への移動時の課題等を検証

③総合型地域スポーツ・文化クラブによるトライアル事業

●学校と連携して活動する「地域クラブ活動」トライアル（指導者派遣型・地域移行のイメージ）

目的：中学校を拠点として活動する総合型クラブが学校と連携する「地域クラブ活動」のあり方を探る。「多世代の交流、世代を超えた地域の人々との交流の機会がある」「多様目・多様な志向、スポーツ・文化の多様な経験と担い手の育成につながる」地域クラブ活動の新たな価値を検証する。

対象：東深沢中学校 体力向上部

部員数：45人（令和5年4月時点）

会場：東深沢中学校

活動日：火、水、金曜 午前7時20分～午前8時

指導者：総合型クラブの指導者（地域の指導者、中学の卒業生など）

大会参加等：なし

体力向上部とは：早朝に活動する部活動で、受験生等の体力維持の他、他の運動部との兼部の生徒も在籍。障害走、筋トレ、縄跳び、バドミントン等、複数種目を実施。総合型により、種目増加も見込んでいる。

検 証 項 目	生徒の満足度、指導の適切さ、学校との調整の課題、総合型での運営上の課題・区の支援のあり方、等
対応する課題	(2) ① (イ)、 (2) ②、 (5)、 (7) a. ※主に、指導者の確保・研修、学校との連携・調整、地域団体への支援のあり方等を検証

第5章 今後に向けた検討と取組み

5-1 トライアル事業の検証

トライアル事業の検証として、アンケートを2回実施した。

(1) トライアル事業に関するアンケートの実施

○実施期間：1回目 令和5年6月14日～22日<資料9参照>

2回目 令和6年1月15日～26日<資料10参照>

○対象者：トライアル事業の対象部活動の生徒、顧問教員、指導者

○回答数：下表の①は1回目、②は2回目の回答者数を表す。

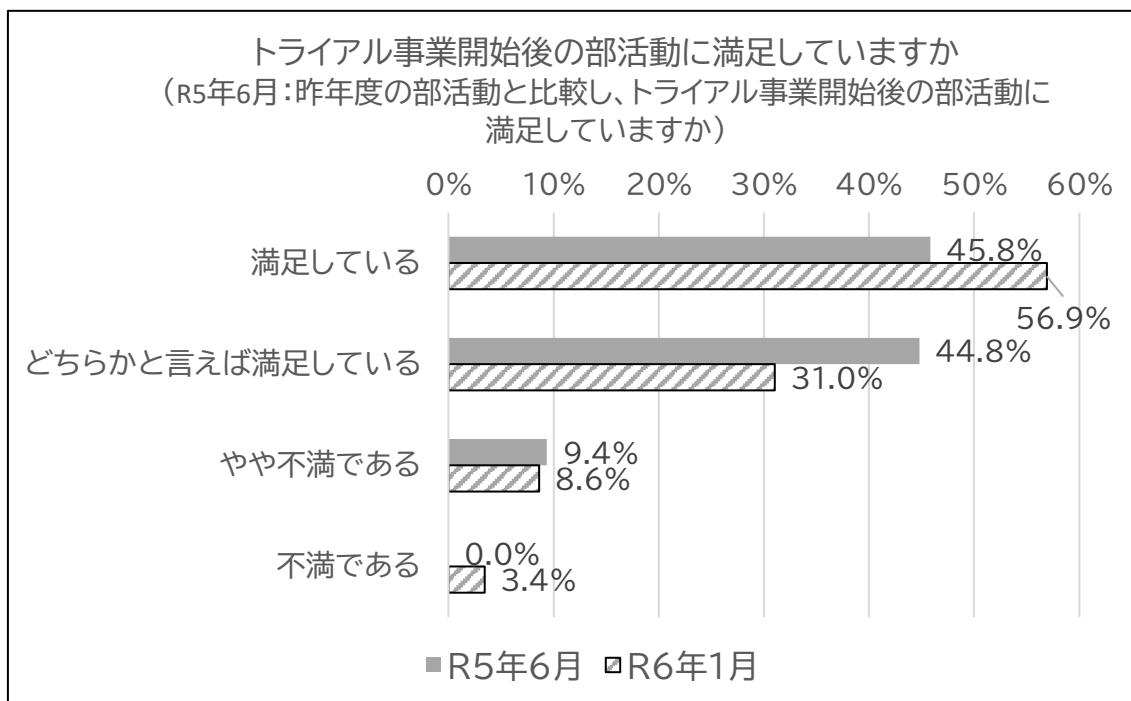
※2回目実施時は、部活動を引退した3年生を対象としていない。

部活動名	生徒 回答数	顧問教員 回答数	指導者 回答数
東深沢中学校 体力向上部	①38人 ②20人	①1人 ②1人	①7人 ②4人
船橋希望中学校 ソフトテニス部	①20人 ②19人	①1人 ②1人	①2人 ②3人
砧中学校 陸上競技部	①37人 ②7人	①2人 ②2人	①6人 ②3人
船橋希望中学校 陸上競技部	①45人 ②12人	①1人 ②0人	

(2) 主な回答内容(抜粋) <詳細は、資料9・10参照>

■生徒を対象としたアンケート回答

①生徒の満足度



※令枝5年6月実施時には「中学1年生または今年4月以降に入部」の選択肢を設定した。
上記グラフでは、この選択肢を選択した人数を母数から除外して割合算出している。

生徒の回答では、トライアル事業開始後の新たな形式での部活動の満足度を昨年度の部活動と比較した場合、1回目の回答では、合わせて90.6%が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答している。

2回目の回答では、「満足している」が56.9%に伸び、「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせると87.9%となった。

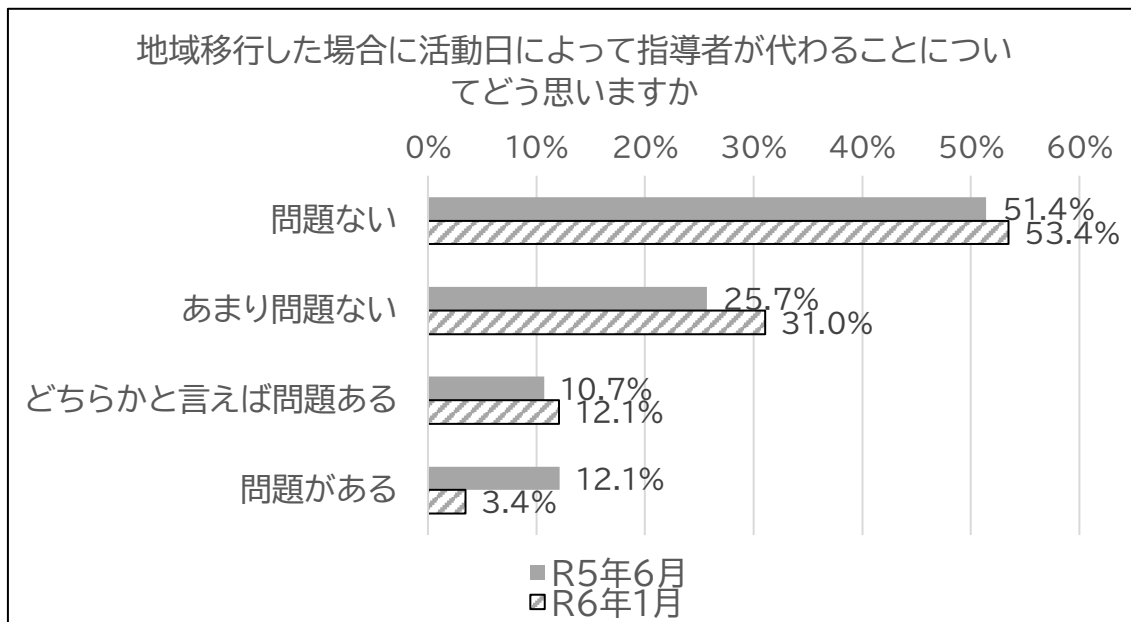
(満足している/どちらかといえば満足している、の理由)

- ・専門的なことを学べるから
- ・的確な指導を受けられるから
- ・他校との生徒と一緒に練習をすることで常にライバル心を持ち、大会でよい記録が出そうになるから。
- ・実際の大会の場所で練習ができる。 など

(やや不満である、の理由)

- ・部活の終わる時間が遅くなり、塾に間に合わない。
- ・場所が遠いから6時間授業の後に歩いて行くのが大変。 など

②指導の適切さ



活動日によって指導者が代わる場合があることについては、「問題ない」「あまり問題ない」と回答した生徒が、1回目では合わせて77.1%、2回目では合わせて84.4%と向上している。

(問題ない／あまり問題ない、の理由)

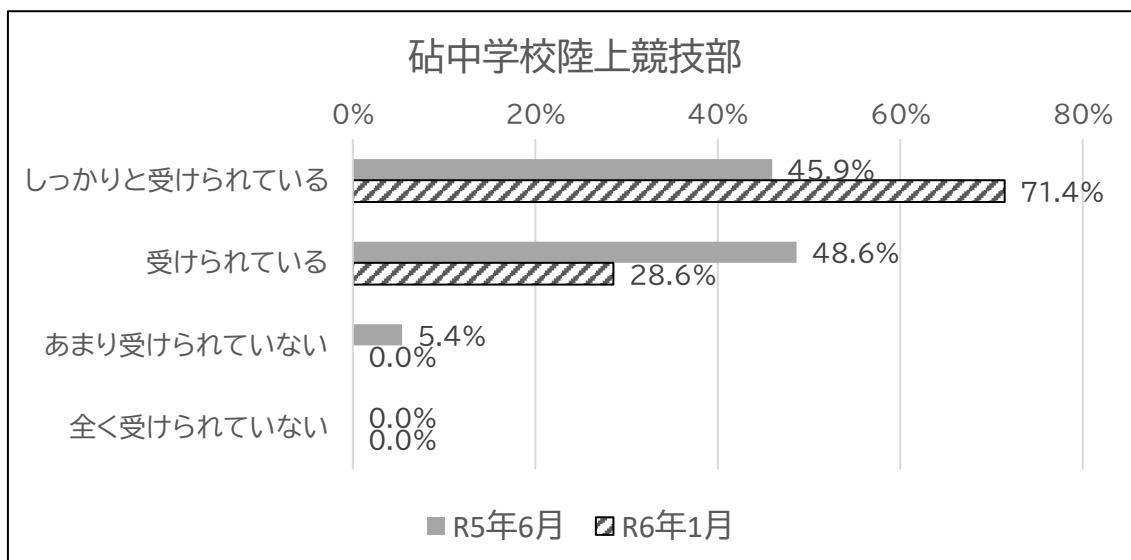
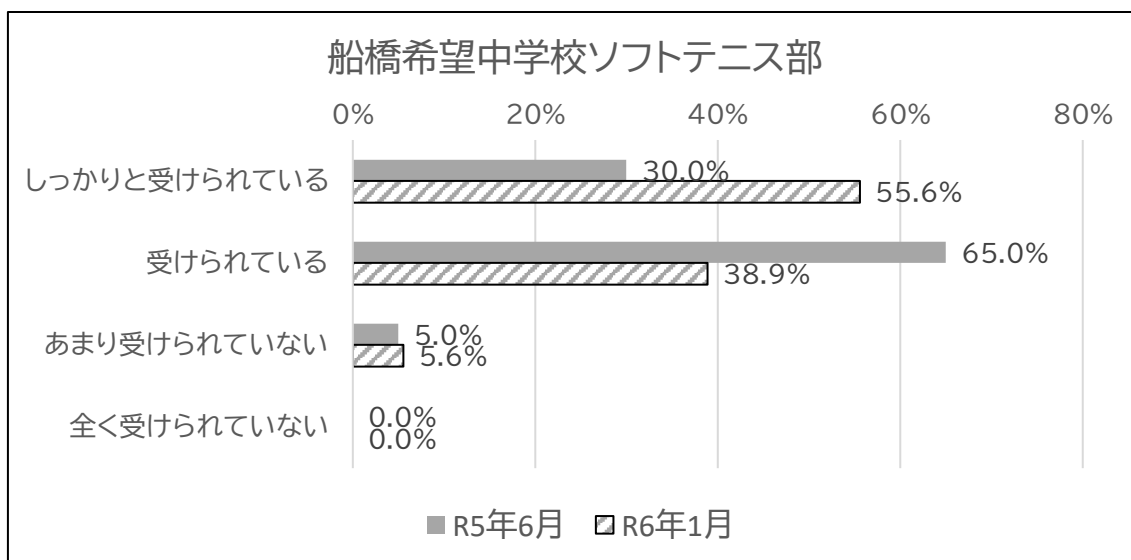
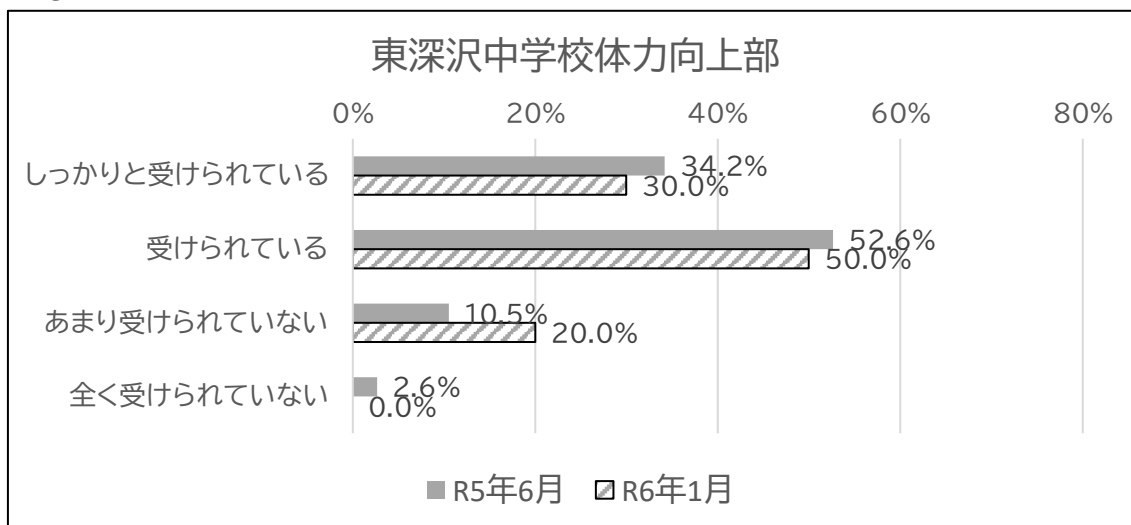
- ・いろいろなコーチの指導を受けられるのはいいことだと思うから。
- ・自分にあった指導者を見つけることができるから。
- ・指導者によって知識も考え方、教え方も違って、色々なことを学べると思う。 など

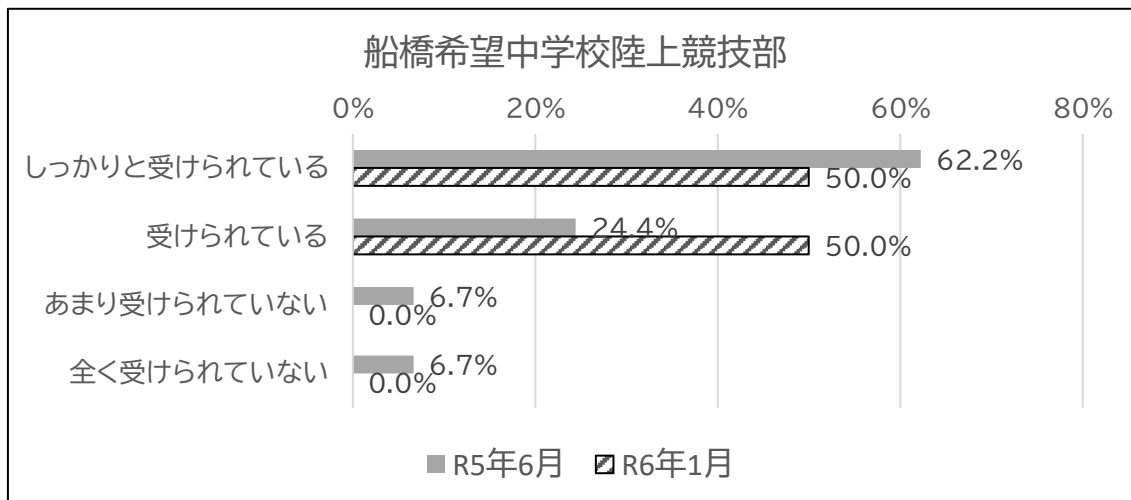
(どちらかと言えば問題ある／問題がある、の理由)

- ・教え方にも個人差があるし考え方にも差があるから。
- ・コーチによって練習内容が分からなくなる時があるから。
- ・同じ指導者から受ける方が、一貫性があるから。 など

他校の生徒と一緒に活動や、外部指導者が複数いる体制による活動等も、運営側が工夫しながら対応していくことで、生徒にとって、満足度の高い活動となることが推察される。これにより、合同練習会、拠点校方式等も、選択肢の一つとして有用であると考えられる。

③より満足のいく指導が受けられているか





「トライアル事業では、より満足のいく指導が受けられているか」との問いに、「しっかりと受けられている」「受けられている」と回答した生徒が、平均9割を上回る。

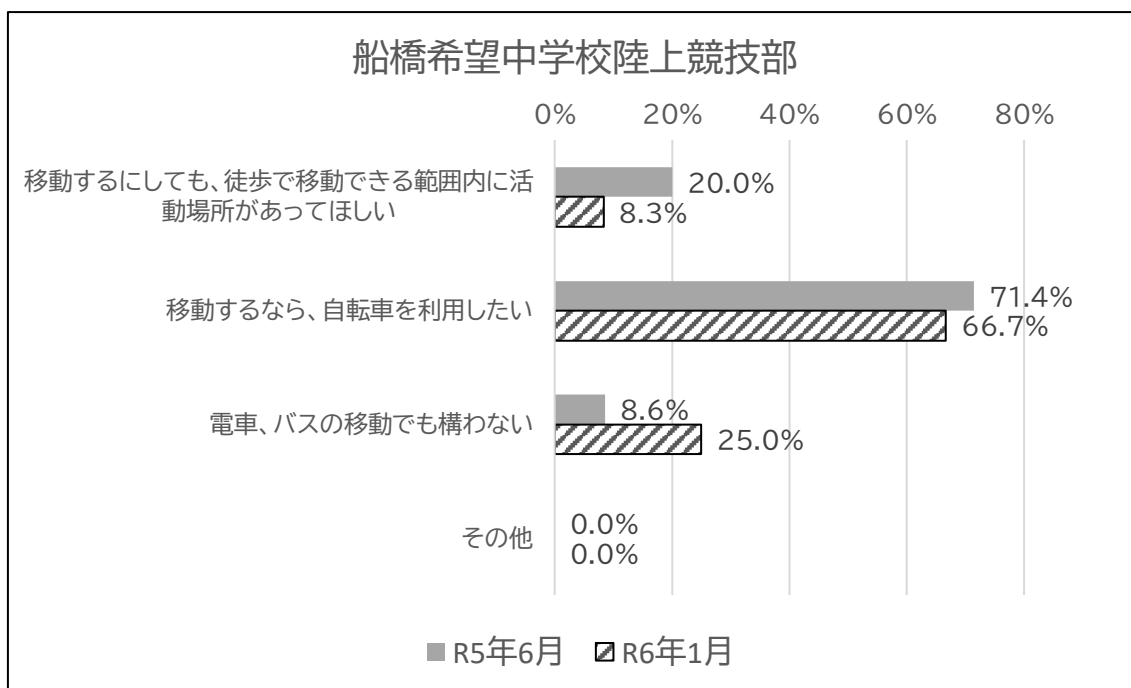
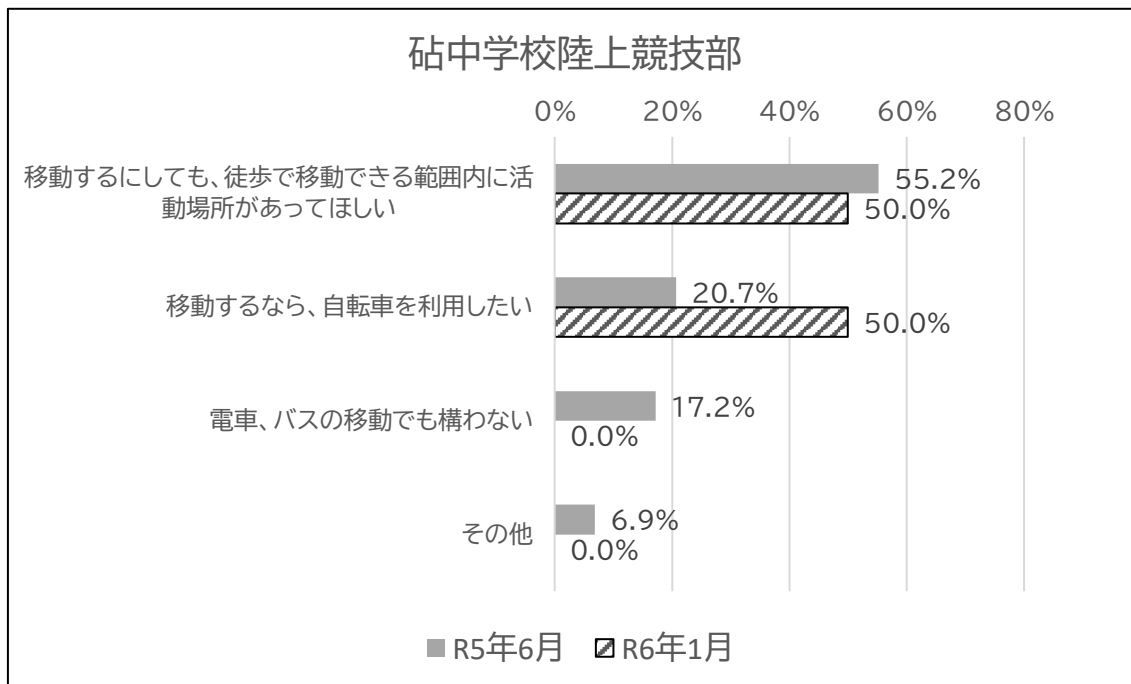
東深沢中学校体力向上部では、「しっかりと受けられている」「受けられている」を合わせると、1回目では86.8%、2回目は80.0%と下降した。

船橋希望中学校ソフトテニス部では、「しっかりと受けられている」「受けられている」を合わせると、1回目では95.0%、2回目は94.5%と概ね同等だが、「しっかりと受けられている」だけを見ると1回目30.0%が2回目55.6%と、大きく向上しており、満足度の高さが伺える。

陸上競技部については、「しっかりと受けられている」と回答した生徒が、砧中学校では1回目は45.9%、2回目は71.4%、船橋希望中学校では1回目は62.2%、2回目は50.0%であった。「受けられている」と回答した生徒が、砧中学校では1回目は48.6%、2回目は28.6%、船橋希望中学校では1回目は24.4%、2回目は50.0%であった。

この合同部活動は、現行では、合同部活動において顧問教員による指導を継続しており、生徒から教員への信頼度が高い一方で、教員の負担軽減には課題が残る。なお、実施の途中から、外部指導員も指導に加えている。

④移動の課題



「学校外のグラウンドや施設まで移動することについて」の設問には、8割弱の生徒が「設備が充実した施設で活動できるなら、移動してもよい」「どちらかと言えば移動してもよい」と回答している。

「移動してもよい」「どちらかと言えば移動してもよい」と回答した人に、移動の手段について質問したところ、砧中学校では50.0%（2回目）、船

橋希望中学校では66.7%（2回目）が「移動するなら、自転車を利用したい」と回答している。

なお、陸上競技部トライアルでは、1回目のアンケート実施後に、「自転車での移動」を検証の1項目として、試行した。

合同練習会等の移動手段については、「自転車を利用した移動」が課題であるが、前述の全校へのアンケートで、生徒、保護者が約9割弱、教員では約6割が「各家庭の判断での自転車利用を認める」ことに肯定的な見解を示している。合同練習会等を実施していく中で、自転車移動を許容することは必要なのではないかと思われる。

また、「交通機関を利用する際の交通費の負担」も課題となる。

■顧問教員・外部指導者を対象としたアンケート回答（自由記述）

①教員の負担

■ 1回目

<顧問教員>

- ・外部指導者が指導を行うことにより教員の負担軽減につながっている。
- ・指導する生徒が増え負担軽減につながっていない。（顧問が合同部活動で直接指導している陸上競技部）

<外部指導員>

- ・「教員の負担軽減につながっていると思うか。」の質問に、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答が8割以上あった。

■ 2回目

<顧問教員>

「教員の負担が軽減している」

- ・部活動に合わせて出勤はしているが、準備から終了まで全てお願いできる状況にあり、事務作業等が可能となった。
- ・見通しを持って専門的な指導をしてもらえる。部活動の時間でも、授業の準備や生徒指導など、本来の業務ができる。

「教員の負担が軽減していない」

- ・教員が指導を行なっていて、他校の生徒も見なければならず、負担が軽減したようには見えない。（陸上競技部）
- ・練習が引率を必要とする点や、終了時刻が遅いなど、負担が増えている。
「部活動の地域移行」を本当の意味で実現するためには、教員の引率な

どの業務をなくす必要がある。(陸上競技部)

<外部指導員>

「教員の負担が軽減している」

- ・早朝のクラブで、地域の指導者が鍵の開け閉めと指導を行っており、先生の出勤時間が緩和された。
- ・顧問の先生が他の業務に関われる時間が増加している。
- ・顧問教員は、部活動の時間は部活動以外の業務する時間に充てることができると思う。
- ・指導プログラムの作成については軽減できていると思う。
- ・種目ごとに分かれて指導をする事になっているので、みる生徒の数が減る事で負担が減っている。(陸上競技部)
- ・活動に遅れて参加する場面でも、外部指導員とのコミュニケーションによって負担が減っているように感じる。(陸上競技部)

②学校との調整の課題

■ 1回目

<顧問教員>

- ・地域移行した場合に、家庭との連絡を誰がどのように行うのか。

<外部指導員>

- ・「学校との意思疎通は図れているか」の質問に、「できている」「概ねできている」の回答が8割以上あった。

■ 2回目

<外部指導員>

- ・顧問とは話をしているが、管理職とはあまり話をしていない。解決策としては、少なくとも月1回以上の関係者の会合が必要。

③これからの部活動をさらにより良いものにするために、必要だと考えられる事柄

■ 2回目

<顧問教員>

- ・個人情報取り扱いのルール化。
- ・怪我の対応や、生徒のモチベーション維持を含めた運動技術面だけでない指導の知識。
- ・その競技の経験のない先生でも顧問ができるように、競技の指導は外部指導者の方に一任できる体制が必要と思われる。

④地域移行に関する取組みについての意見

■ 1回目

<顧問教員>

- ・指導者を確保し続けることができるのか。

<外部指導員>

- ・平日に指導する人材の確保が難しい。

■ 2回目

<顧問教員>

- ・休日も指導していただけるとうれしい。
- ・オリンピック出場経験のある選手を招いてのクリニックは、生徒がいつも以上に前向きに取り組んでいた。そうした取り組みが増えるとよい。
- ・地域移行であれば、中心となって指導をする先生にも謝礼金があってもいいかと思う。
- ・来年度は参加校も増えた状態で練習ができると嬉しい。
- ・外部の指導者に教員と同じような権限を与え、引率や指導にあたってもらえるようなシステムの構築が必要。

<外部指導員>

- ・現在の中学校での基準（例えば、生徒の呼び方等）について、明確にさせていただくとよい。指導者の基準で指導してしまうことがあるため。
- ・地域移行した際の活動場所が不安という声があるのと、指導者不足は感じる。

「専門性の高い外部指導員の確保」「外部指導員と学校の調整（連携）」が、今後の課題となる。

専門性の高い外部指導員の確保にあたっては、適切な報償費が必要であり、民間、非民間に関わらず、どのような団体が実施する場合も、必要とする経費として指導員配置の経費（人件費）の投入が前提となる。

また、地域移行を進めていく中で、前述の教員へのアンケートの中でも、「地域移行される際に、懸念する項目」として、「参加者の募集や地域活動を担う団体等との調整があり、教員の負担軽減につながらない」（25.3%）があげられているが、教員の負担を軽減するために、調整機能（コーディネート）を教員以外が行う仕組みづくりが必要である。

今回のトライアル事業では、年度を通して実施したが、生徒の満足度は概して、高いものであった。

合同部活動や、地域の指導者による部活動運営については、生徒の需要にあったものであれば、受け入れられるものと考えられる。実施を通しての、指導・運営側の課題やその解決方法、ノウハウの共有等により、今後の地域移行事業に生かして欲しい。

5-2 世田谷区立中学校部活動の今後の方向性について

世田谷区には、豊富な地域資源が存在する。地域行政制度に基づき、区民の参加と協働によるまちづくりを進める世田谷区として、地域団体等の協力のもと、本来の意味での地域移行を進めていくことが望ましい。

しかしながら、世田谷区の区立中学校数は29校あり、部活動の種類、数も、他自治体に比較し非常に多いため、部活動の地域移行に向けては、生徒をはじめ学校、保護者や地域団体等のあらゆる関係者の意見を十分に把握し、丁寧に検討を行っていく必要がある。

これまでの検討委員会で出された意見やトライアル事業の検証状況を踏まえて、令和6年度に引き続き新たな検証を行いつつ、並行して、部活動の地域連携も進め、部活動の地域移行を着実に進めることが望まれる。

5-2-1 引き続き検証すべき課題等

現行のトライアル事業では検証できない課題、及び検証が短期間では困難な課題については、以下のとおりである。引き続き次年度に、実証的な活動を通して、課題解消を目指していく必要がある。

課題番号	内容
(2)	指導者の質の確保、指導者の量の確保 ※体罰・ハラスメントの防止・対策
(3)	会費・経費の負担
(4)	保険の加入（一部についてはトライアル事業で検証可能）
(6)	大会参加や大会運営
(7) b.	民間企業やNPO法人等が中心となる活動の参入の可否
(8) a.	学校外施設利用（施設利用料の負担）

5-3 地域移行の「新たな価値」と「キャッチフレーズ」

＜「新たな価値」（目指すべき方向性）について＞

この「地域クラブ活動への移行」の取組みは、中学生の活動場所が学校から地域に移るといった単なる空間の変更を意味するものではなく、未来の中学校のあり方にも大きく影響を与えるものとする。そのため、この取組みが、生徒、保護者、教師、地域の人々にとって、「新たな価値」を感じられるものとしていく必要がある。こうした点について検討委員会にて議論を重ねた結果、以下の「新たな価値」があるとの結論に至った。

「新たな価値」

- 1 自己選択、自己決定、自ら選べる選択肢が今まで以上に広がる
- 2 よりよい指導環境、専門的な指導を継続的に受けられる
- 3 多世代の交流、世代を超えた地域の人々との交流の機会がある
- 4 多種目・多様な志向、スポーツ・文化の多様な経験と担い手の育成につながる
- 5 地域への誇りを感じられる
- 6 家庭や学校とは違う居場所がある（サードプレイス）

以下では、この6つについて簡単に解説をする。

- 1 自己選択、自己決定、自ら選べる選択肢が今まで以上に広がる

世田谷区は大規模自治体であり、区内に多様な資源（場所、プログラム、指導者等）が存在し、様々な機会を保障することができる。その機会を生徒自らが主体的に選ぶことにより、活動により積極的に参加する可能性がある。

- 2 よりよい指導環境、専門的な指導を継続的に受けられる

世田谷区には、特定種目の専門的な知識・技能を有している方が多く在住しており、発達段階を踏まえた一貫した指導体制とその環境が整えられる可能性がある。

- 3 多世代の交流、世代を超えた地域の人々との交流の機会がある

- 4 多種目・多様な志向、スポーツ・文化の多様な経験と担い手の育成につながる
- この2つの点については、まとめて説明する。

地域クラブ活動にて、多様な世代と交流する、多種目を経験する、多様な志向を持つ人に触れるといった経験の広がりが想定される。また、こうした経験を得た生徒が、地域スポーツや文化の担い手にもなっていく可能性がある。

5 地域への誇りを感じられる

これまで多くの生徒は、ユニフォームに学校の名前を付けて試合に臨んだり、学校単位での発表や演技をしたりしてきた。今後は、地域の単位で試合や発表会に臨むことになり、地域への誇りを感じるようになる可能性がある。

6 家庭や学校とは違う居場所がある（サードプレイス）

中学校の部活動は「小学生のための学童保育」と類似した機能も果たしており、放課後、安全で安心できる貴重な居場所でもある。生徒にとって、地域クラブ活動がもう一つの居場所となる可能性もある。

<キャッチフレーズの設定の必要性について>

検討委員会では、多くの関係者にこの「新たな価値」をご理解いただくためにも、意味を端的な言葉で表現した「キャッチフレーズ」が必要であると考え、以下のような「キャッチフレーズ」を定めることにした。なお、「キャッチフレーズ」を定めるにあたり、全体を包摂する大項目と、個別具体を示す小項目とに区分している。

大項目【3つのキャッチフレーズ】

- ・つながる新たな仲間の輪、広がるスポーツと文化の世界
- ・生徒の可能性を広げる地域クラブ活動
- ・学校と地域で生徒をともに育て成長していく

小項目【6つのキャッチフレーズ】

- ・なりたい自分に一歩前進、自分で選べる地域クラブ活動（価値1に対応）
- ・生徒の発達に見合った専門的な一貫指導の実現（価値2に対応）
- ・3つの多（多世代交流・多種目・多様な志向）をめざす地域クラブ活動（価値3・4に対応）
- ・セタガヤプライド（価値5に対応）
- ・もう一つ居心地のいい場所見つけ（価値6に対応）

5-4 今後の継続的な検討

少子化等の影響による生徒にとっての運動や文化活動の体験機会の確保や、教員の働き方改革から、現行の部活動を地域クラブ活動へと移行する動きの中

で、地域クラブへの移行を検討していく中では、ここに地域で関わる方たちの意識や意向を尊重し、考慮していく必要がある。

今後、何よりも「生徒を中心とすること（スチューデント・センタード）」の視点から、より良い環境の整備を進めていくためには、さらに議論を深めることが重要である。

世田谷らしい中学校部活動の地域移行を実現するためには、次年度以降も何らかの形での検討組織を設け、当事者である子どもたちの意見や、幅広い多くの方の意見を取り入れながら、検討を継続するべきである。また、発展的には、関係部署や関係者による協議会を設け、情報提供、意見交換の場とすることが必要である。

世田谷区立中学校部活動地域移行に係る
検討委員会報告書
(案)

資料編

世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会報告書(案)

資料編 目次

資料1	世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会設置要綱	5 2
資料2	世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会委員名簿	5 4
資料3	検討委員会 これまでの検討状況	5 6
資料4	学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的な ガイドライン【概要】(スポーツ庁・文化庁)	5 8
資料5	「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」 及び「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」について (概要版)(東京都)	5 9
資料6	区立中学校部活動における現状(令和6年2月)	6 2
資料7	部活動支援員学校別内訳(令和6年2月)	6 4
資料8	中学校部活動に関する中学生・高校生・大学生委員による意見 (1) 意見交換会(検討部会)での意見 (2) 意見交換会後に寄せられた意見(回答シートの集計結果)	6 5 6 9
資料9	部活動地域移行トライアル事業に関するアンケート集計結果 令和5年6月実施分	8 6
資料10	部活動地域移行トライアル事業に関するアンケート集計結果 令和6年1月実施分	1 1 4
資料11	中学校部活動地域移行に関するアンケート集計結果 (1) 生徒対象 アンケート結果 (2) 保護者対象 アンケート結果 (3) 教員対象 アンケート結果	1 4 1 1 4 7 1 5 6

資料1 世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会設置要綱

○世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会設置要綱

令和4年10月26日

4世教生第1354号

改正

令和5年5月30日5世教地第173号

世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会設置要綱

(目的)

第1条 中学校部活動における地域移行において、世田谷区の中学校部活動の地域移行のあり方等を総合的に検討することを目的に、世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次の事項について総合的に検討する。

- (1) 中学校部活動における地域移行を円滑に進めること
- (2) 中学校部活動における地域移行において、部活動の内容のさらなる充実を図ること
- (3) その他、中学校部活動の充実に関すること

(委員構成等)

第3条 委員会は、別表に掲げる者をもって、教育長が委嘱し、又は任命する委員で構成する。なお、それ以外に教育長が必要と認めた者を妨げない。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から令和6年5月31日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長が指名し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、議事を主宰する。

2 委員会は、委員の2分の1以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(検討部会)

第7条 委員会は、検討部会を置くことができる。

2 検討部会は、委員長の指名する者をもって組織する。

(事務局)

第8条 委員会の事務局は、教育委員会事務局学校教育部地域学校連携課に置き、委員会の庶務等を処理する。

(委任補足)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和4年10月26日から施行する。

附 則(令和5年5月30日5世教地第173号)

この要綱は、令和5年5月30日から施行する。

別表(第3条関係)

委員
学識経験者 3名
総合型地域スポーツ・文化クラブ代表 1名
地域団体関係者 1名
保護者代表 2名
区立中学校校長 2名
区立中学校教員 1名
せたがや文化財団事務局長
世田谷区スポーツ振興財団事務局長
スポーツ推進部長
生活文化政策部長
学校教育部長

資料2 世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会委員名簿

(令和5年度・敬称略)

		氏名	役職・所属等
委員長	有識者	近藤 智靖	日本体育大学児童スポーツ教育学部児童スポーツ教育学科教授
副委員長	有識者	細越 淳二	国土舘大学文学部教育学科教授
委員	有識者	芳地 泰幸	日本女子体育大学体育学部健康スポーツ学科 准教授
委員	総合型地域スポーツ・文化クラブ	岸田 耕治	東深沢スポーツ・文化クラブ 副会長
委員	地域団体	宮幸 朱美	青少年船橋地区委員会副会長
委員	保護者	栄 裕美	世田谷区立中学校PTA連合協議会会長
委員	保護者	松浦 和輝	笹原小学校PTA会長
委員	区立中学校校長	加藤 敏久	区立砧中学校校長
委員	区立中学校校長	大塚 洋一	区立桜木中学校校長 (東京都中学校体育連盟会長)
委員	教員	宮内 将之	区立船橋希望中学校

(次ページに続く)

(前ページから続き)

		氏名	役職・所属等
委員	(公財)世田谷区 スポーツ振興財団	浅野 康	事務局長
委員	(公財) せたがや文化財団	志賀 毅一	事務局長
委員	世田谷区	大澤 正文	スポーツ推進部長
委員	世田谷区	渡邊 謙吉	生活文化政策部長
委員	世田谷区教育委員 会事務局	小泉 武士	学校教育部長
検討 部 会	委員	中学生	世田谷区立の中学生(8~10名程度) 部活動や地域移行について、検討部会におい て意見交換をする。 その結果を資料にまとめ、代表者(数名)が検 討委員会に出席し、報告する。
	委員	高校生	公立中学校での部活動経験をもつ高校生、大 学生(複数名) 部活動や地域移行について、検討部会におい て意見交換をする。 その結果を資料にまとめ、代表者(数名)が検 討委員会に出席し、報告する。
	委員	大学生	

<交代した委員> 任期：令和4年10月26日～令和5年3月31日

		氏名	役職
委員	せたがや文化財団	松下 洋章	事務局長
委員	世田谷区	片桐 誠	生活文化政策部長
委員	世田谷区教育委員 会事務局	内田 潤一	生涯学習部長

資料3 検討委員会 これまでの検討状況

回	日時	主な議題
第1回	令和4年10月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校部活動地域移行の制度理解について ・ 世田谷区立中学校の部活動の現状について ・ 地域移行の在り方について
検討部会	令和4年11月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討部会中学校の部活動に関する意見交換会 <ul style="list-style-type: none"> 中学生の部 高校生・大学生の部
第2回	令和4年12月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生、高校生、大学生委員代表による意見の報告 ・ 部活動地域移行の検討の方向性について
第3回	令和5年1月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動地域移行のあり方検討（目指すべき地域移行の方向性） <ul style="list-style-type: none"> 地域資源を活用した地域クラブ活動のパターン ・ 地域移行に伴う諸課題について（検討部会の意見より） ・ 報告書の考え方について
第4回	令和5年2月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動地域移行のあり方検討（目指すべき地域移行の方向性） <ul style="list-style-type: none"> 教師等の兼業兼職 理念やキャッチフレーズ ・ 地域移行に伴う諸課題について
第5回	令和5年3月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動地域移行のあり方検討（目指すべき地域移行の方向性） <ul style="list-style-type: none"> 「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」 東京都中学校体育大会の大会実施要項の改定 アンケート結果 キャッチフレーズ ・ 地域移行に伴う諸課題について

回	日時	主な議題
第6回	令和5年6月1日	<ul style="list-style-type: none"> 部活動地域移行に係るトライアル事業の取組みについて トライアル事業の実施状況 アンケートの質問内容 部活動地域移行に係るキャッチフレーズとその趣旨について
第7回	令和5年6月29日	<ul style="list-style-type: none"> 部活動地域移行に係るキャッチフレーズとその趣旨について 部活動地域移行トライアル事業のアンケート集計結果について 部活動地域移行に関するアンケート（全生徒/保護者/教員向け）について
第8回	令和5年7月27日	<ul style="list-style-type: none"> 部活動地域移行に係る検討委員会報告書（中間まとめ）について 部活動地域移行に関するアンケート（全生徒/保護者/教員向け）について
第9回	令和5年9月28日	<ul style="list-style-type: none"> 「部活動地域移行に係る検討委員会報告書（中間まとめ）」について 来年度以降の取組みについて
第10回	令和5年11月16日	<ul style="list-style-type: none"> 全生徒等対象アンケート集計結果について 来年度以降の取組みについて
第11回	令和5年12月14日	<ul style="list-style-type: none"> 区立中学校部活動に関する現状について 他自治体における実施状況について 報告書の最終まとめ案について
第12回	令和6年1月24日	<ul style="list-style-type: none"> 報告書の最終まとめ案について

資料4 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン【概要】(スポーツ庁・文化庁)



スポーツ庁
文化庁

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン【概要】

令和4年12月

○少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができている機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要。その際、生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出されるようにすることが重要。

○令和4年夏に取りまとめられた部活動の地域移行に関する検討会議の提言を踏まえ、平成30年に策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を統合した上で全面的に改定。これにより、学校部活動の適正な運営や効果的・効果的な地域移行に当たっては、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、国の考え方を提示。

○部活動の地域移行に当たっては、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、国の考え方を提示。

○地域の特長を活かして多様な環境を一体的に整備。地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要。

※Ⅰは中学生を主な対象とし、高校生も原則適用。Ⅱ～Ⅳは公立中学校の生徒を主な対象とし、高校や私立は実情に応じて取り組むことが望ましい。

Ⅰ 学校部活動

教育課程外の活動である学校部活動について、実施する場合の適正な運営等の在り方を、従来のガイドラインの内容を踏まえつつ示す。

(主な内容)

- ・教師の部活動への関与について、法令等に基づき業務改善や勤務管理
- ・部活動指導員や外部指導者を確保
- ・心身の健康管理・事故防止の徹底、体罰・ハラスメントの根絶の徹底
- ・週当たり2日以上以上の休養日の設定(平日1日、週末1日)
- ・部活動に強制的に加入させないことのないようにする
- ・地方公共団体等は、スポーツ・文化芸術団体との連携や保護者等の協力の下、学校と地域が協働・融合した形での環境整備を進める

Ⅱ 新たな地域クラブ活動

学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方を示す。

(主な内容)

- ・地域クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実
- ・地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等の関係者を集めた協議会などの体制の整備
- ・指導者資格等による質の高い指導者の確保と、都道府県等による人材バンクの整備、意欲ある教師等の円滑な兼職就業
- ・競技志向の活動だけでなく、複数の運動種目・文化芸術分野など、生徒の志向等に適したプログラムの確保
- ・休日のみ活動をする場合も、原則として1日の休養日を設定
- ・公共施設を地域クラブ活動で使用する場合の負担軽減・円滑な利用促進
- ・困窮家庭への支援

Ⅲ 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

新たなスポーツ・文化芸術環境の整備に当たり、多くの関係者が連携・協働して段階的・計画的に取り組むため、その進め方等について示す。

(主な内容)

- ・まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進
- ・平日の環境整備はできるところから取り組み、休日の取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進
- ・①市区町村が運営団体となる体制や、②地域の多様な運営団体が取り組む体制など、段階的な体制の整備を進める
- ※地域クラブ活動が困難な場合、合同部活動の導入や、部活動指導員等により機会を確保
- ・令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組むにつれ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す
- ・都道府県及び市区町村は、方針・取組内容・スケジュール等を周知

Ⅳ 大会等の在り方の見直し

学校部活動の参加者だけでなく、地域クラブ活動の参加者のニーズ等に合わせた大会等の運営の在り方を示す。

(主な内容)

- ・大会参加資格を、地域クラブ活動の会員等も参加できるような見直し
- ※日本中体連は令和5年度から大会への参加を承認、その着実な実施できるだけ教師が引率しない体制の整備、運営に係る適正な人員確保
- ・全国大会の在り方の見直し(開催回数等の精選、複数の活動を経験したい生徒等のニーズに対応した機会を設ける等)

※スポーツ庁ウェブサイト

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/1405720_00014.htm

資料5 「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」及び「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」について（概要版）（東京都）

「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」及び「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」について

1 「学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドライン」※「子供たちのスポーツ・文化芸術等に親しむ機会の確保」「教員の働き方改革」に関するガイドライン

策定の背景

- 令和元年7月、都は「部活動に関する総合的なガイドライン」策定
 - ・生徒の自主的・自発的な参加の促進、効率的・効果的な活動の推進
- 令和2年9月、国は、休日の部活動の段階的な地域移行を図っていくことを周知

都におけるこれまでの取組

学校部活動の地域連携・地域移行に関する検討

- 部活動検討委員会を設置
 - ・持続可能なスポーツや文化芸術環境構築に向けた協議
 - ・地域連携・地域移行に関する課題整理

内容

I 学校部活動

P 1～

部活動の教育的意義と適切な運営の在り方

- ・部活動指導者の役割（顧問、部活動指導員、外部指導者等）

部活動の在り方に関する方針

- ・部活動の運営上の留意事項（休養日や活動時間の適切な設定等）
- ・地域のスポーツ・文化芸術団体等との連携した部活動の実施

体罰、不適切な行為の防止

- ・体罰の定義、体罰関連行為のガイドライン
- ・不適切な行為、セクシャル・ハラスメントの防止

部活動における重大事故防止に向けた安全対策

- ・部活動の安全実施に向けたポイント
- ・事故防止の取組

部活動中における健康面での留意事項

- ・熱中症警戒アラートを活用した熱中症予防
- ・頭部外傷の理解と予防等

対象 I：都立学校 II～IV：主に公立中学校等

新 II 新たな地域クラブ活動

P 127～

- ・地域のスポーツ・文化芸術団体、学校との関係者等からなる協議会の実施
- ・休日のみ活動をする場合も、原則として1日の休養日の設定
- ・活動場所である公共施設について、利用しやすい環境づくり
- ・希望する教員等の円滑な兼職兼業、質の高い指導者の確保

新 III 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

P 137～

- ・令和7年度末には、全公立中学校等で地域連携・移行に向けた取組を実施することを目標
- ・協議会等の検討体制を整備し、休日の在り方等を検討
- ・推進計画等を作成し、取組内容、スケジュール等を周知

新 IV 大会等の在り方の見直し

P 141～

- ・大会参加資格を、地域クラブ活動も参加できるよう見直し（都中体連は、令和5年度から大会への参加を承認）
- ・校長等は、できるだけ教員が引率しない体制を整備
- ・生徒の負担が過度とならないよう、参加する大会等を精査

2 「学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画」

※ 地域連携・地域移行の実現に向けた取組やスケジュール等を示す計画

1 策定の目的 P 1～
令和5年度から7年度までの改革推進期間における取組の展望を明らかにし、**都内公立中学校等の部活動の地域連携・移行を推進**

2 推進目標 P 1～
令和7年度末までに、**都内全ての公立中学校等で、地域や学校の実態に応じ、地域連携・移行に向けた取組を実施**



- ❖ 都内公立中学校で、専門的な技術指導ができる顧問は、運動部・文化部ともに約55%
- ❖ 教員の部活動指導や大会引率を負担に感じている教員は少ない
- ❖ 令和4年度に、地域連携・移行に向けて協議会を設置しているのは27地区

- ❖ スポーツ・文化芸術団体等と連携し、学校と地域が協働・融合した形で、関係者間の連絡体制の構築や指導者を確保
- ❖ 東京都は、休日の学校部活動の段階的な地域連携・移行を進め、区市町村の進捗に対して適切に助言
- ❖ 都立中学校等における一部の部活動において、先行的に地域連携・移行を推進、その成果を区市町村に発信

5 都の取組

(1) 区市町村における地域連携・地域移行に向けた都の取組

ア 部活動検討委員会の開催

- ・ 持続可能なスポーツや文化芸術環境の構築について検討
- ・ 検討内容等について、ホームページ等で広く情報発信

イ 関係者間の連絡体制の構築

- ・ 関係者と定期的に連絡調整する場を設け、連携を強化
- ・ 地域連携・移行に関する取組状況を各種会議で情報提供

ウ 関係者への情報発信

- ・ リーフレットにより、地域連携・移行のスケジュール等を周知
- ・ 好事例等をニュースレターで定期的に発信

P 3～

エ 休日等の指導者の確保

- ・ TEPROサポーターバンクへの登録を促し、指導者の配置を支援
- ・ 専門性を有する学生の指導者の確保に向けて、大学に働きかけ

オ 休日等の指導者の質の向上

- ・ 外部指導者等に対し、**[1]**のガイドラインの活用を推奨
- ・ 都立学校部活動指導員の研修資料を区市町村等に提供

カ 教員等の兼職兼業

- ・ 教員の部活動指導に関する意識調査を実施し、課題を把握
- ・ 円滑に兼職兼業の許可を得られるよう、規程や運用の改善

<p>(2) 都立学校における地域連携・地域移行に向けた都の取組 P 7～</p>	<p>ア 都立中学校等における地域連携・地域移行促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施校一部の部活動の地域連携・移行に関する実証事業を実施 ・T E P R Oを活用した地域連携・移行等の成果を区市町村に発信 	<p>イ 都立高校における部活動改革パイロット校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施校の一部の部活動における休日等の運営を民間事業者に委託 ・働き方改革の一つのモデルとしてその成果を都立高校に発信
<p>(3) 区市町村における部活動の地域連携・地域移行に向けた都による経費の補助 P 10～</p>	<p>ア 部活動指導員及び外部指導者の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独指導や大会引率等を担う部活動指導員(非常勤職員)の配置 ・専門的な技術指導等を行う外部指導者(有償ボランティア)の配置 	<p>イ 休日等の地域クラブ活動における指導者の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技指導等を行う指導者の配置に係る謝金 ・教育的意義や体罰防止等に関する研修会開催
<p>イ コーディネーター等の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区市町村で団体等と連絡調整を行う総括コーディネーターの配置 ・中学校で運営団体と連絡調整を行うコーディネーターの配置 	<p>ウ 地域連携・地域移行の推進に向けた協議会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区市町村の方針策定や体制構築等に係る協議会開催等を支援 	<p>オ 困窮世帯への支援に係る体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困窮する世帯への支援に係るシステム設置・改修等の体制構築 <p>カ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携・移行に係る体制構築のための初期費用を支援 例) ヘルプデスク設置の委託、課題把握のための調査費用
<p>6 区市町村の取組 P 12～</p>	<p>地域連携・移行に向けた協議会等の設置</p>	<p>方針及びスケジュール等を示した計画等の策定 計画に基づく地域連携・移行の推進</p>
<p>7 地域連携・地域移行に係る成果指標 P 14～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ❖ 運動・文化芸術活動が有意義だと感じている生徒の増加 ❖ 教員が指導に携わらない休日の部活動の増加 ❖ 教員の部活動への従事時間の縮減 	
<p>8 本推進計画の見直し P 15～</p>	<p>本推進計画の適合性の点検を行い、各施策の取組状況を踏まえつつ、適宜、内容の見直し・改訂</p>	



※東京都教育委員会ウェブサイト

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/press/press_release/2023/release20230323_03.html

資料6 区立中学校部活動における現状（令和6年2月）

区立中学校における部活動数について

運動系部活動	部活動数
バスケット（男女別）	46
バレーボール（男女別）	32
サッカー	28
野球	24
硬式テニス（男女別）	22
バドミントン	19
卓球	19
陸上	13
水泳	11
剣道	9
軟式テニス	9
総合球技	4
体力向上	3
ダンス	3
軽スポーツ	2
スキー	1
ラグビー	1
柔道	1
マルチスポーツ	1
FDトレク（※）	1
合計	249

（※）補足説明

FDトレク部

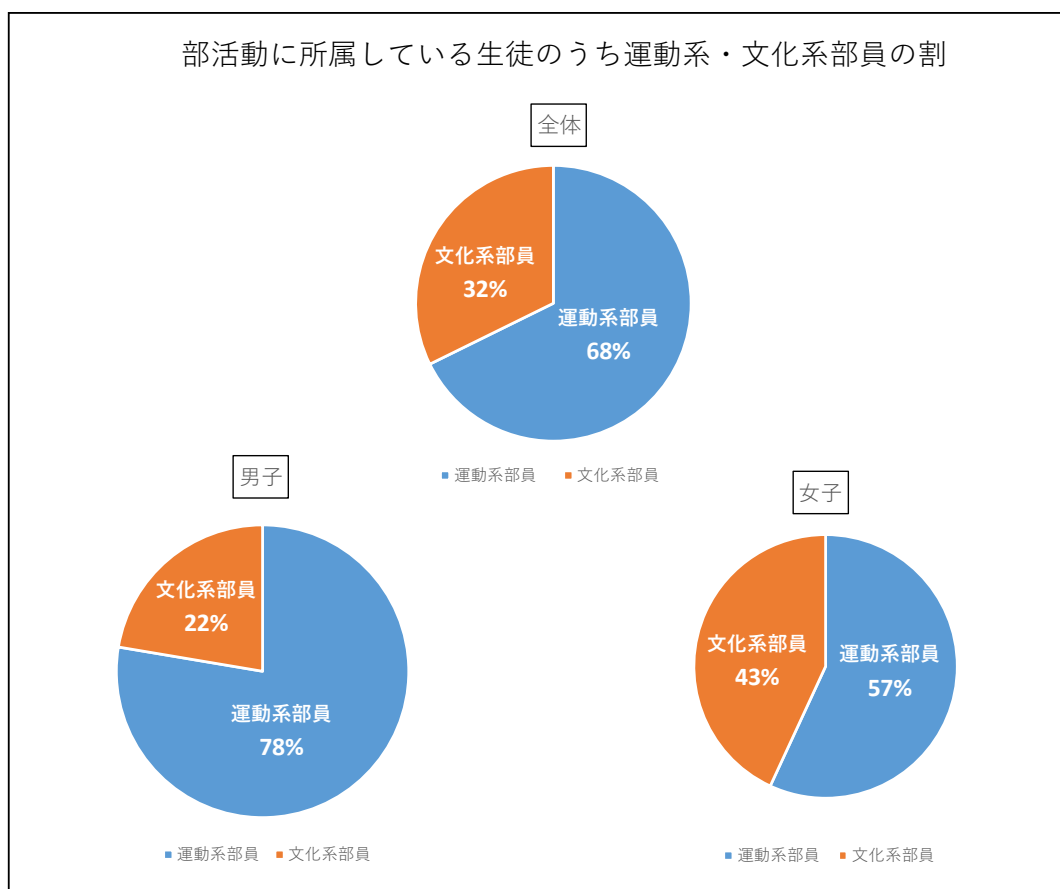
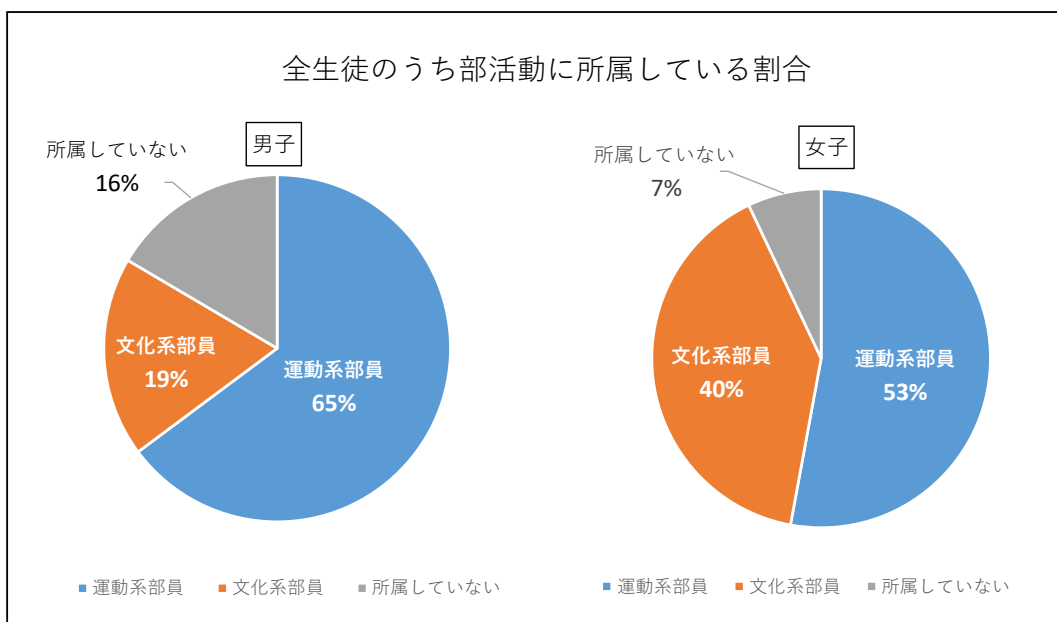
八幡中学校に設置。特別支援学級生徒が対象、フライングディスクを用いた軽運動等を実施する部活動。

ゆうあい部

弦巻中学校に設置。特別支援学級生徒を対象としたレクリエーション活動を実施する部活動。

文化系部活動	部活動数
吹奏楽	27
美術	27
茶道(抹茶)	8
演劇	8
科学	6
英語	5
家庭	5
百人一首	5
パソコン	4
日本文化	3
ボランティア	3
園芸	3
茶道（煎茶）	3
将棋	3
JRC（青少年赤十字）	3
技術	2
華道	2
囲碁・将棋	2
文芸	2
イラスト	2
書道	2
数学	1
合唱	1
手話	1
読書	1
写真	1
クッキング	1
鉄道研究	1
農業	1
箏曲	1
文学	1
映画鑑賞	1
アコースティック・ギター	1
軽音楽	1
自主活動	1
ゆうあい（※）	1
合計	140

世田谷区部活動に関する各種データについて



令和3年度「部活動実施状況調査」(東京都)を元に集計

資料7部活動支援員学校別内訳(令和6年2月)

中学校名	人数	サッカー	バレーボール	野球	卓球	バスケットボール	水泳	剣道	バドミントン	テニス	陸上競技	吹奏楽	茶道	演劇	その他
太子堂	8					2	3		1	1					1
桜丘	28	4	2	2	4	1		2		1	1	3		3	5
松沢	15	1	4			1			5		1	1			2
駒沢	28		5	2	6	1		1	2		8	2			1
北沢	22		3		1			1	2			10			5
緑丘	9	1	2			1			2		1		2		
駒留	24	2	5		3				5			4	1		4
梅丘	19		7	3		3				3			2	1	
桜木	14		1							4	3	2			4
富士	21					2			3	2		4	2		8
弦巻	10		1	1	1		1				1	2	1		2
奥沢	12		2	1		3				3				1	2
八幡	21	4		5		2			2	2	3				3
玉川	20	3	2	5		3	2		4			4			1
瀬田	26	1	3	5	1	10	1			2		3			
深沢	22	2		1	3					6		3	6		1
尾山台	33	1	3	2		3			3	5		10			6
用賀	43	3	6	7	1	3			1	1	5	13	2		1
東深沢	30	1	7	3	3	1	2	2		5					6
砧	24	2		1	2	1	3	4	1	3	3			2	2
烏山	14	1	3	1	1	2			2					3	1
千歳	18	1	3		1	2	1			2	1	1			6
芦花	14	1	3	1	3	4				1					1
上祖師谷	28	2	4	3	1	3	2		1	1		2	4		5
砧南	10	2		3		1				2					2
喜多見	22	1	2	1		2			3			6	5		2
三宿	11	1	1	1		2				3		2			1
世田谷	24	1	2		3			3				10	2	2	1
船橋希望	23	1	1	1		3	2	1		3		6	1	1	3
合計	595	36	72	49	34	56	17	14	37	50	27	88	28	13	76

※その他の例:日本文化、囲碁将棋、美術、ダンス、科学、ギター、パソコン、等

※男女別の部活はひとつにまとめています(女子バレーはバレーボール、男子バスケットボールはバスケットボールに計上)

※硬式テニスとソフトテニスは「テニス」にまとめています。

資料8 中学校部活動に関する中学生・高校生・大学生委員による意見

(1) 意見交換会（検討部会）での意見

●中学生からの意見

1 今の部活動を選んだ理由は？

- 小学校の時に始めて、その流れで。
- 小学校のときにやりたくてもできなかったことを中学校になってやろうと思った。
- 地域のクラブに通っていた。
- 先輩の影響で。いっしょにやりたかった。
- 友だちの誘いで。
- 家族がやっていた。
- 家族との共通の話題がほしかった。
- もともと得意なものであったし、得意なもので目立ちたいと思ったから。

2 部活動をやっている、楽しいなと思うときは？

- 達成感を得られたとき。
 - ・ 試合に勝った、自己ベストを更新した
 - ・ 練習をやり切った
 - ・ 観客からの拍手、等
- 仲間・ライバルができる。仲間・ライバルとの交流。
- ひとりではなく、みんなで練習をすること。
- 先輩から教わる、後輩に教えることを通じて多角的な視点を持ち、成長できる。
- 指導を受け、競技への理解が深まったとき。
- できなかったことができるようになること。
- マナーや礼儀が習得できる。

3 部活動をやっている、大変だなと思うときは？

- 練習がきつい。
- 休みがない。
- スランプのときはやめたいと思う。
- 勉強との両立。
- 顧問の指導力がない（専門知識がない）。
- 大会当日、顧問・外部コーチに相談できない（試合の審判担当等、大会運営に関わらなければならないため）。
- 人間関係
 - ・ 部内がまとまらない
 - ・ 下級生とのコミュニケーション

<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同チーム内のまとまり ■ 部員が少ない。 ■ 部員が増え、部活動に対する意識の差が出てきた。 ■ 部活動の魅力をPRする機会がない（発表の機会等）。
<p>4 こんな部活だったらもっといいのに・・・</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 休みがちゃんと（規則正しく）あった方がよい。 ■ 勉強との両立を図りたい。 ■ 良好な人間関係が築かれている。 ■ まわりに大人がもっといてほしい。もっと大人の指導を受けたい。相談をしたい。 ■ 練習内容の工夫。 ■ 同じ実力のある者同士でチームを組みたい。同じ実力のチームと試合をしたい。 ■ 練習の機会・時間がもう少し増やせるといい。 ■ 設備の充実。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技専用の施設 ・ やる気が上がるような環境
<p>5 部活動の地域移行について</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 吹奏楽部は楽器の運搬があるので、大変。 ■ 交通費が負担になる。 ■ 人数の多い部活動は、移動の時に迷惑になりそう。 ■ 他の学校とプレーできるのがいい。 ■ 他校の交流は良い面があるが、人間関係が大変そう。 ■ 部活はその学校の伝統。生徒がやりたいことをやるのが部活なので、どちらかが嫌な思いをするのでは。 ■ 合同チームはカラーが違って、かみ合わない。 ■ 顧問が熱心なので、指導者が他の人になると残念。 ■ 複数の指導者から指導を受けることになり、意見が違くと迷うと思う。 ■ 顧問の先生ならば、学校行事やテストなどに気を使ってくれる。 ■ 地域移行でレベルの高い指導を受けられるのはよい。 ■ 挨拶や礼儀を教えるのも部活。そういう機能が地域移行でなくならないようにしてほしい。

●高校生・大学生からの意見

<p>1 部活をやっていて、楽しかったなと思うことは？</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 達成感が得られた。

- 好きでなかった運動が好きになった。
- 礼儀を学ぶことができた。
- チームメイトとの電車での移動等の機会を通じて、社会経験を学んだ。
- 部活を通じて、相手への思いやりが、小学生よりもできるようになった。
- 上下関係を学べた。

2 部活をやっていて、大変だったなと思うことは？

- 服装の制約があり、校則や部の決まりにあった用具を調達・確保しなければならなかったこと。
- 勉強との両立が難しい。
- 部員が少なかった。
- 部員がやめてしまい、練習内容や試合の戦術に支障が出た。
- 部員をまとめるのが大変だった。
- 先輩があまりいなかったで、相手チームへの挨拶等の礼儀に苦労した。
- 顧問に競技に関する専門知識がなかった。
- 後輩にうまく技術を教えられなかった。
- 親が顧問替わりだった。
- 十分な指導が受けられなかった。
- わからないことは自分で調べた。

3 こういところが改善されたらよかった

- 未経験者の顧問がいる部活をもう少しサポートしてほしかった。

4 部活動の地域移行について

- 他校との実力差の解消。レベルアップが期待できる。
- 合同練習は、仲良くしている部員同士だとよいが、初めてのメンバーでは気を遣う。
- 合同練習が普通になると、合同練習が持つ特別な刺激が薄れる。
- うまい人がいると、刺激になる。
- 違う中学の人との練習は刺激があるが、学校生活の接点がないから意見の違いが出てくるのでは。
- 小学生、高校生ではレベルの違いがある。レベルの高い生徒にとっては教える側になり、練習にならない。
- 実力のある指導者から指導を受けられるのはよい。
- 他校に行く時間でもっと練習ができる。
- 練習のために他校に移動するにはお金がかかり、負担になる。
- 活動が厳しくない部活があってもよい。中学時代、自分の部をやめた人は、ゆるい部活に移る人が多かった。そういう部活があるほうがよい。
- 自由に参加できる部活があるとよい。スポーツ自体を純粋に楽しみたい人もいた。

5 これから中学に入る人に、部活についてどう勧める？

- 中学校3年間部活を続けたことに対して達成感があった。
- 中学校の部活動の情報を集めて、入るとよいと思う。

(2) 意見交換会後に寄せられた意見 (回答シートの集計結果)

●中学生の部

(1) 今の部活動について教えてください。	
①今の部活動を選んだ理由は何ですか。	
A委員 (野球部)	・昔から野球をやっていて、自分にとってなくてはならないものだったから。 ・野球をすることによって、礼儀など人生で必要になるものも学べるから。
B委員 (吹奏楽部)	小学校に吹奏楽団があり、そのタイミングでは入らなかったが、中学校に入って再度やってみたいと思ったから。
C委員 (陸上部)	小学校から陸上をしていたから。
D委員 (陸上部)	自分の好きなことでもあり、得意なことでもあったスポーツが陸上で、自分の中学校が強いと聞いていたから。
E委員 (サッカー部)	近所の公園で1対1をやってくれた人が誘ってくれた。本当はクラブチームに行きたかったが、親に反対された。結局部活動をやっていて、良かった。
F委員 (女子テニス部)	テニスはもともと貴族の遊びだったこともあり、技術面だけでなく礼儀もしっかりしている。働くにあたって、礼儀が大切なので相手を敬ってプレーするテニスが良いと思って入った。
G委員 (硬式テニス部)	小学校の頃、父と少しテニスをしていて、それが楽しかったから。
②部活動をやっていて「こんなことがよかった」「役に立った」と思うことは何ですか。	
A委員 (野球部)	・学校などで先生に自分から挨拶をできるようになったこと。 ・体力がついたこと。 ・精神的に強くなったこと。
B委員 (吹奏楽部)	合奏の時にみんなで1つの曲を完成させるのに対して達成感が湧いたときが1番よかった。
C委員 (陸上部)	・友達が増えたこと。 ・根性がついたこと。
D委員 (陸上部)	人とのかかわり。特に先輩や後輩との上下関係や、それに合った行動をすることなど、マナー的に大切なことを学ぶことができた。

E委員 (サッカー部)	・挨拶ができるようになった。 ・他の部活の人とのかかわりがとても増えた。
F委員 (女子テニス部)	先輩と仲良くなれたのは良かった。勉強について教えてくれるので定期テストで役に立った。 部長なので、人をまとめたり自分の意見を持つ力がついたのが良かった。
G委員 (硬式テニス部)	体力がついたり、仲間と楽しく話せること。

③部活動で「一番楽しい」と思うことはどんなときですか。

A委員 (野球部)	・きつい練習を乗り越えて、試合に勝った時。 ・今まで出来なかったことが出来たこと。
B委員 (吹奏楽部)	パート内で音程が合ったときや、曲が終わって、拍手がおこったときに感じる爽快感と共に楽しさを感じる。
C委員 (陸上部)	・タイムを更新した時やレースで1位をとった時。 ・友達と練習をしている時。
D委員 (陸上部)	自分の記録や一緒にやってきた人の記録が良くなって、みんな嬉しかったりしている時。
E委員 (サッカー部)	サッカーについて、より深い考え方を手に入れられた時。
F委員 (女子テニス部)	・自分の意見がチームに認められた時。 ・自分よりも上手な男子や先輩に勝った時。 ・部内の雰囲気の良い時。
G委員 (硬式テニス部)	自分のプレーが上手くできたり、試合で勝ったりした時。

④部活動をやっている「こんなことに苦労した」「大変だった」と思うことは何ですか。

A委員 (野球部)	・疲れがたまっている時 ・キャプテンとして、あまり言うことを聞いてくれない時 ・遠征で朝早く起きる時。
B委員 (吹奏楽部)	経験者ではないので、音程を合わせることなど経験者に追いつくことがとっても大変。
C委員 (陸上部)	部員をまとめること。
D委員 (陸上部)	今、部活のメンバーの中での部活への意欲の違いに苦労している。どういう部活がみんなにとって良い部活なのか、それを考えてまとめていくのがとても大変。

E委員 (サッカー部)	・中1の10月頃に顧問だった人が辞めた後の学校側の対応がひどかったこと。 ・みんなの理解力。
F委員 (女子テニス部)	都大会に行くという目標を達成するためには、チーム一丸となる必要があるのだが、部員のモチベーションに差があり、どのように練習するのか悩んだこと。
G委員 (硬式テニス部)	1年生がプレーは上手だが、まとまらず荒れていること。

⑤部活動をやっていて「こんなことが自分の成長につながった」と思うことは何ですか。

A委員 (野球部)	・人間的なところの成長につながった。(リーダーシップ、スポーツマンシップなど) ・電車内でのマナーを知り、成長できた。
B委員 (吹奏楽部)	人前で最初に発表する機会であった去年の音楽祭。とても緊張したが、吹奏楽の楽しさを改めて実感することができた。
C委員 (陸上部)	・多くの人と協力すること。 ・目上の人への態度。
D委員 (陸上部)	周りをよく見れるようになった。今、自分がこの場面でのいう行動をとらなければいけないのかを考えながら取り組めるようになった。
E委員 (サッカー部)	・社会性を高めること。 ・理解力の差を埋めること。
F委員 (女子テニス部)	部長という役をもらったことが成長につながったと思う。一年生をまとめ、二年生の中でもトップに立ち、部員の様子を見ながら練習を進めるといふ、周囲に気を配ること。
G委員 (硬式テニス部)	忍耐力や体力がつくこと。また、人をまとめること。

⑥部活動について「もっとこんなふうだといいのに」と思うことは何ですか。

A委員 (野球部)	校庭の明かりが暗く、冬の活動が制限されているので、明かりが増えると良いと思う。
B委員 (吹奏楽部)	パート内に限らず、パート外ともコミュニケーションをとれたら、より良い部活動になっていくと思う。
C委員 (陸上部)	他校との交流機会を増やす。
D委員 (陸上部)	「もっとみんなで高めあおう」と思いながら、ライバル意識をもつ。一方で、楽しくみんなで目標に向かって走っていける風なのがいいなと思う。

E委員 (サッカー部)	挨拶、礼儀をしっかりと教えること。(そういうものは学校の先生が教えるのに長けている)
F委員 (女子テニス部)	学校の校庭の明かりが校舎側にしかなく、ボールの見えるところと見えないところの差が大きいこと。また、ボールも探しづらいので、明かりを増やしてほしい。
G委員 (硬式テニス部)	昼休みに部活の練習があればいいのと思う。

⑦自分の今入っている部活動以外に「こんな部活動があったら、挑戦してみたい」と思う部活動はどのような部活動ですか。

A委員 (野球部)	何かを専門でやるのではなく、毎週色んなスポーツができる部活動があったら、少し挑戦してみたい。
B委員 (吹奏楽部)	・軽音部 ・初心者でもできるダンス同好会 ・カラオケ部
C委員 (陸上部)	バレー部
D委員 (陸上部)	部活動にみんなが一生懸命に取り組んでいて、部活動を楽しみながらもきつい部活動。
E委員 (サッカー部)	パズル部。年齢を問わずできる。頭をしっかりと使うことにもつながる。
F委員 (女子テニス部)	・バドミントン部。学校にバドミントン部がないが、パラリンピックの体験でやったときに楽しかった。 ・卓球部。テニスと似ているのもあるが、一番はオリンピックの影響である。
G委員 (硬式テニス部)	特になし。

⑧通っている学校で、活気のある部活動、イケイケだと思える部活動、雰囲気の良い部活動はどのような部活動ですか。

A委員 (野球部)	・厳しくやるところは厳しく、楽しむときは楽しむ部活動。 ・野球部。どの部活動よりも自分に厳しく、野球に向き合っている。
B委員 (吹奏楽部)	・男子バスケットボール部 ・バレーボール部 ・吹奏楽部 ・技術部
C委員 (陸上部)	バレー部
D委員 (陸上部)	練習がとてもきついが、部員で協力しながら、楽しみ、頑張っている部活動。

E委員 (サッカー部)	陸上部。コミュニケーション能力の高い人がたくさんいる印象がある。
F委員 (女子テニス部)	・吹奏楽部とバスケットボール部。どちらも男女、先輩後輩関係なく仲が良いから ・テニス部。私が入っているテニス部も顧問と生徒の仲が良いので、言いたいことがあったら何でも言えて、部内の雰囲気はいつも良い。
G委員 (硬式テニス部)	バスケットボール部

(2) 制度が変わった(地域移行)後の部活動について率直な意見を教えてください。

①学校の先生以外の方に指導を受けることについてどう思いますか。(これまでに学校の先生以外の方の指導を受けたことがありますか。)

A委員 (野球部)	・より専門的なものを得られると思う。 ・まだコーチ(学校の先生以外)から指導を受けていない身としては、先生とコーチで言っていることが違うとどうすれば良いのか分からなくなる不安がある。
B委員 (吹奏楽部)	現在も週に1、2回程度外部からコーチが来ている。吹奏楽の専門的なことを学べていいが、もう少し来る頻度が多いと良いと思う。
C委員 (陸上部)	刺激となっていていいと思う。
D委員 (陸上部)	OBの方がコーチとして指導に来ている。そのコーチは、顧問の先生の教えに沿って、それを理解しているので、とても工夫した詳しい教えが聞けてとても良い。
E委員 (サッカー部)	・質の高いものを教えてもらえる可能性はあるが、そうでない可能性もある。その格差はできるだけ無くすほうがいい。 ・学校の先生のほうが挨拶を教えられる。
F委員 (女子テニス部)	テニススクールでは受けたことがある。顧問がテニス部と陸上部の先生なので、持久力などテニスに必要な要素を陸上の知識も入れて行ってくれるという独自のやり方をしている先生で、そのやり方に慣れているので、週1くらいだったら良い。
G委員 (硬式テニス部)	指導を受けたことがない。少し嫌だと思う。(親しめなそうだから)

②学校以外のところで、部活動を行うことについてどう思いますか。

A委員	・試合会場になるような所でやれるのは凄く良いと思う。
-----	----------------------------

(野球部)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校よりもできる練習は増えると思う。 ・移動費や身体への負担が心配。
B委員 (吹奏楽部)	吹奏楽部として楽器は大切なものなので、移動中に傷つけてしまうリスクや、楽器をトラックで運ぶ時のコストや時間を考えると、あまり良く思わない。
C委員 (陸上部)	トラブルの処理が大変そう。
D委員 (陸上部)	とても良いと思う。陸上部の場合、競技場で練習したり、他校の独特な練習メニューや雰囲気を楽しんだりできるのでとても良い。
E委員 (サッカー部)	そうしてしまうと、クラブチームとあまり変わらなくなってしまふ。
F委員 (女子テニス部)	人数が多いので、移動のときに周囲の方へ迷惑にならないかという心配はあるが、学校以外のところへ行くことはリフレッシュにもなるし、部員のモチベーションを高いまま保つことができるので良いと思う。
G委員 (硬式テニス部)	部活をする気分ではなく、クラブみたいな感じで新鮮でよいと思う。
③他の学校の生徒と一緒に部活動に参加したり、大会に参加できるようになることについてどう思いますか。	
A委員 (野球部)	<ul style="list-style-type: none"> ・人数が足りなくて合同チームとなることは仕方ないけれど、それ以外なら自分の中学校だけで参加したい。 ・同じ学校のほうが勝った時の喜びは味わえる気がする。
B委員 (吹奏楽部)	他校の生徒とコミュニケーションをとれるのは良いが、そこでの人間関係のトラブルがあった場合を考えると、良くない気がする。
C委員 (陸上部)	人間関係の輪が広がり、良いと思う。
D委員 (陸上部)	良いと思う。他の学校の生徒との関わりで刺激を受けたり、走りを見れたりするので良いと思う。
E委員 (サッカー部)	<ul style="list-style-type: none"> ・「他の学校の生徒」というのはクラブチームと似ているところがある。 ・ある程度の共通認識がないと苦しくなる。
F委員 (女子テニス部)	違う学校なので、「あの学校には負けない」とお互い切磋琢磨しながら練習できる。しかし、やはり練習がかみ合わなかったり、人間関係で悩む人は必ずでてくるので、そこが一番心配しているところである。

G委員 (硬式テニス部)	関わりの少ない他校の生徒と一緒に参加することは少し嫌だと思う。
④「もしもできたら挑戦してみたい」と思う種目はありますか。(今はない種目など)	
A委員 (野球部)	・ボウリング ・学校内だとできない部活をやりたい。
B委員 (吹奏楽部)	地域移行するのであれば、弦楽器の皆さんと一緒に練習して、オーケストラみたいなことに挑戦してみたい。
C委員 (陸上部)	300m走
D委員 (陸上部)	4種競技。この1年半で800m、200m、100m、幅とびと挑戦してきたので、それらを活かせるような種目。
E委員 (サッカー部)	フリースタイルフットボール(リフティング)。競技人口が少ないため。
F委員 (女子テニス部)	水泳や陸上。区の陸上大会に参加して、周囲がとても速いと思い、負けたくないと思ったので、体験だけでもやりたいという気持ちがある。
G委員 (硬式テニス部)	特になし。
⑤指導料を払って、質の高い指導を受けられるとしたら、どう思いますか。	
A委員 (野球部)	高校でも同じ種目をやると考えた時、次のステージにもつながる。(中学で辞めるとしても、どこかで生きると思う)
B委員 (吹奏楽部)	今のままが良い。質が高く、厳しい指導だと、逆にやる気をなくしそうな気がする。
C委員 (陸上部)	払える家族と払えない家族がいることが懸念点
D委員 (陸上部)	自分の受けたいときに受けられるのであればよいと思う。 「この部分だけ知りたい・強化したい」というときなど。
E委員 (サッカー部)	経済的に苦しい人への対応が必要となる。皆が平等にならないとダメ。
F委員 (女子テニス部)	その指導が自分にとってためになるのか、実力につながるのか、自分に合っているのかという心配があるので、一度試してみて、そこから考えて選択できることが良いと思う。
G委員 (硬式テニス部)	良いと思う。
⑥季節(シーズン)でやることごとく変化する部活動があったらどう思いますか。	
A委員	休み(オフシーズン)の時期がなく、落ち着ける時間がない。

(野球部)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>夏</td> <td>冬</td> <td></td> </tr> <tr> <td>水泳</td> <td>水泳</td> <td>オフ</td> <td>冬は大会がないから落ち着ける</td> </tr> <tr> <td>スケート</td> <td>オフ</td> <td>スケート</td> <td>夏は大会がないから落ち着ける</td> </tr> <tr> <td>水泳+スケート</td> <td>水泳</td> <td>スケート</td> <td>落ち着ける時期がない</td> </tr> </table>		夏	冬		水泳	水泳	オフ	冬は大会がないから落ち着ける	スケート	オフ	スケート	夏は大会がないから落ち着ける	水泳+スケート	水泳	スケート	落ち着ける時期がない
	夏	冬															
水泳	水泳	オフ	冬は大会がないから落ち着ける														
スケート	オフ	スケート	夏は大会がないから落ち着ける														
水泳+スケート	水泳	スケート	落ち着ける時期がない														
B委員 (吹奏楽部)	吹奏楽部に筋トレなどを導入するのは良いと思うが、シーズンにかかわらず、毎回5分など、年間を通してコツコツおこなうほうが良いと思う。																
C委員 (陸上部)	適応するのが大変																
D委員 (陸上部)	内容による。陸上部はシーズンによって練習内容が変わるので、それなら良い。全く違うスポーツをするのは、一つのことに集中できないように思う。違う種目を行うことが、次のシーズンで役に立つことであれば、検討の余地はある。																
E委員 (サッカー部)	色々なことに触れる機会を増やせるのは良いと思う。ただし、一種類のスポーツをやりたい人への対応はどうか疑問。																
F委員 (女子テニス部)	自分は、苦手なことを克服できるまで継続して行いたい性格。なので、シーズン毎に種目が変わると全てが中途半端な状態になってしまうと思われるので、やりたいとは思わない。																
G委員 (硬式テニス部)	3ヵ月ぐらいで内容が変わると、「慣れてきたのに変わってしまう」というようなことがあるので、よくないと思う。																
⑦中学校3年生で引退するのではなく、卒業ギリギリまで続けられる部活動はどう思いますか。																	
A委員 (野球部)	受験もあるので、あまり良くない。継続するのであれば、「部活」ではなく「息抜き」として参加できるよう、行きたいときに行きやすい環境づくりが必要だと思う。																
B委員 (吹奏楽部)	現在所属している部では9月に仮引退、3月の音楽祭でまた一緒に演奏するという形をとっていて、それがベストだと思う。																
C委員 (陸上部)	自分の好きなことを長く続けられるのは良いと思う。																

D委員 (陸上部)	良いと思うが、強制ではなく、その時々や人によって判断できるほうが良いと思う。自分で調整できるなら目標もできて良い。
E委員 (サッカー部)	多くの中高生は3年生の夏または2年生の冬に引退する。そこから、勉強に一層注力する人が多い。そういう人たちの邪魔をしないためにも、参加しないと申し訳ない気持ちにさせる部活動は要らない。
F委員 (女子テニス部)	卒業して就職する人には良いと思う。ほとんどの人は受験をするので、部活動があると勉強に身が入らなくなる。また、いずれにしても卒業時には辞めるので、あまり意味がないように思う。
G委員 (硬式テニス部)	とても良いと思う。ただし、人によっては引退しても良いと思う。

⑧小学校高学年や高校1年生くらいの中学校だけではなく異なる学年が集まるような部活や地域の活動があったら、どう思いますか。

A委員 (野球部)	特に人数の少ない部活には効果的だと思う。高校生から教えてもらうインプットの場合と小学生に教えるアウトプットの場合が整って、自分の成長にもつながる。高校生か懐かしい小学校の校庭で部活動ができれば面白そう。
B委員 (吹奏楽部)	学校内にとどまらない活動はとても良い。だが、中高生はとてもハードスケジュールになってしまうので、気軽に休むことのできる制度があるほうが、ありがたい。
C委員 (陸上部)	地域が活発化してとても良いと思う。
D委員 (陸上部)	色々な人との関わりで刺激を受け、速い人に教えてもらったりできるので、とても良いと思う。
E委員 (サッカー部)	実力差が大きすぎないなら良いと思う。他の学年と関りがもてるのは良いと思う。
F委員 (女子テニス部)	地域の活動なら良いと思うが、それが部活動となると、部員の人数が多くなって大変だと思う。それで顧問を増やすと、今度は教える人によって差が出てきてしまうと思う。
G委員 (硬式テニス部)	がたいの良い高校生と小学生との体格差が大きいのは危険なので、止めたほうが良い。

⑨部活動のない中学校って楽しいと思いますか。どう思いますか。

A委員 (野球部)	中学校の部活動は、自分の人生の「核」になると思う。勝ち負けや礼儀を学んでいる。
--------------	---

	部活動がないと縦のつながりも無くなる。勉強も大事だが、部活動のない中学校は考えられないし、デメリットが圧倒的に大きい。部活動は、死ぬまでにどこかで絶対に役に立つと思う。
B委員 (吹奏楽部)	学校生活や委員会活動が優先なのはもちろんだが、「楽しみ」がなくなってしまうのは、とても悲しい。
C委員 (陸上部)	友達と接する時間が減って、寂しいと思う。
D委員 (陸上部)	学校での活動範囲が狭くなってしまっているので、人との関わりも難しく、活気のない学校になってしまいそうなので、部活動はあること希望する。
E委員 (サッカー部)	部活動のような機能は残るので、外部で実施することは現在の環境と変わらない。ただし、特定種目が強いことを理由に、学校を選んで入学した人には、メリットがなくなる。
F委員 (女子テニス部)	楽しくないと思う。学校以外の場所で習うこともできるが、部活動は技術の向上だけでなく、先輩・後輩・先生との交流の場だと思うので、それがなくなると共通点や他学年との交流の機会が減り、楽しくないと思う。
G委員 (硬式テニス部)	授業だけだとつまらないと思う。

●高校生・大学生の部

(1) 今の部活動について教えてください。	
① 中学時代の部活動を選んだ理由は何ですか。	
a 委員 (高校生) (元テニス部)	・ 仮入部の時に先輩が優しく教えてくれたこと。 ・ 綺麗なコートの上に、活動日数が少ないから。
b 委員 (高校生) (元バレーボール部)	先輩に誘われたことと、仮入部の時にとっても雰囲気良かったから。
c 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	父が行っていたスポーツであること。小学校の友人が多かったこと。
d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	父がバスケットボールをプレーしていて勧められたから。
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	中学校にあがるまでスポーツをしてこなかったもので、何か運動をしようと考え、そのとき興味があったバスケットボール部に入った。
② 中学で部活動をやっている「こんなことがよかった」と思うことは何ですか。	

a 委員 (高校生) (元テニス部)	部活動だからこそ味わえる仲間の大切さを実感できたこと。
b 委員 (高校生) (元バレーボール部)	一つのことに熱中できたことと、学校生活がより楽しくなったこと。
c 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	・運動・スポーツを好きになることができたこと。 ・礼儀や礼節、上下関係を学ぶ、身につけることができたこと。
d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	先輩・後輩などの上下関係が学べた。
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	部長をやっている、人をまとめるという経験ができたこと。

③中学と高校では、同じ部活動ですか。

a 委員 (高校生) (元テニス部)	はい。
b 委員 (高校生) (元バレーボール部)	中高共にバレーボール部。
c 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	同じ。
d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	同じ。
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	同じ。

④部活動で、「一番楽しい」と思うことはどんなときですか。(中学・高校・大学)

a 委員 (高校生) (元テニス部)	中学：自分の出来なかったことが出来るようになったとき 高校：練習の成果を試合で発揮できたとき
b 委員 (高校生) (元バレーボール部)	仲間と一緒に一つの目標に向かって切磋琢磨すること。
c 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	中学：部活動後の帰り道に友人と談笑しながら帰っているとき 高校：ゲーム形式の練習を行っているとき
d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	練習後、部室での仲間との談笑。
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	仲間と良いプレーができたとき。

⑤部活動をやっている「こんなことに苦労した」「大変だった」と思うことは何ですか。

a 委員(高校生) (元テニス部)	初めはその部活の規則を知り、守ることや環境に慣れること。
b 委員(高校生) (元バレーボール部)	部員数が多かったので、意見が上手くまとまらない時があったことや、自分ができるところを常に探しながら行動することが大変だった。
c 委員(大学生) (元バスケットボール部)	シューズやソックスの色が白か黒の単色に決められていたため、用具を用意するのに苦労した。 半数以上の部員が辞めてしまったため、安定した練習メニューをこなせなかったこと。
d 委員(大学生) (元バスケットボール部)	学業との両立。
e 委員(大学生) (元バスケットボール部)	相手チームの監督などとあいさつをする際の礼儀など。
⑥部活動をやっていて「こんなところが自分の成長につながった」と思うことは何ですか。	
a 委員(高校生) (元テニス部)	何事も諦めない強い心を持つことができた。
b 委員(高校生) (元バレーボール部)	コミュニケーション力、礼儀、自分で考えて行動する力が身についたこと。
c 委員(大学生) (元バスケットボール部)	厳しい先生のもと厳しい練習を行ってきたうえで、身体能力のみならず精神力が成長した。
d 委員(大学生) (元バスケットボール部)	上下関係などの礼儀や、厳しい練習をやり抜くなどの経験。
e 委員(大学生) (元バスケットボール部)	人をまとめる経験ができたので、そこから見える人とのつながりなどを感じ、人間関係の成長につながった。
⑦部活動について「もっとこんなふうだといいのに」と思うことは何ですか。	
a 委員(高校生) (元テニス部)	平日の部活は週一回で、さらに大学の敷地を使わせてもらっているため、自由に使えるコートが欲しい。
b 委員(高校生) (元バレーボール部)	3年生で引退という形ではなく、卒業までは自分の好きな時に行けるようになったら良いと思う。
c 委員(大学生) (元バスケットボール部)	もっと兼部がオープンになればいいのではないかと思った。 体験入部期間外にも体験入部ができれば、もっと良いのではないかと思った。
d 委員(大学生) (元バスケットボール部)	公立校と私立高で設備の差がある。公立校でも、もう少し整った設備があると良いと思った。
e 委員(大学生) (元バスケットボール部)	顧問の先生が経験者でない場合の外部コーチの導入など。

⑧中学時代に入っていた部活動以外に「こんな部活動があったら挑戦してみたい」と思う部活動はどのような部活動ですか。	
a 委員(高校生) (元テニス部)	小学生の時にチアダンスを習っていたのでダンス部があったら挑戦してみたい。
b 委員(高校生) (元バレーボール部)	一つのスポーツに取り組む部活動だけではなく、色々なスポーツを楽しめる部活動があったら、それにも挑戦してみたいと思う。
c 委員(大学生) (元バスケットボール部)	ラグビーやアメフト。なかなか外部では手の出しにくいマイナースポーツも部活動であれば面白いと思う。
d 委員(大学生) (元バスケットボール部)	アダプテッドスポーツ
e 委員(大学生) (元バスケットボール部)	人数が多く、練習に支障をきたさない部活。
⑨通っていた学校で、活気のある部活動、イケイケだなと思える部活動、雰囲気の良い部活動はどのような部活動ですか。	
a 委員(高校生) (元テニス部)	バレー部がとても強く、楽しそうだった。
b 委員(高校生) (元バレーボール部)	信頼関係がしっかりと築けていて、一人ひとりが意見を言えるような空気を作れている部活動。
c 委員(大学生) (元バスケットボール部)	サッカー、バスケ、野球等のメジャースポーツ。 大会で上位の成績を収めていた卓球部。
d 委員(大学生) (元バスケットボール部)	楽しむときは楽しんで、真面目にやるときは真面目にやれるメリハリのある部活動。
e 委員(大学生) (元バスケットボール部)	バドミントン部。人数も多く、声も出ていて、大会でも何度も賞をもらっていた。
(2) 制度が変わった(地域移行)後の部活動について率直な感想を教えてください。	
①学校の先生以外の方に指導を受けることについてどう思いますか。(これまでに学校の先生以外の方の指導を受けたことがありますか。)	
a 委員(高校生) (元テニス部)	1年間だけ大学生のコーチが学校へ教えに来てくれていた。
b 委員(高校生) (元バレーボール部)	学校の先生以外の方の指導を受けたことはないが、専門的に指導を受けることが出来るのはとても良いと思う。
c 委員(大学生) (元バスケットボール部)	学校の先生の負担を軽減できることは好ましいと思う。

d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	競技経験のない先生よりも競技や指導経験のある外部の方に指導してもらおう方がいいと思う。学校の先生以外の方の指導を受けた経験はない。
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	ある。顧問が経験者でない場合、とても有効だと思う。
②学校以外のところで、部活動を行うことについてどう思いますか。	
a 委員 (高校生) (元テニス部)	移動に時間がかかるのがデメリットだと思う。
b 委員 (高校生) (元バレーボール部)	移動するのに時間がかかったり、交通費なども発生するので、学校がある日は難しいのかなと思う。
c 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	普段と違った環境で部活動の練習を行うことができるのは良い刺激になるし、大会等に向けて能率的な練習ができると思うが、移動費や場所の変化によって通うのが困難になる生徒が出ないかが気になった。
d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	学校に活動場所がなければ仕方ないが、学校だからこそ楽しめることがあるから、あまり良いとは思わない。
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	普段と違う環境だと練習しにくいと思う。
③他の学校の生徒と一緒に部活動に参加したり、大会に参加できるようになることについて、どう思いますか。	
a 委員 (高校生) (元テニス部)	交流の幅が広がり、友達が増えるため、良いと思う。
b 委員 (高校生) (元バレーボール部)	お互いにレベルアップできることはあると思うが、学校生活は別々になってしまうので、コミュニケーションがあまり取れずに意見の食い違いなどが起きてしまうのではなかと思う。
c 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	良い刺激になって良いと思う。特に人数の少ない部活動は練習の幅が広がるのが良いと思う。
d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	普段会わない人と一緒に活動を行うことは、自分だった気を遣ってしまうと思うので、あまり良いとは思わない。
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	学校ごとのチームの強さが大会などで差がつきにくくなるを考える。
④「もしもできたら挑戦してみたかった」と思う種目はありますか。(今はない種目など)	
a 委員 (高校生) (元テニス部)	ダンス
b 委員 (高校生)	(無回答)

(元バレーボール部)	
c 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	ラグビー、アメフト、ウエイトリフティング
d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	アダプテッドスポーツ
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	ない。
⑤指導料を払って、質の高い指導を受けられるとしたら、どう思いますか。	
a 委員 (高校生) (元テニス部)	テニスは試合に出場するにも毎回お金がかかるので、安価なら良いと思う。
b 委員 (高校生) (元バレーボール部)	「上手になりたい」とか「試合で勝ちたい」と思っていたら良いと思うが、純粋にスポーツを楽しみたい人もいると思うので、部活動全体として受けたりするのは良くないのかと思う。
c 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	質の高い指導を受けたいと思うが、指導料を払えない生徒は部活動に参加できないということになると、難しいと思う。
d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	質の高い指導を受けられるならば指導料を払ってもいいと思う。
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	結果が分かりやすく出るなら、続けて良いと思う。
⑥季節 (シーズン) でやるのがいくつか変わる部活動があったらどう思いますか。	
a 委員 (高校生) (元テニス部)	自分は少し飽き性な所があるので、挑戦してみたいと思う。
b 委員 (高校生) (元バレーボール部)	季節ごとで色々なことができるので、飽きずに一年中楽しんで良いと思う。
c 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	季節でやるのがいくつか変わることによって、様々な種目を経験できるし、その中から自分に合っている種目を見つけることができるのは良いと思うが、大会や一つの目標に向けて一つの種目を真剣に取り組みたい人には向いていないのではないかと思う。
d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	活動時期が限られている部活動にとってとても良いことだと思うし、そのような部活動だけでなくも様々な部活動経験ができることはとても良いことだと思う。
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	一つの部活で季節ごとで練習メニューが変わったりするので、あまり良くないと考える。
⑦中学校3年生で引退するのではなく、卒業ギリギリまで続けられる部活動はどう思いますか。	

a 委員(高校生) (元テニス部)	部活動で悔いが残らないように過ごせると思う。
b 委員(高校生) (元バレーボール部)	良いと思う。私にとって部活動は学校生活の中で本当に大きい存在だったので、できたら卒業ギリギリまで続けたかった。
c 委員(大学生) (元バスケットボール部)	自分でもできればそうしたいと思っていたが、受験勉強のこと等を考えると難しいと思う。
d 委員(大学生) (元バスケットボール部)	部活動以外のこともぬかりなくできるのであれば良いと思う。
e 委員(大学生) (元バスケットボール部)	続けたい人とそうでない人がいるのは良いと思う。強制でなければ良いと思う。

⑧小学校高学年や高校1年生くらいの中学生だけではなく異なる学年が集まるような部活や地域の活動があったら、どう思いますか。

a 委員(高校生) (元テニス部)	教えたり、教えられたりする良い関係性になると思う。
b 委員(高校生) (元バレーボール部)	良い刺激になると思うが、レベルの差があったり気を遣ったりしてしまうので、のびのびと取り組めなくなるかと思う。
c 委員(大学生) (元バスケットボール部)	たまに行う分には双方ともに良い刺激になり、とても好ましい活動だと思うが、日常化してしまうと実力の差による不自由さ等から陰々滅々とした気分になる人が出てくるのではないかと思った。
d 委員(大学生) (元バスケットボール部)	小中学生にとってはレベルの高い競技者と活動できるから良いとは思いますが、高校生は低いレベルに合わせなければいけないので、良いとは思わない。
e 委員(大学生) (元バスケットボール部)	地域の交流という視点で見ると良いと思う。

⑨部活動のない中学校って楽しいと思いますか。どう思いますか。

a 委員(高校生) (元テニス部)	部活動があることで更に充実した中学校生活を送れると思う。
b 委員(高校生) (元バレーボール部)	部活動がない中学校は楽しくないと思う。勉強以外に何かに一生懸命取り組むことでより学校生活が楽しくなると思う。
c 委員(大学生) (元バスケットボール部)	楽しいと思うが部活動があった方が友人との友情も深まり、質の高い楽しさを味わえると思う。
d 委員(大学生) (元バスケットボール部)	自分は楽しいとは思わないが、その場所で楽しめるかは人それぞれだと思う。
e 委員(大学生) (元バスケットボール部)	それぞれ楽しさが違う人や、厳しい部活がいやだという人もいたので、良いと思う。

(3) 大学生の方へお聞きします	
①大学生として自分自身が指導者になる可能性もあると思いますが、大学生が指導者になることについてどう思いますか。	
c 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	知識や経験のある大学生が指導を行うほうが、未経験者の先生が行うよりも良いと思う。
d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	指導者を目指す大学生にとってもとても良い経験になるし、年の近い競技経験のある大学生に指導してもらえることは生徒にとっても良いことだと思う。
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	アルバイトとして指導したいという人が多いのかなと思った。
②他の大人がいない状態で、大学生自身しか指導の場にはいないことについてどう思いますか。	
c 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	誰が指導するとしても、安全管理上、大学生以外の先生などの大人が、その場にいたほうが良いと思う。
d 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	何か問題や事故があったときに、きちんと対処することができ、責任の取れる人が絶対にはいけないため、大学生だけではいけないと思う。
e 委員 (大学生) (元バスケットボール部)	安全管理の面で不安要素があると思う。

資料9 部活動地域移行トライアル事業に関するアンケート集計結果

令和5年6月実施分

部活動地域移行トライアル事業に関する アンケート集計結果

令和5年6月

世田谷区

I 調査概要

1 調査目的

中学校部活動地域移行に係るトライアル事業の実施から約1か月もしくは2か月が経過し、事業の実施状況や課題等を把握し、今後の検討の参考にするため、事業の当事者である生徒及び顧問教員、指導者から意見をうかがう。

2 調査対象

以下の部活動で、生徒/顧問教員/指導者を対象とする。

- (1) 東深沢中学校体力向上部
- (2) 船橋希望中学校ソフトテニス部
- (3) 砧中学校陸上競技部
- (4) 船橋希望中学校陸上競技部

※演劇部合同部活動については、6月から事業が開始するため、7月もしくは8月にアンケートを実施する予定。

3 調査内容

(1) 生徒対象

- ① トライアル事業の満足度について
- ② 指導者について

活動日によって指導者が変わることで、指導者とのコミュニケーション

- ③ 今後の部活動地域移行について
- ④ 移動について
- ⑤ 合同部活動について

※④と⑤は、砧中学校陸上競技部及び船橋希望中学校陸上競技部のみの内容

(2) 顧問教員

- ① 外部指導者との連携について
- ② 教員の負担軽減について

トライアル事業が負担軽減につながっているか、学校業務に変化はあったか

- ③ 今後の部活動地域移行について

(3) 指導者

- ① 学校との連携について
- ② 教員の負担軽減について
- ③ 大会の引率について

※③は、船橋希望中学校ソフトテニス部のみの内容

4 調査時期

令和5年6月14日（水）～6月22日（木）

5 回答方法

(1) 生徒

一人一台配付されている端末を利用し、Microsoft Forms によるオンライン回答。顧問教員からロイロノート、または Teams 内の部活動チームへ URL 投稿によりアンケートを実施。

(2) 顧問教員

Microsoft Forms によるオンライン回答。URL 等を読み取り、アンケートを実施。

(3) 指導者

Microsoft Forms によるオンライン回答。委託先から、各指導者へ URL 等を送付し、アンケートを実施。

6 回答数

(1) 生徒

部活動名	回答数/部員数
東深沢中学校体力向上部	38人/45人
船橋希望中学校ソフトテニス部	20人/41人
砧中学校陸上競技部	37人/45人
船橋希望中学校陸上競技部」	45人/51人

(2) 顧問教員

部活動名	回答数
東深沢中学校体力向上部	1人
船橋希望中学校ソフトテニス部	1人
砧中学校陸上競技部	2人
船橋希望中学校陸上競技部	1人

(3) 指導者

部活動名	回答数
東深沢中学校体力向上部	7人
船橋希望中学校ソフトテニス部	2人
砧中学校陸上競技部	6人
船橋希望中学校陸上競技部」	

7 留意点

アンケート調査を集計した数値は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。そのため、選択肢の数値(%)をすべて合計しても、四捨五入の関係で、100%にならないことがある。

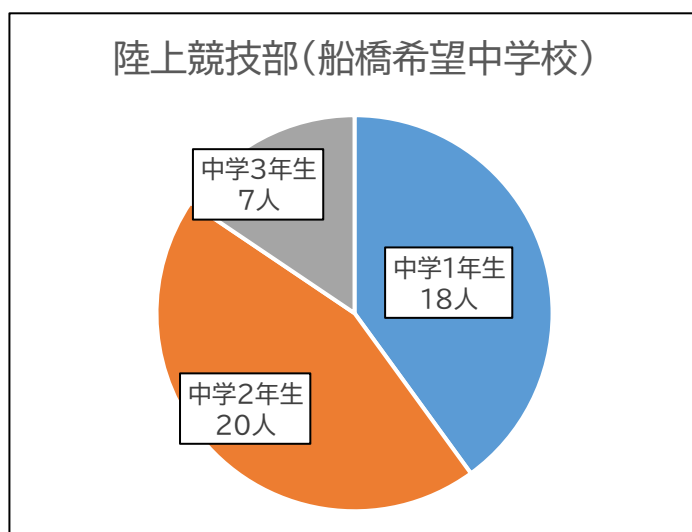
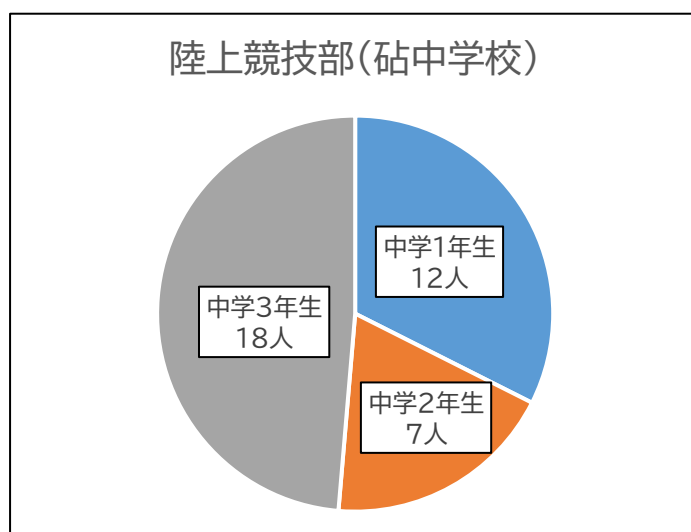
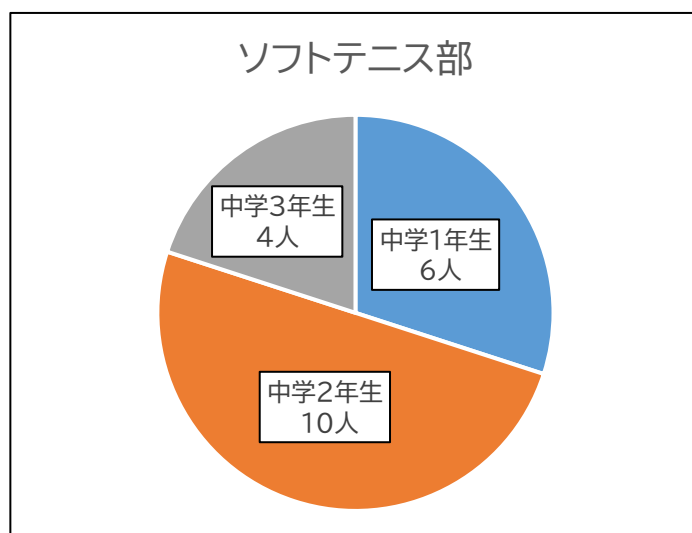
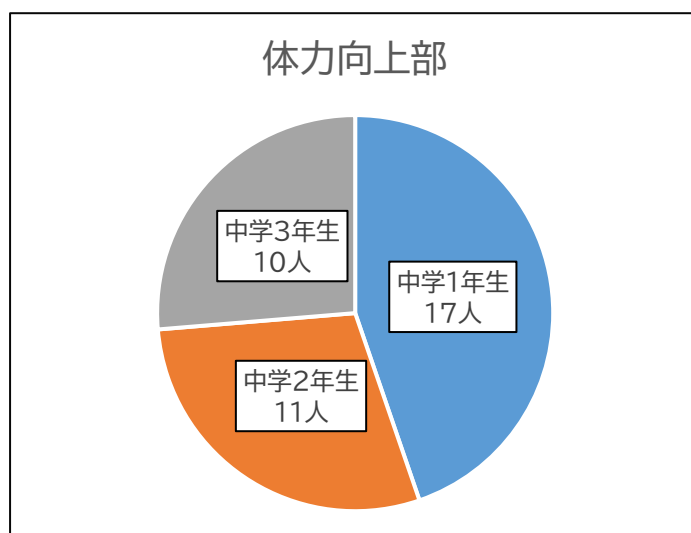
8 集計結果

1. 生徒 P 4～21
2. 顧問教員 P 22～26
3. 指導者 P 27～30

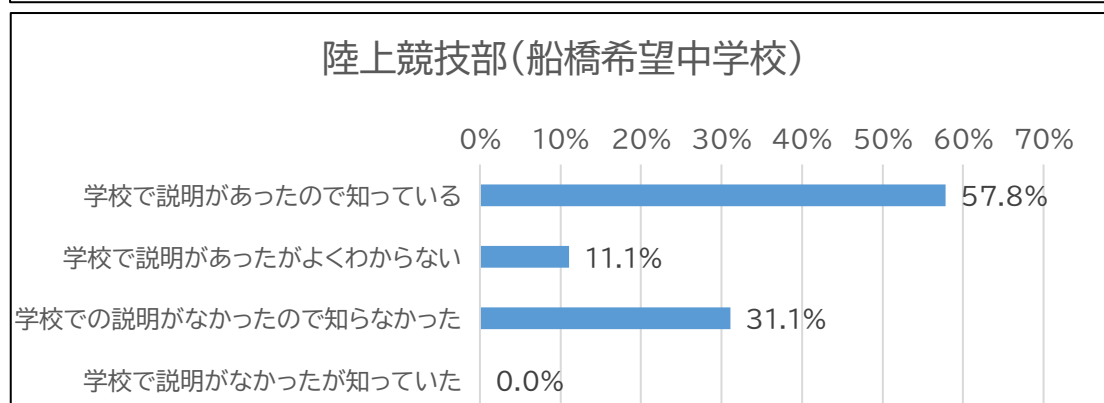
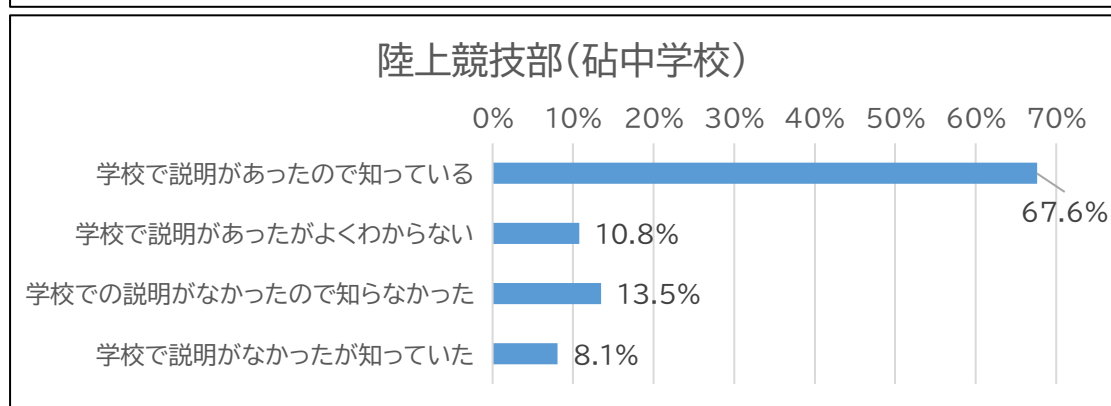
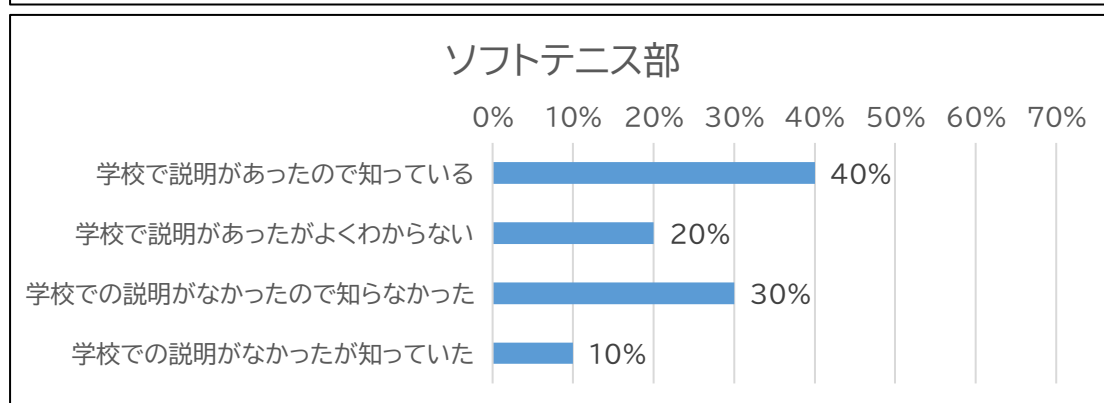
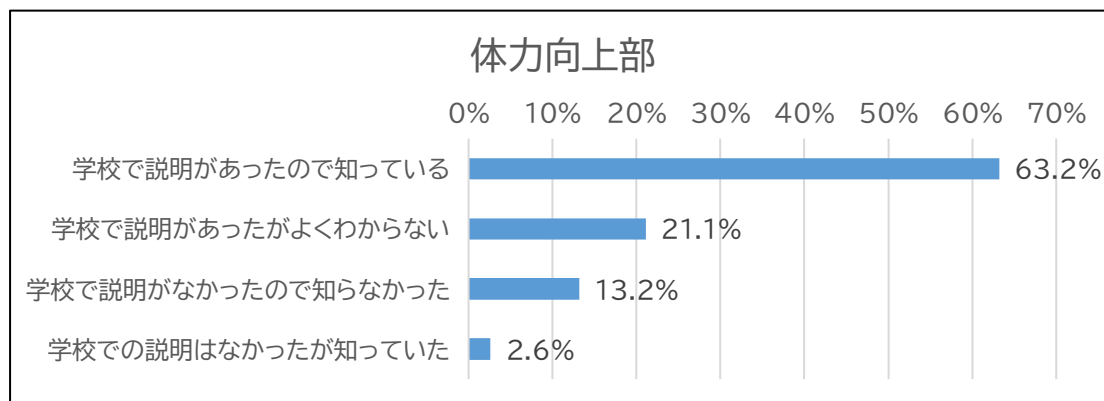
Ⅱ 調査結果

1. 生徒対象 アンケート結果

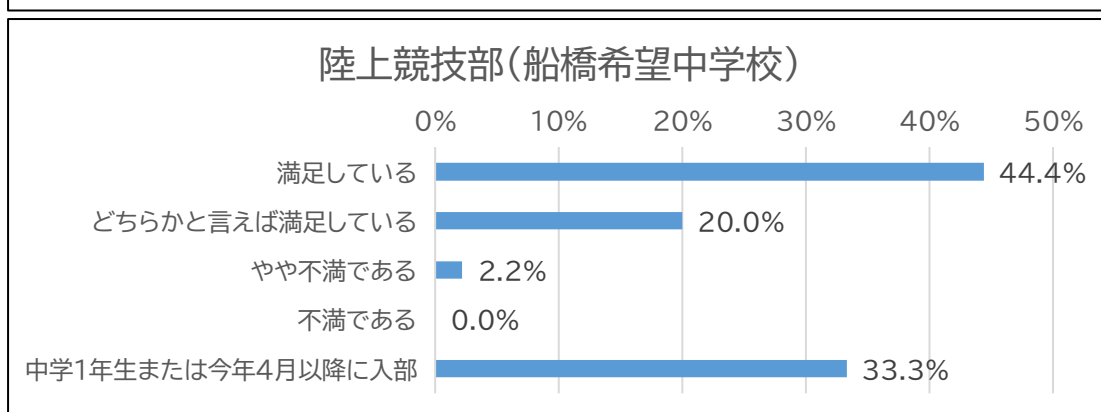
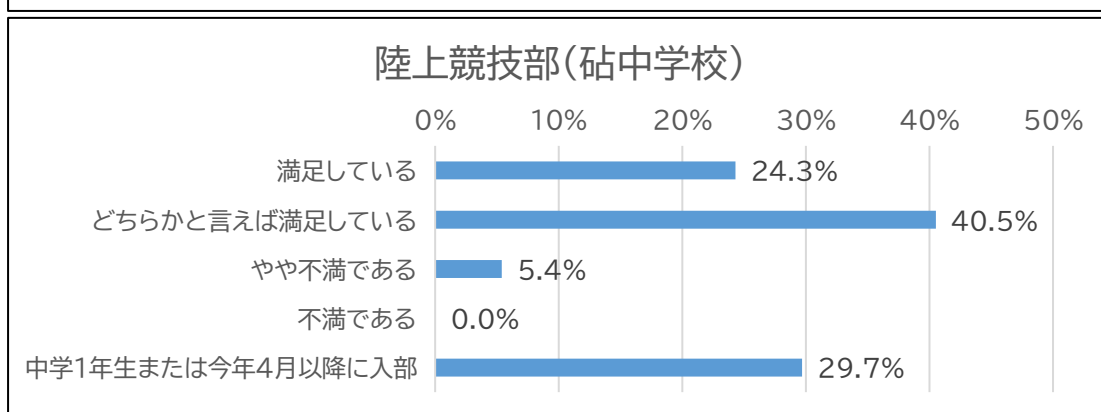
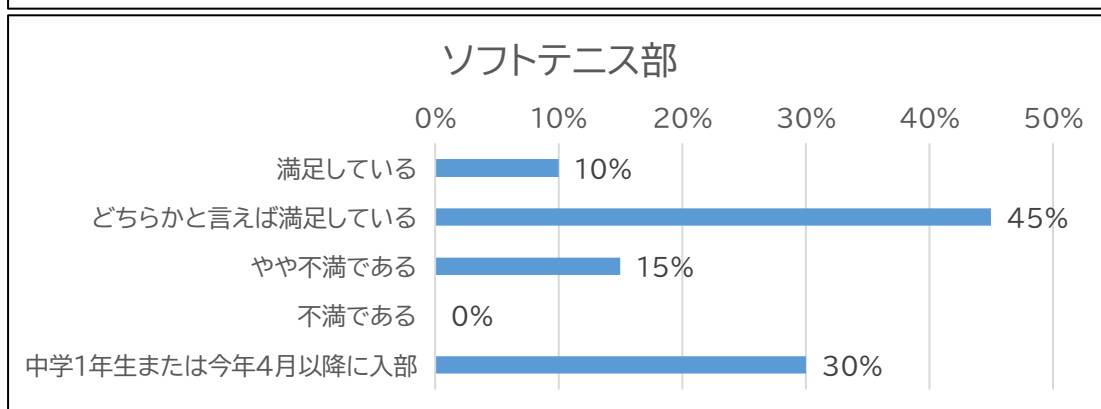
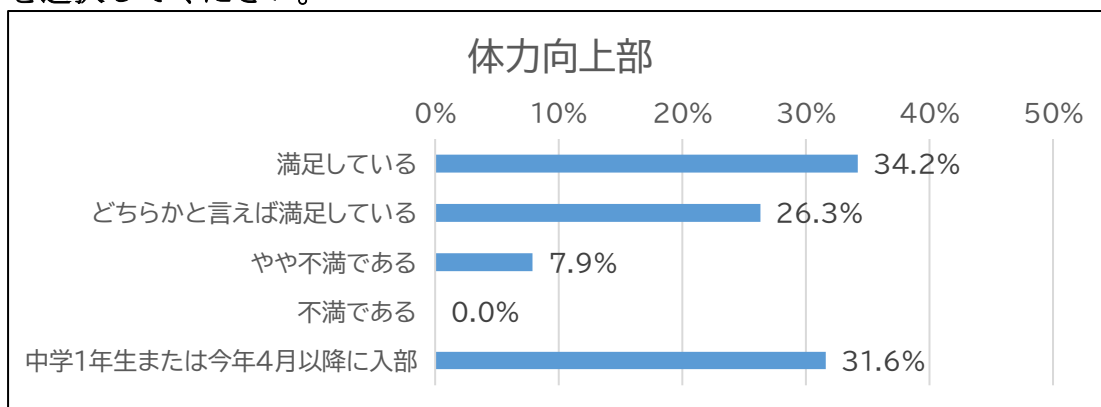
質問1. あなたは何年生ですか.



質問2. 今年の5月から東深沢スポーツ・文化クラブ/公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団の協力により、部活動の地域移行に向けたトライアル事業を行っていますが、その対象部活となっていることを知っていますか。



質問3. 昨年度の部活動と比較した場合、トライアル事業開始後の部活動に満足していますか。中学1年生と今年4月以降に入部した生徒は、「中学1年生または今年4月以降に入部」を選択してください。



質問4. 質問3で「満足している」または「どちらかと言えば満足している」と回答した理由を記入してください。

■体力向上部

- ・楽しいから。
- ・新しいことができるから。
- ・専門的なことを学べるから。
- ・毎回違うスポーツをやっているから。
- ・地域の方との関わりを持てるから。
- ・いろいろなスポーツを教える人がいて面白いから。
- ・地域の人が色々な遊びを考えて、教えてくれるから。

■ソフトテニス部

- ・コーチ直々に教えてもらえるから。今までより、確実に成長できたと思えたから。
- ・的確な指導を受けられるから。
- ・自分の打ち方の悪いところを専門的に教えてくれるから。
- ・去年より充実して、部活動ができているから。

■陸上競技部（砧中学校）

- ・新たな発見ができるから。
- ・トラックを使って色々な方々から教えていただけるこの環境は陸上に専念するにはとてもいい環境だと思うし、他校との関わりが増えるから。
- ・競技場でできるのが砂場の校庭でやるのとは違い、大会の練習に繋がるから。
- ・少し時間が遅くなるのがあんまり。家から距離があるので帰りが遅くなってしまう。でも、練習できるのは満足している。
- ・船橋希望中の生徒との会話も増え、また他の学校がやっていないことを体験出来ているから。
- ・他校の生徒と一緒に練習をすることで常にライバル心を持ち、大会で良い記録が出そうになるから。
- ・質の高い練習がしやすくなったが、回数が少ないため、あまり効果を感じる事ができない。

■陸上競技部（船橋希望中学校）

- ・前より色々なことができ設備が充実していていいと思った。
- ・実際の大会の場所で練習できるから。
- ・普段学校ではスパイクを履いたりできないですが、競技場練習があることで、スパイクを履いたり普段できないような練習ができるので、満足している。

質問5. 質問3で「やや不満である」または「不満である」と回答した理由を記入してください。

■体力向上部

- ・専門的な技術を教えてもらえない。
- ・地域の方が来てくれても、関わりが少なく、以前と特に何も変わっていないから。

■ソフトテニス部

- ・コーチと顧問で言ってることが違っていたり、コーチそれぞれの教え方に少し不満を感じることもある。でも、上達が早いから別にいいかもしれない。

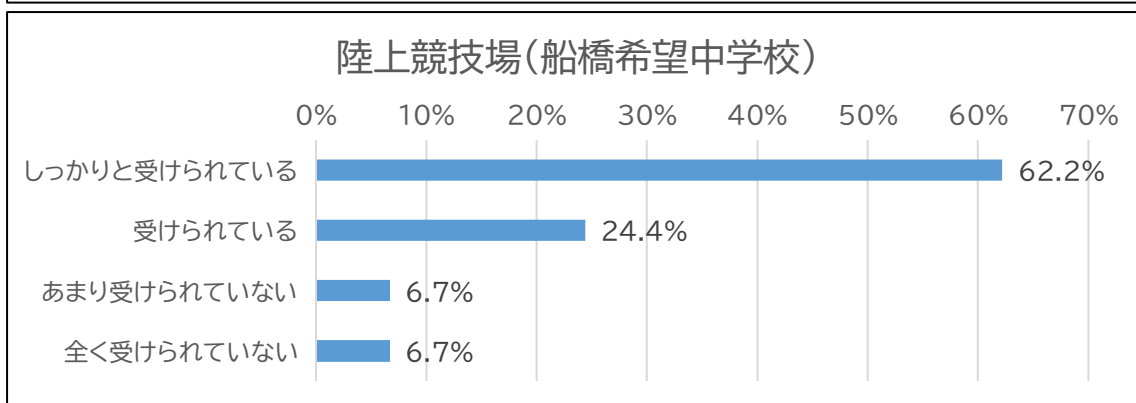
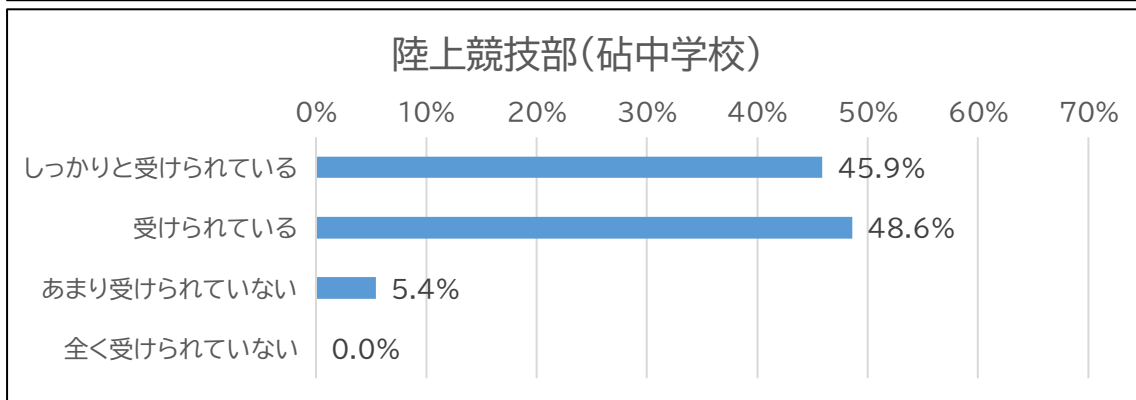
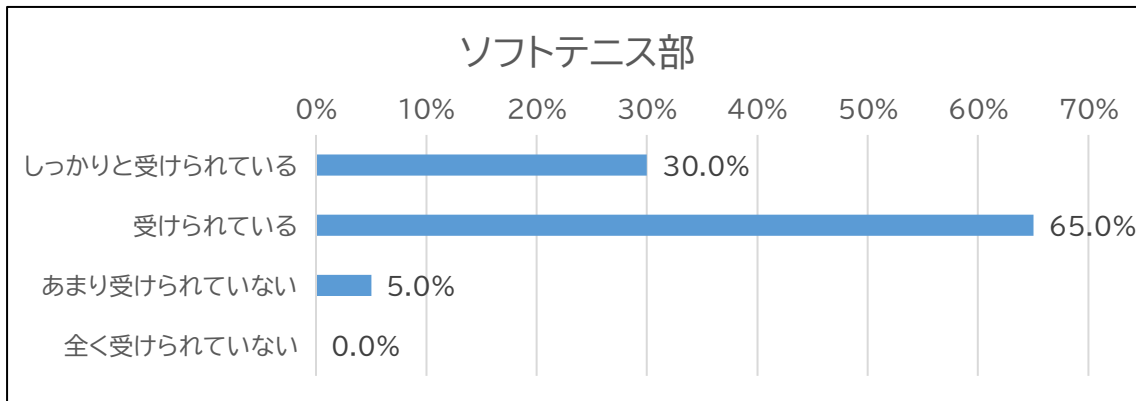
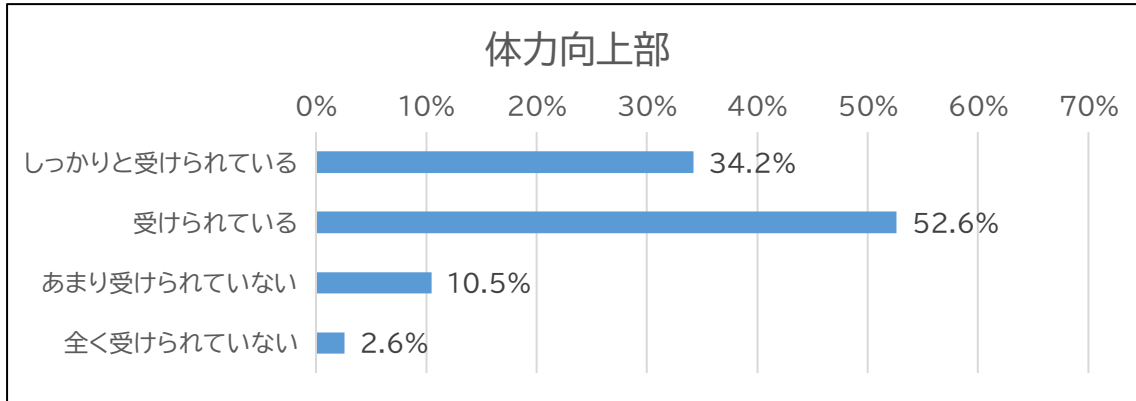
■陸上競技部（砧中学校）

- ・部活の終わる時間が遅くなり、塾に間に合わないため、メニューを最後まで終わらせずに帰らなければならないことがある。
- ・他の学校のアップとかをしないといけないから。他の学校の人と仲良くない。

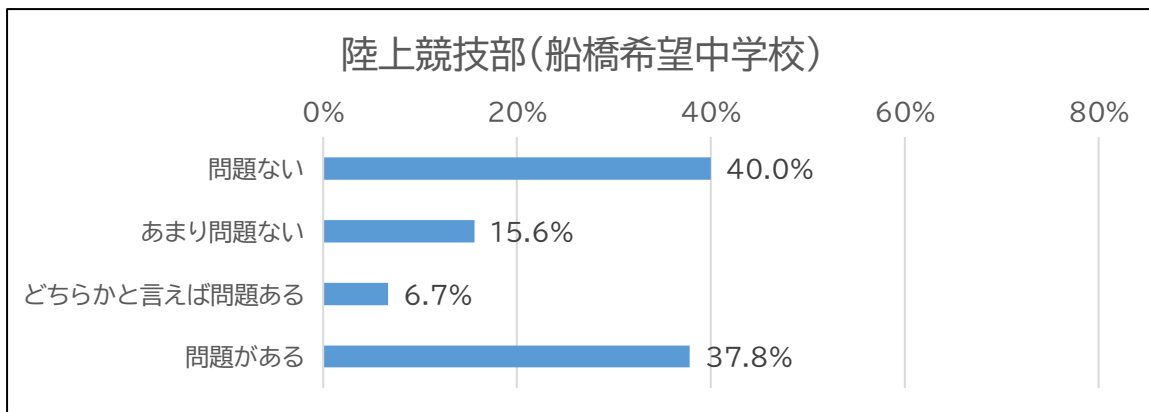
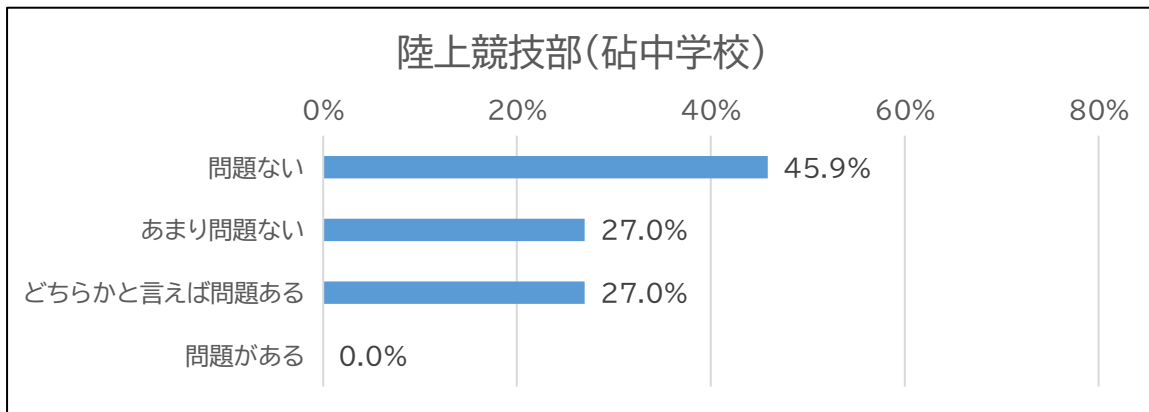
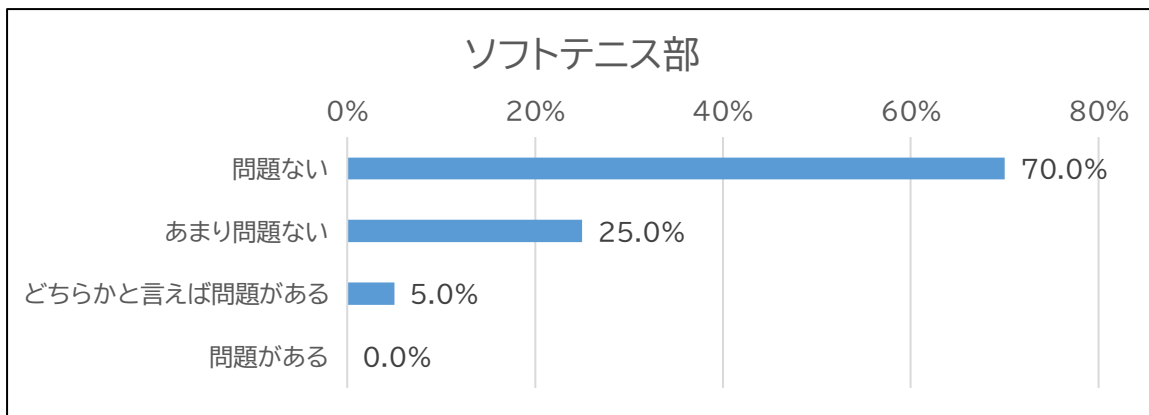
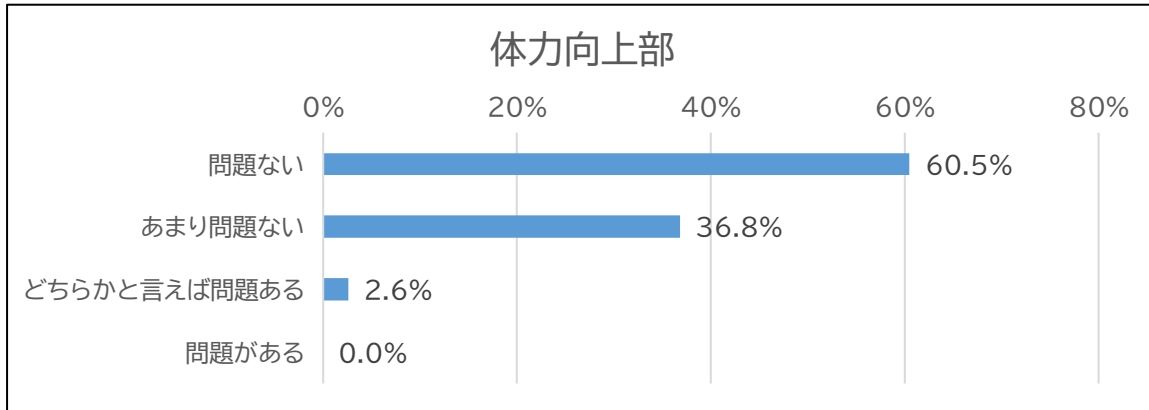
■陸上競技部（船橋希望中学校）

- ・場所が遠いから6時間授業の後に歩いて行くのが大変。

質問6. トライアル事業では、より満足のいく指導が受けられていますか。



質問 7. 部活動を地域移行した場合には、活動日によっては指導者が代わる場合がありますが、指導者が活動日によって代わることについてどう思いますか。



質問8. 質問7で「問題ない」または「あまり問題ない」と回答した理由を記入してください。

■体力向上部

- ・親切に教えてもらえるなら問題ない。
- ・色々な方との関わりを持つことができるから。色々な人から色々な知識を得られるから。
- ・指導者が変わってもやる内容はあんま変わらないから。
- ・どんな指導者でも面白いから。

■ソフトテニス部

- ・色々なコーチの指導を受けられるのはいいことだと思うから。
- ・逆に変わる分様々な種類の練習が受けられるから。
- ・1人にずーっと教えられててもやる気を無くすことがあるから。
- ・みんな優しいから

■陸上競技部（砧中学校）

- ・指導者が変わると少し緊張はしますが、練習をする上ではあまり問題ないと思った。
- ・その指導者によって、知識も考え方、教え方も違って、色々なことを学べると思う。
- ・色々な先生と接することで状況を理解することができ、人生で初めて会った人とコミュニケーションが取れるから。

■陸上競技部（船橋希望中学校）

- ・自分にあった指導者を見つけることができるから。
- ・陸上のことについてよく分かっていて、丁寧に教えてくれる方ならば誰でも良いから。

質問9. 質問7で「どちらかと言えば問題ある」または「問題がある」と回答した理由を記入してください。

■ソフトテニス部

- ・コーチによって基本的な打ち方をするコーチとほとんど試合形式の練習をするコーチがいるので練習内容が分からなくなる時があるから。

■陸上競技部（砧中学校）

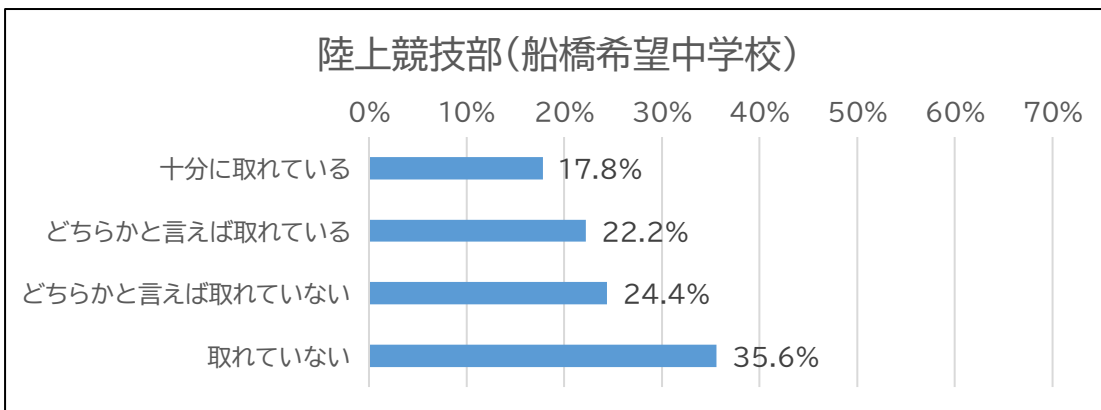
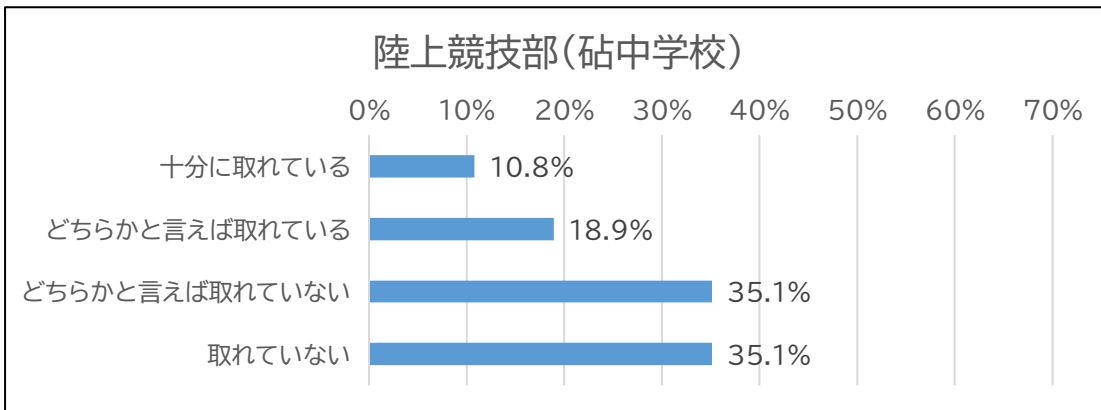
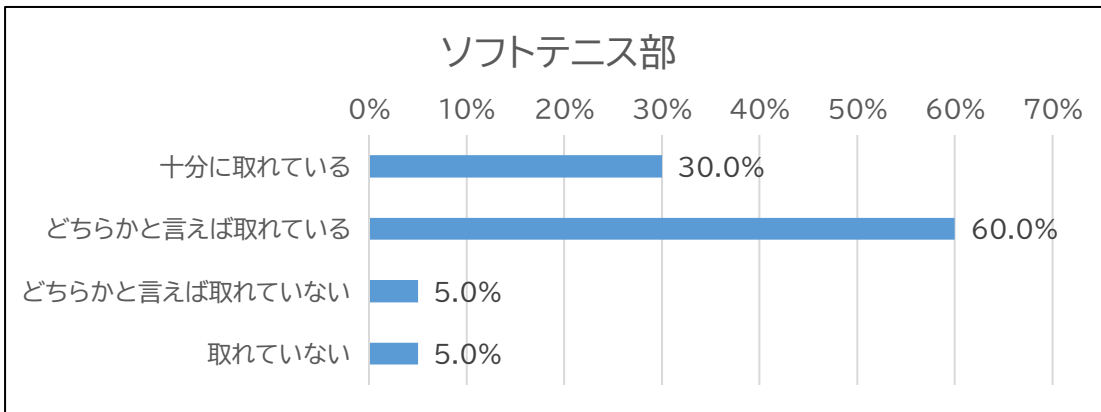
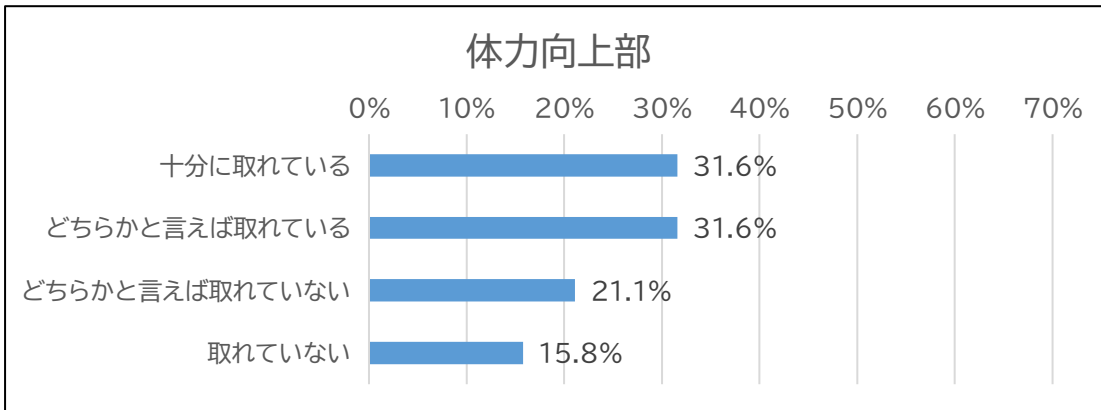
- ・教えてくださる先生によって、言っていることや、ポイントが異なると思ったから。
- ・あんまり馴染めないし気まずい。
- ・同じ指導者から受ける方が一貫性があるから。

■陸上競技部（船橋希望中学校）

- ・今の先生がいいから。
- ・教え方にも個人差があるし考え方にも差があるから。

質問10. 学校の先生以外の外部の指導者とはコミュニケーションが取れていますか。

(陸上競技部：合同部活動を一緒に指導する他校の先生とはコミュニケーションが取れていますか。)



質問 1 1. 質問 1 0 で選んだ理由について、どのような時にそのように思ったのか、記入してください。

■ 体力向上部

「十分に取れている」または「どちらかと言えば取れている」と選んだ理由

- ・「大丈夫？」とか言ってくれたから。
- ・挨拶ができているから。
- ・相手から話しかけてくれる

「どちらかと言えば取れていない」または「取れていない」と選んだ理由

- ・説明を聞いているだけで、話したことがないから

■ ソフトテニス部

「十分に取れている」または「どちらかと言えば取れている」と選んだ理由

- ・指導を受ける時にコミュニケーションをとるから。
- ・コーチがよく話しかけてくれるから。
- ・コーチは私たちの意見を取り入れてくれることがあるから。

「どちらかと言えば取れていない」または「取れていない」と選んだ理由

- ・技術も年齢も上だから話しかけづらい。教えられたり指導されたりするのがとても苦手だから少しストレスになったり、理解能力がないから分からない時、聞きづらい。

■ 陸上競技部（砧中学校）

「十分に取れている」または「どちらかと言えば取れている」と選んだ理由

- ・自分は積極的にわからないことやアドバイスを教わりに行くのでそういう時にコミュニケーションが取れているかな、と思いました。
- ・先生がわからないことがあったら後で聞きに来てと言っていたこと。先生が生徒にそのフォーム綺麗だねと言って接していたこと。
- ・個人のアクシデントにちゃんと対応してくれるから。

「どちらかと言えば取れていない」または「取れていない」と選んだ理由

- ・全く話さないわけではないが、まだ関わりが浅く少し話すのに抵抗があるから。
- ・1人の先生対大勢の部員を相手にしているから、コミュニケーションは取れない

■ 陸上競技部（船橋希望中学校）

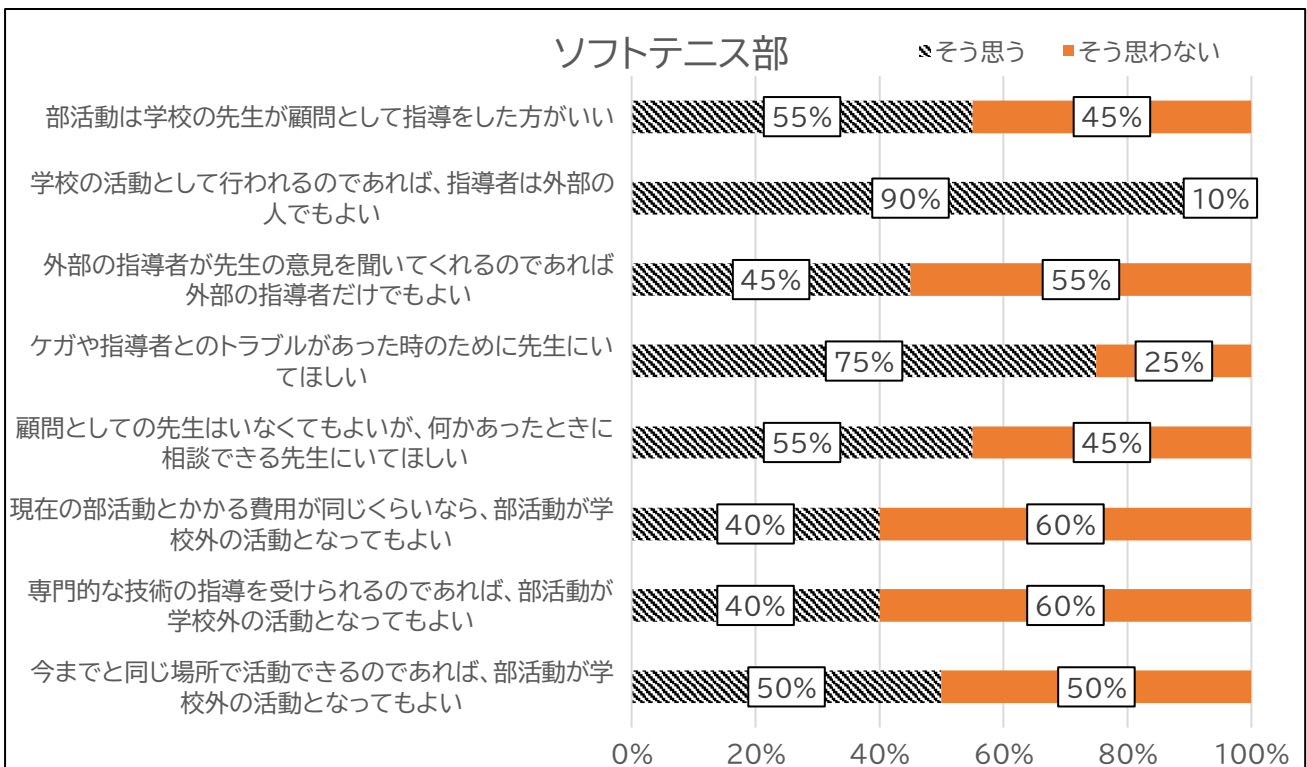
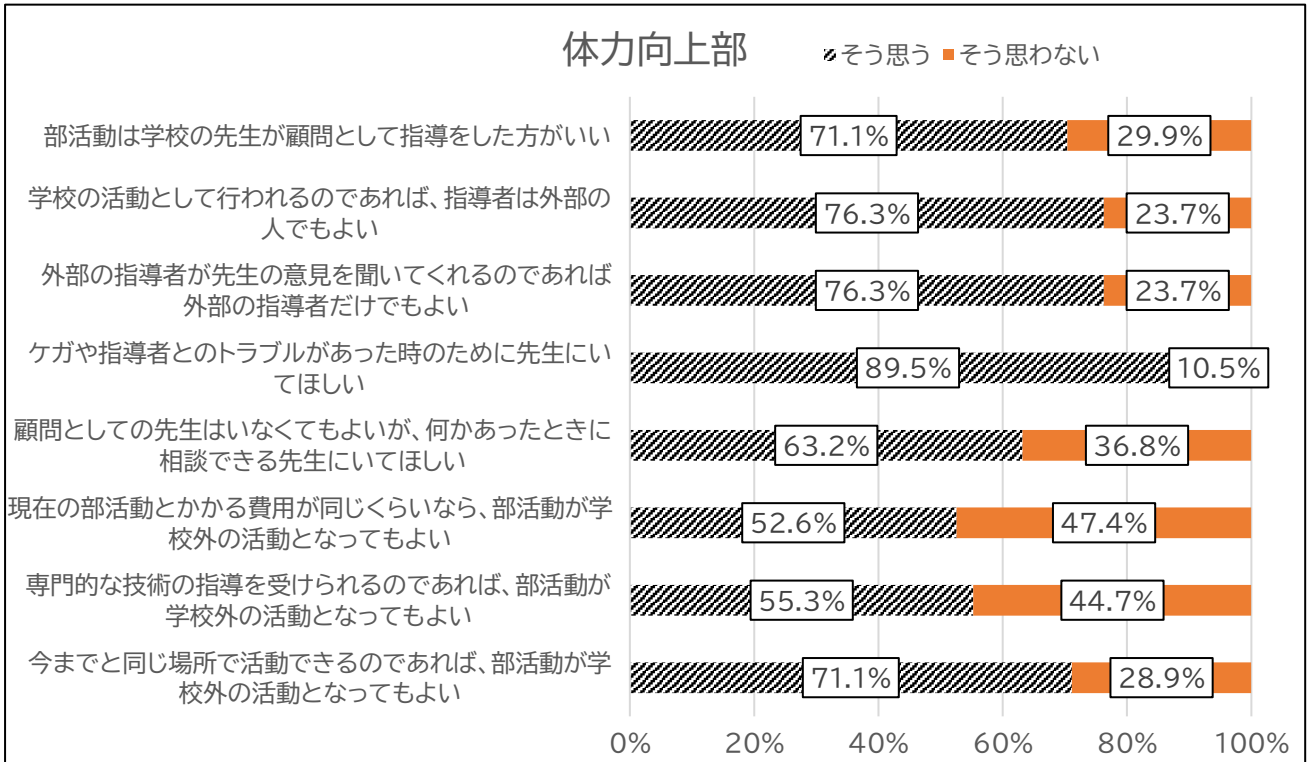
「十分に取れている」または「どちらかと言えば取れている」と選んだ理由

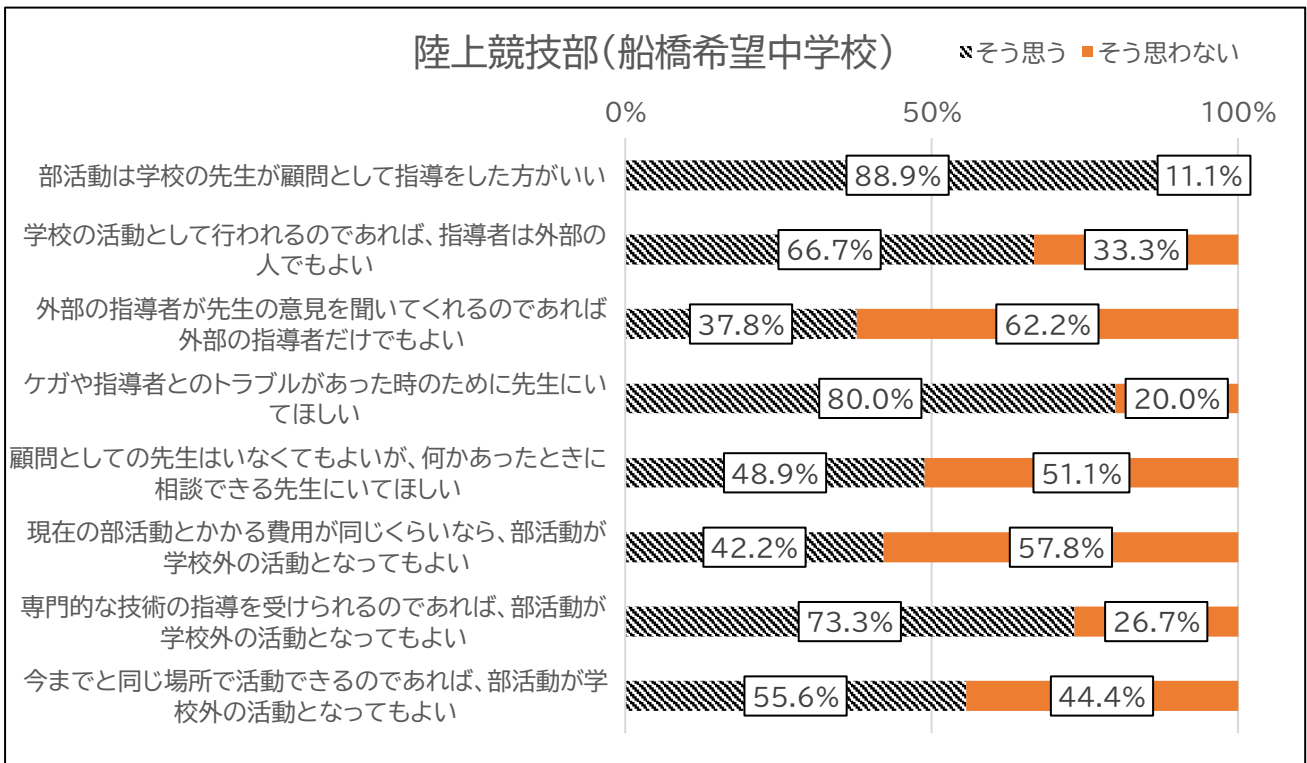
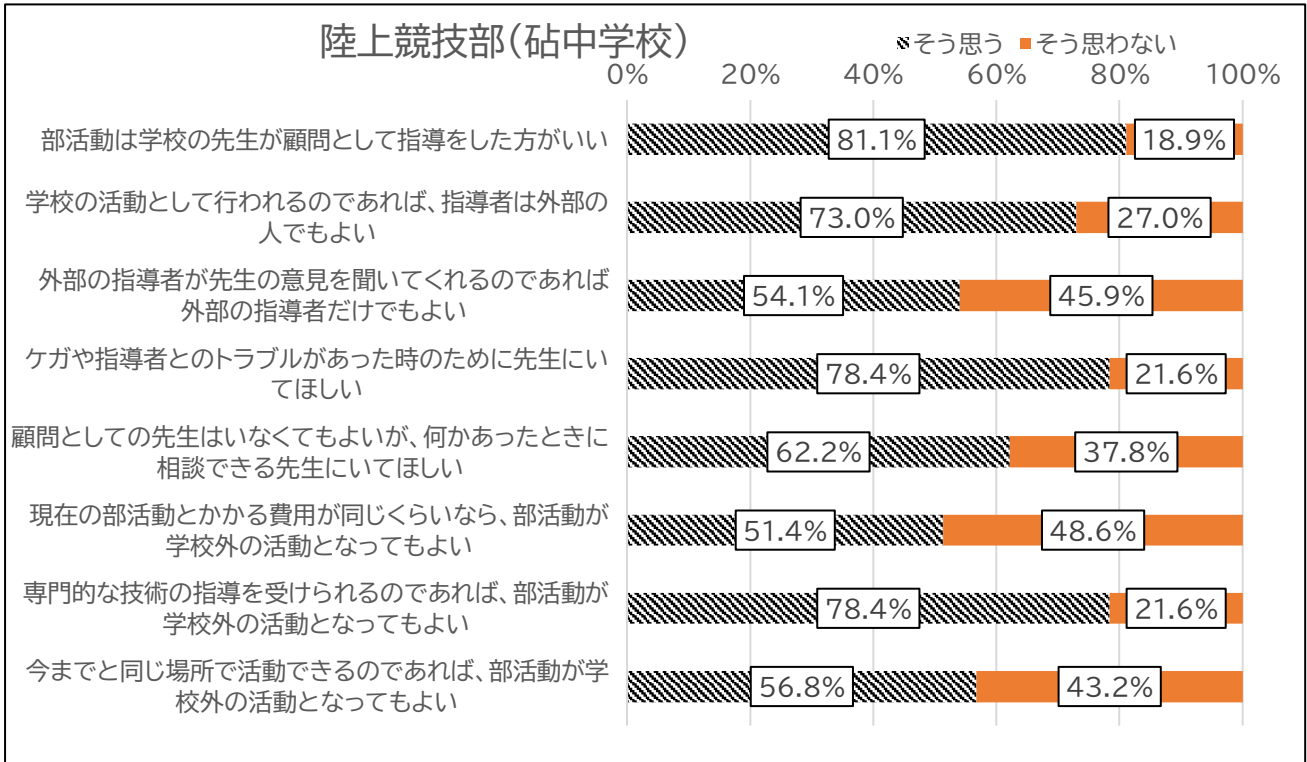
- ・他校の先生が部員全員にアドバイスをくれる、分かれて練習する前にアドバイスをしてくれることがあるから。
- ・種目練習で細かく教えてもらえるから

「どちらかと言えば取れていない」または「取れていない」と選んだ理由

- ・話す機会が少ないのでこれから増やそうと思った

質問 1 2. 今回トライアル事業として、東深沢スポーツ・文化クラブ/公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団に部活動指導をお願いしています。今後、部活動の指導者が外部の方に代わることや、学校外の活動として地域に移行される可能性があることについて、あなたはどのように思いますか。「そう思う」もしくは「そう思わない」のどちらかを選択してください。





質問 1 3. 部活動の地域移行に関する取り組みを行ったなかで、気づいたこと、感じたこと、思ったことを自由に記入してください。

■体力向上部

- ・臨機応変に対処してくれていつも助かってます。前回はハンカチもらえました。いつも本当にありがとうございます。
- ・いろんな先生がいるからたくさんの知識が得られると思う。だけど学校の先生もいて欲しいところもある！
- ・たくさんの人と話せるので、朝から気分が上がる。

■ソフトテニス部

- ・自分の悪い打ち方から良い打ち方への改善の仕方をわかりやすく教えてくれるのがいい。
- ・基礎の練習を1から見直し練習していく中で、自分の中で足りない点に気づくことができた。一つ一つの動きを意識することが大切なことなんだなと思った。

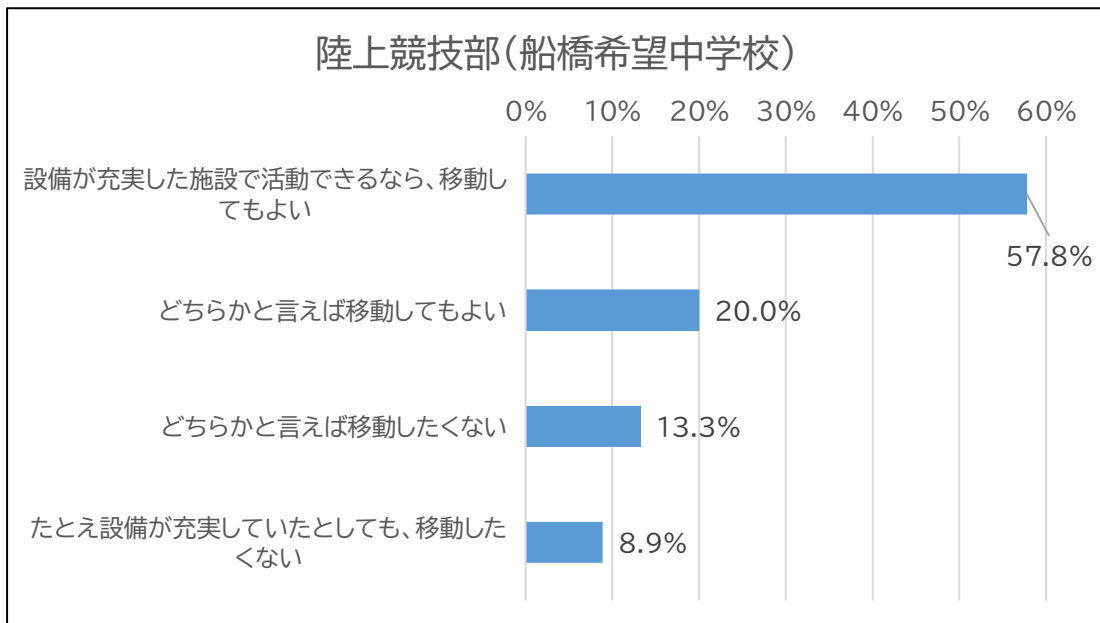
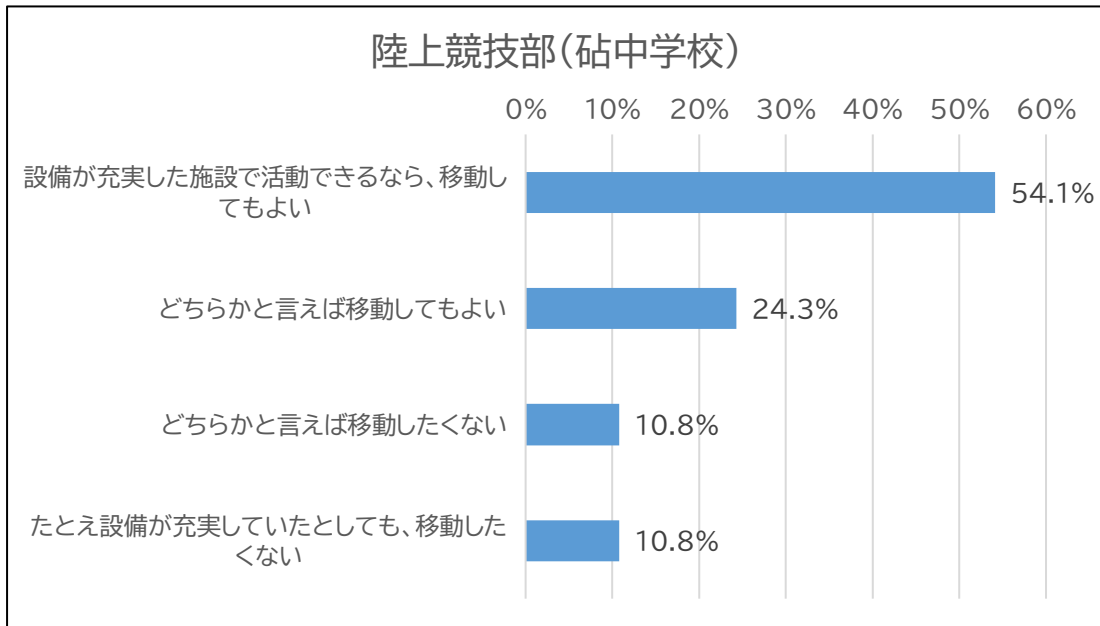
■陸上競技部（砧中学校）

- ・やはり、顧問の先生による指導が一番だと思いました。自分に慣れたアップの方が、物足りなさがない気がしました。
- ・他校の生徒とコミュニケーションをとれることで、練習の幅が広がった。また新しいライバルと戦えて、新鮮な気持ちになった。
- ・他校と練習をすることで少しレベルの高い、質の高い練習になっていると思う。
- ・他校の指導者とはあまりコミュニケーションをする機会がないと思う。
- ・学校以外で練習できるのが楽しい。

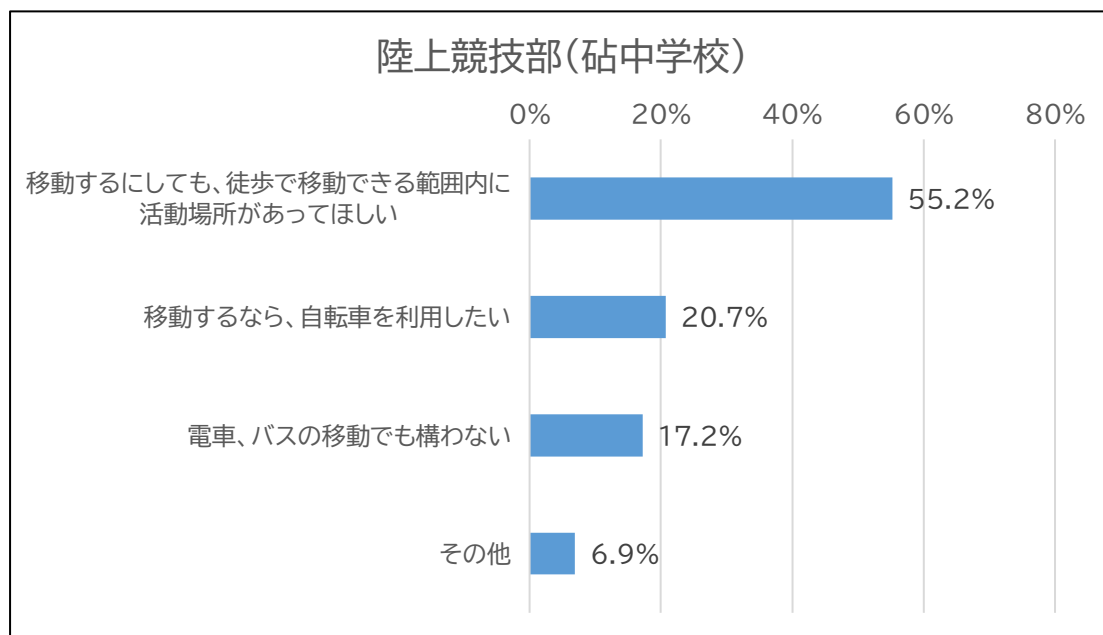
■陸上競技部（船橋希望中学校）

- ・部活動は学校内の行事である時が一番いいと思いました。
- ・家から競技場が遠いのに自転車がダメなのが大変です。
- ・その専門の人に教えてもらえることは滅多にないことなので、一回一回の部活動を大事にしていきたいと思っている。
- ・周りの選手の走りの良いところを見れて、とてもためになる。
- ・いつもとは違う環境での部活はいつもより緊張しました。

質問 1 4. 学校外のグラウンドや施設まで移動することについて、どのように思いますか。

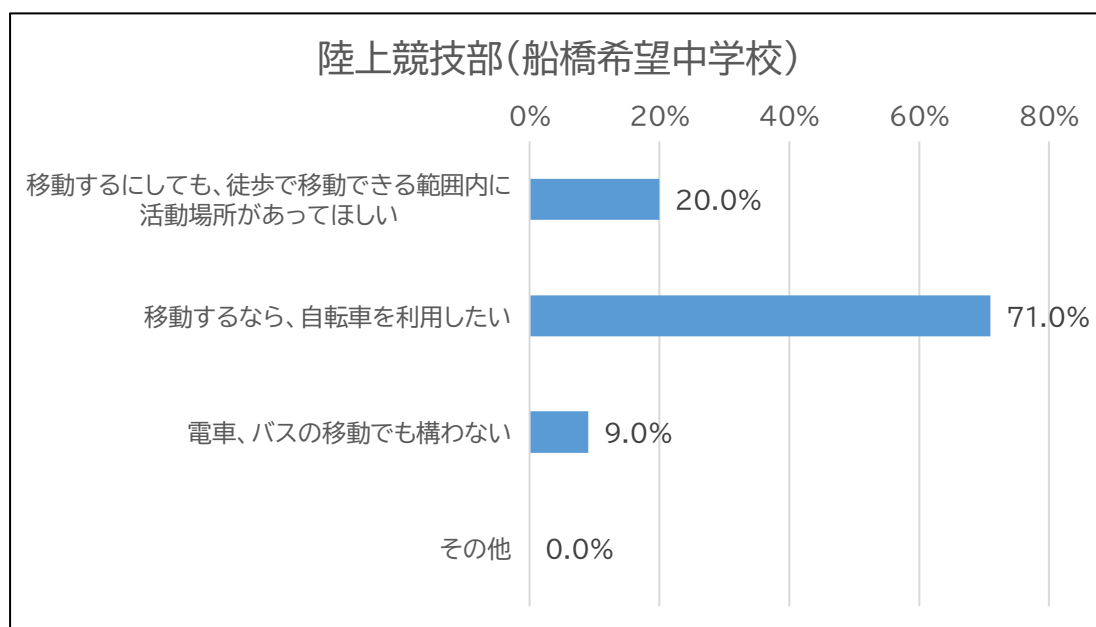


質問15. 質問14で「移動してもよい」または「どちらかと言えば移動してもよい」と回答した方にお聞きします。移動の手段について、どのように思いますか。



(その他の回答)

- ・電車やバスの移動でも良いが、自転車で移動できる場所は自転車を使用したい。
- ・今のままで大丈夫。



質問16. 質問14で「どちらかと言えば移動したくない」または「移動したくない」と回答した理由を記入してください。

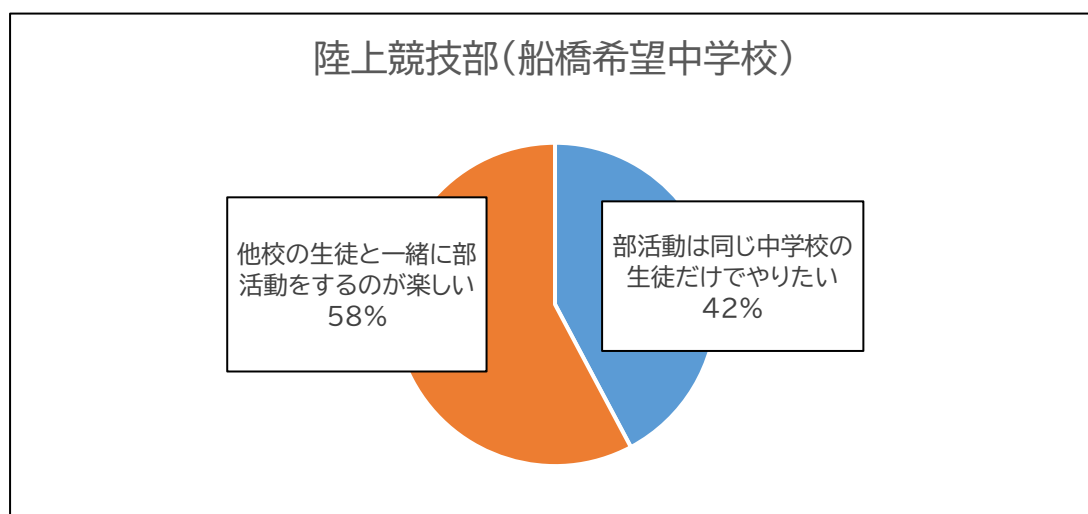
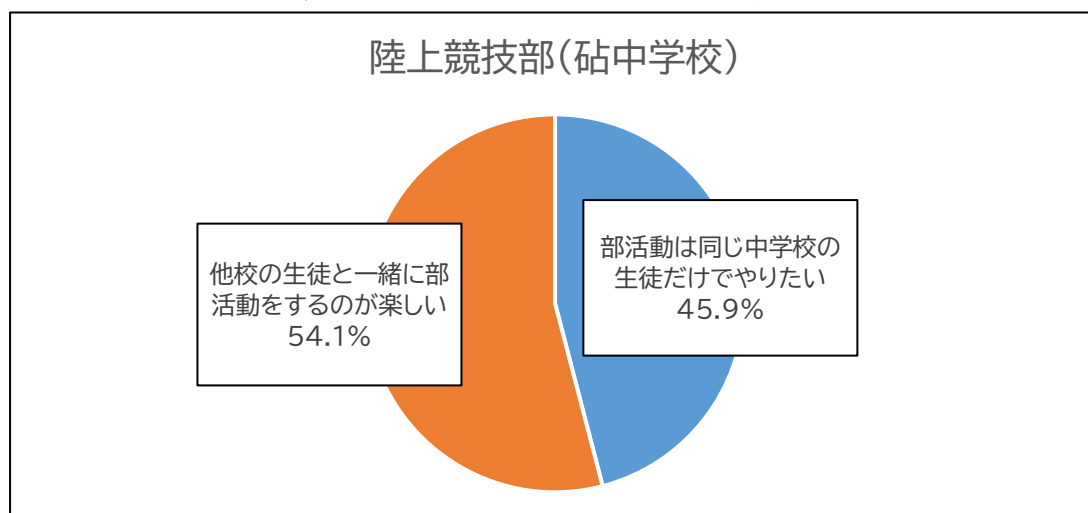
■陸上競技部（砧中学校）

- ・練習時間が遅くなるし学校が違うので練習時間の中に少しのことしかできない。
- ・自分が今まで練習して来た場所の方が慣れていて、楽しい。競技場練習もありですが、やはり、一つの学校で練習したいな、と思いました。
- ・練習が長くなるから。移動で疲れるから。
- ・移動する距離が長ければ長いほど、行くのに時間もかかり、帰る時間も遅くなるため。
(人によって、家が近い人もいれば遠い人もいるから)

■陸上競技部（船橋希望中学校）

- ・遠いし、自転車が禁止だから。
- ・大変だから。練習前に疲れるから。

質問17. 他校の生徒と部活動を行うことについて、どのように思いますか。



質問18. 質問17で「部活動は同じ中学校の生徒だけでやりたい」と回答した理由を記入してください。

■陸上競技部（砧中学校）

- ・人見知りの一年生などは、同じ学校の先輩でさえ慣れていないのに、他の学校の生徒と仲良くなれる気がしないから。
- ・あまり親しみのない人たちなので練習が緊張してしまう。
- ・同じメンバーである中学の友達を全力で応援できるから。

■陸上競技部（船橋希望中学校）

- ・コミュニケーションをとってもうまく会話が続かないから。
- ・自分は知らない人と話したりすることが苦手だから。

質問19. 質問17で「他校の生徒と一緒に部活動をするのが楽しい」と選んだ方にお聞きします。どのような時に楽しいと感じますか。

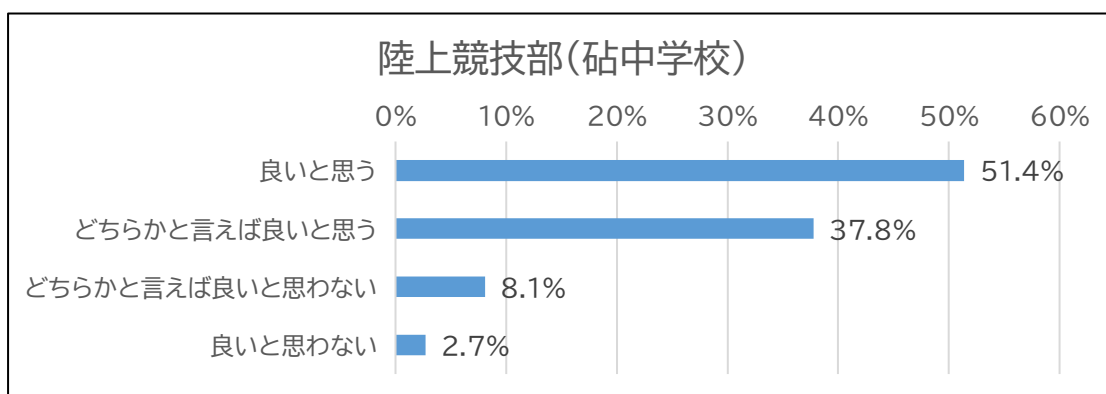
■陸上競技部（砧中学校）

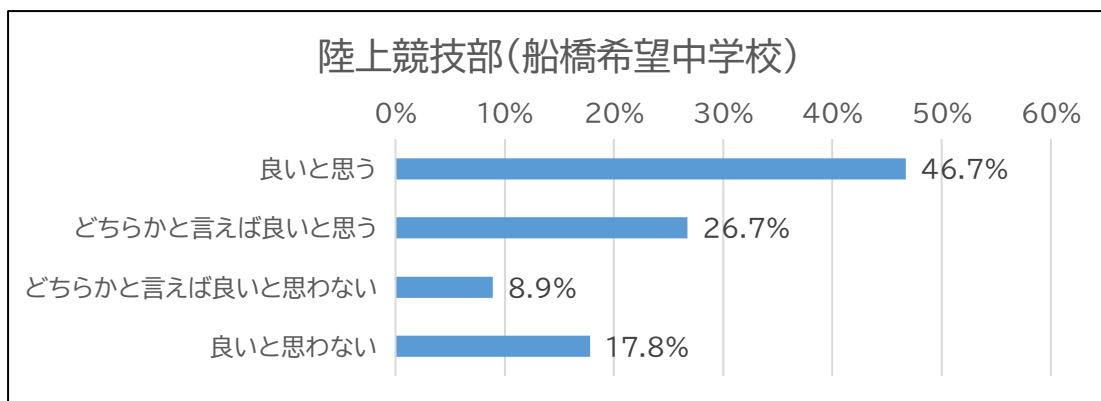
- ・よく大会で会う子と仲良くなれるから。
- ・お互いに実力を高め合えるのでいいと思う。
- ・友達ができるかもだから。

■陸上競技部（船橋希望中学校）

- ・いつもの人だけじゃなくて他の早い人のも見たいから。
- ・知らない人と触れ合うことができる時。
- ・自分たちだけでやるより他の学校の人がどんなことをしているのかや、より多くの人の走り方が見えるから勉強になるし、交流ができて楽しい

質問20. 他校の先生から部活動の指導を受けることについて、どのように思いますか。





質問 2 1. 質問 2 0 で「良いと思う」または「どちらかと言えば良いと思う」と回答した理由を記入してください。

■陸上競技部 (砧中学校)

- ・他校の生徒と練習をするのはどちらかと言うと反対ですが、経験のある指導者に教わるのは、良い経験になる気がしました。
- ・先生によって教え方が違うので、いろいろ勉強できる。
- ・他校の練習はどのように行っているのかを知って自分の学校と比較することができ、場合によっては専門的なことも学べて、強い学校とだったら、より学べることが多いと思う。

■陸上競技部 (船橋希望中学校)

- ・いつもとちがう指導者に教わることで新しい発見や教えがあるから。
- ・学校によって違うメニューだから、たまには他校のメニューも取り組んでみたいから。

質問 2 2. 質問 2 0 で「どちらかと言えば良いと思わない」または「良いと思わない」と回答した理由を記入してください。

■陸上競技部 (砧中学校)

- ・意見がいろいろあるから。また、大会の前の時だと、学校によってメニューがあるから。
- ・私の学校のやり方を変えたくないから。

■陸上競技部 (船橋希望中学校)

- ・よく知っている先生から指導を受けた方がコミュニケーションがもっととれて、わかりやすく説明してもらえるから。
- ・自分の事を知ってもらっていた方が良いと思うから。
- ・最終的には敵になるから。

2. 顧問教員対象 アンケート結果

※顧問教員へのアンケートでは、対象者の人数が少なく、回答した個人を特定可能な状況が想定されるため、検討委員会以外には回答内容を非公開とする。

以下、アンケートの質問内容のみ掲出する。

質問1. トライアル事業の実施にあたり、部活動の運営について外部指導者と十分な意思疎通が図れていると思いますか。

質問2. 質問1で「どちらかと言えばできていない」または「できていない」と回答した先生にお聞きします。どのような場面でそのように感じますか。また、それを解消するためにはどのような改善策があると考えますか。

質問3. トライアル事業は、教員の学校業務の負担軽減につながっていると思いますか。

質問4. 質問3で「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答した場合、どのような点が負担軽減につながっていると思いますか。

質問5. 質問3で「どちらかと言えばそう思わない」または「そう思わない」と回答した場合、どのような点が負担軽減につながっていないと思いますか。

質問6. トライアル事業では、外部指導者と連携し自身が理想とする部活動運営ができていると感じていますか。(陸上競技部：トライアル事業では、顧問教員として自分自身が理想とする部活動運営ができていると感じていますか。)

質問7. 質問6で「どちらかと言えばできていない」または「できていない」と回答した先生にお聞きします。その理由を記入してください。

質問 8. トライアル事業実施前と比較して、部活動以外の学校業務（授業や指導）に変化はありましたか。

質問 9. 質問 8 で「あまり変わらない」または「かえって、学校業務に関われなくなった」と回答した先生にお聞きします。その理由を記入してください。

質問 10. 部活動の地域移行に関する取り組みを、来年度以降も活用したいと思いますか。

質問 11. 質問 10 で「積極的に活用したい」または「どちらかと言えば活用したい」と回答した先生にお聞きします。これからの部活動をさらにより良いものにするために、必要だと考えられる事柄について、ご意見がありましたら記入してください。

質問 12. 質問 10 で「どちらかと言えば活用したくない」または「活用したくない」と回答した場合、その理由を記入してください。

質問 13. 運動部活動の顧問の視点から見て、部活動の地域移行に関する取り組みについて、気になる点や直してほしい点、地域移行に関するご意見がありましたら記入してください。

3. 指導者対象 アンケート結果

質問1. トライアル事業にあたり、部活動の運営について学校（管理職や顧問の教員）と十分な意思疎通が図れていると思いますか。

	体力向上部	ソフトテニス部	陸上競技部
できている	5人	0人	4人
どちらかと言えばできている	0人	2人	2人
どちらかと言えばできていない	2人	0人	0人
できていない	0人	0人	0人

質問2. 質問1で「どちらかと言えばできていない」または「できていない」と回答した方にお聞きします。どのような場面でそのように感じますか。また、それを解消するためにはどのような改善策があると考えますか。

■体力向上部

どのような運動をしたら良いか、また、勧めたら良いかを決めかねています。

質問3. トライアル事業は、教員の学校業務の負担軽減につながっていると思いますか。

	体力向上部	ソフトテニス部	陸上競技部
そう思う	1人	0人	3人
どちらかと言えばそう思う	4人	2人	2人
どちらかと言えばそう思わない	1人	0人	1人
そう思わない	1人	0人	0人

質問4. 質問3で「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答した方にお聞きします。どのような点が負担軽減につながっていると思いますか。

■体力向上部

- ・3月迄は、顧問教員2名。現在、顧問教員1名と地域指導者2名にて実施。また、現状はまだトライアルしてませんが、地域の指導者にて運営のトライアルを試行予定。
- ・現在は顧問の先生も一緒にいてくださるので負担軽減に大きく寄与しているとは思われないが、先生のクラスの生徒（体力向上部員ではない）の対応が、朝、急遽必要となった場合に、わずかな時間でも席を外すことができるため。
- ・早朝の部活なので、地域の人が先に来られることのメリットがこれからあればいいと思う。

■ソフトテニス部

- ・練習に常に教員が立ち会う必要がなく、練習内容も指導者が組み立てられるため。
- ・少なくとも、練習中ずっと帯同する必要は無くなったのではないか。

■陸上競技部

- ・指導面では専門的な知識のある先生が中心になって指導してもらえるので、専門的な知識のない先生の負担は減る。
- ・1人で全生徒を見ていたところに補助の学生などが入ったことで、練習を見る人が増えたこと。
- ・「ほぼ99パーセントは、全種目を1人で指導している」と顧問の先生がお話をされていた中で、外部指導員が専門種目について指導をする事で負担軽減になっていると思います。
- ・生徒への指示や生徒の行動観察を多くの人が行い、情報を共有することで効率良い指導ができると考えます。

質問5. 質問3で「どちらかと言えばそう思わない」または「そう思わない」と回答した方にお聞きします。どのような点が負担軽減につながっていないと思いますか。

■体力向上部

- ・現在は、顧問の先生と一緒に参加しているので。
- ・現状は教員と指導者のどちらがやるのかがはっきりしていない事がまだあるように思うため。

■陸上競技部

- ・学校から移動しなければならないこと、他学校の生徒の指導をすることなど

質問6. トライアル事業では、指導者として自分自身が理想とする指導ができていると感じていますか。

	体力向上部	ソフトテニス部	陸上競技部
できている	0人	0人	2人
どちらかと言えばできている	3人	2人	3人
どちらかと言えばできていない	4人	0人	1人
できていない	0人	0人	0人

質問7. 質問6で「どちらかと言えばできていない」または「できていない」と回答した方にお聞きします。その理由を記入してください。

■体力向上部

- ・指導のお手伝いくらいしか参加していないため。指導と言うより、見守り隊的な役目。
- ・指導というより、活動を見守っている要素が強いため。

■陸上競技部

- ・指導というより、支援といった感じのため。

質問8. 大会引率について、学校の教員不在で指導者の方のみで引率することになった場合、不安はありますか。

	ソフトテニス部
ない	0人
あまりない	0人
どちらかと言えばある	2人
ある	0人

質問9. 質問8で「どちらかと言えばある」または「ある」と回答した方にお聞きします。どのような点が不安ですか。

■ソフトテニス部

- ・まだ全員とのコミュニケーションができていない。

- ・問題発生時などの連絡体制がないから。

質問10. 大会運営について、外部指導員として、どのような支援・協力することができますか。

■ソフトテニス部

- ・運営のサポート
- ・現在のところ、イメージがわきません

質問11. 外部指導者の視点から見て、部活動の地域移行に関する取り組みについて、気になる点や直してほしい点、地域移行に関するご意見がありましたら記入してください。

■体力向上部

- ・数回、外部指導者として部員に関わっただけではあるが、学校外で体力向上部の部員に会うと挨拶をしてくれる子どもが出てきた。教員の負担軽減とともに、地域に家族や教員以外で顔見知りの大人がいるということは、防犯や子どもたちの成長においても意義のあることではないかと思う。
- ・顧問の先生の手が離れてから、どうなるか。
- ・地域の指導者に対する、統一した研修が必要。
- ・部活動の地域移行については、教員の異動に併せて、その関わり方が変わると思う。受け皿となる側がその都度対応を変えていくのもなかなか難しいのでは、と思う。
- ・子どもの部活動の時間（平日夕方や土日）に対応できる人材を確保するのはかなり困難。日替わりで指導者が変わるようでは指導に一貫性を欠くことになるのではないかとも思われる。体力向上部のような部活であれば良いのだが・・・
- ・体力向上部という特徴ある部活は、指導内容も限定しないため、様々な事に挑戦出来るメリットもあるが、きちんと見極めないと短時間の活動時間中に出来ることは限られてしまい、継続してやるなら計画をたてることが求められる。これまでの生徒主体で決めてきたスタイルと異なっていく可能性もあると思うので、そのバランスをどのようにとるのか？

■ソフトテニス部

- ・平日に教える人材を確保するのが難しいという問題があります。
- ・トライアルで始まりましたが、終着点が見えず、今後どうなるか不安なのと指導者の確保が一番の課題かと思っています。

資料10 部活動地域移行トライアル事業に関するアンケート集計結果

令和6年1月実施分

部活動地域移行トライアル事業に関する アンケート集計結果

令和6年1月

世田谷区

I 調査概要

1 調査目的

中学校部活動地域移行に係るトライアル事業の実施から約8か月もしくは9か月が経過し、事業開始当初との状況の変化などを改めて把握し、今後の検討の参考にするため。

2 調査対象

以下の部活動で、生徒/顧問教員/指導者を対象とする。

- (1) 東深沢中学校体力向上部
- (2) 船橋希望中学校ソフトテニス部
- (3) 砧中学校陸上競技部
- (4) 船橋希望中学校陸上競技部

※演劇部合同部活動については、別途実施予定。

3 調査内容

(1) 生徒対象

- ①トライアル事業の満足度について
- ②指導者について

活動日によって指導者が変わることで、指導者とのコミュニケーション

- ③今後の部活動地域移行について
- ④移動について
- ⑤合同部活動について

※④と⑤は、砧中学校陸上競技部及び船橋希望中学校陸上競技部のみの内容

(2) 顧問教員対象

- ①外部指導者との連携について
- ②教員の負担軽減について

トライアル事業が負担軽減につながっているか、学校業務に変化はあったか

- ③今後の部活動地域移行について

(3) 指導者対象

- ①学校との連携について
- ②教員の負担軽減について

4 調査期間

令和6年1月15日(月)～26日(金)

5 回答数

部活動名	生徒 回答数	顧問教員 回答数	指導者 回答数
東深沢中学校体力向上部	20人	1人	4人
船橋希望中学校ソフトテニス部	19人	1人	3人
砧中学校陸上競技部	7人	2人	3人
船橋希望中学校陸上競技部」	12人	0人	

6 留意点

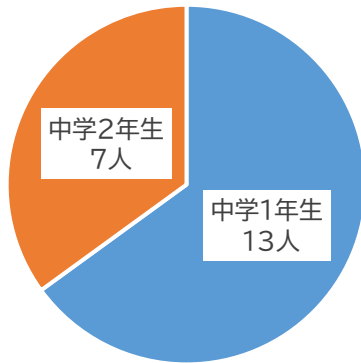
アンケート調査を集計した数値は小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。そのため、選択肢の数値(%)をすべて合計しても、四捨五入の関係で、100%にならないことがある。

Ⅱ 調査結果

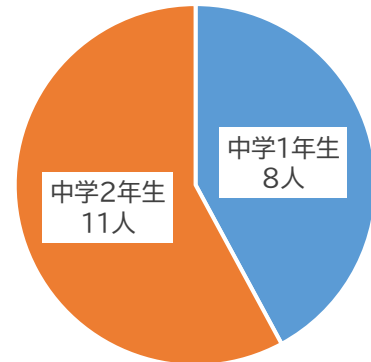
1. 生徒対象 アンケート結果

質問1 あなたは何年生ですか。

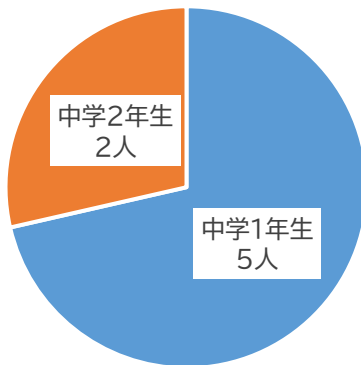
東深沢中学校校体力向上部



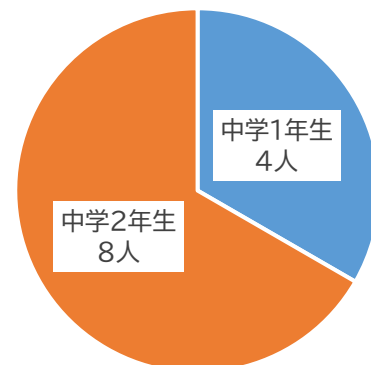
船橋希望中学校ソフトテニス部



砧中学校陸上競技部



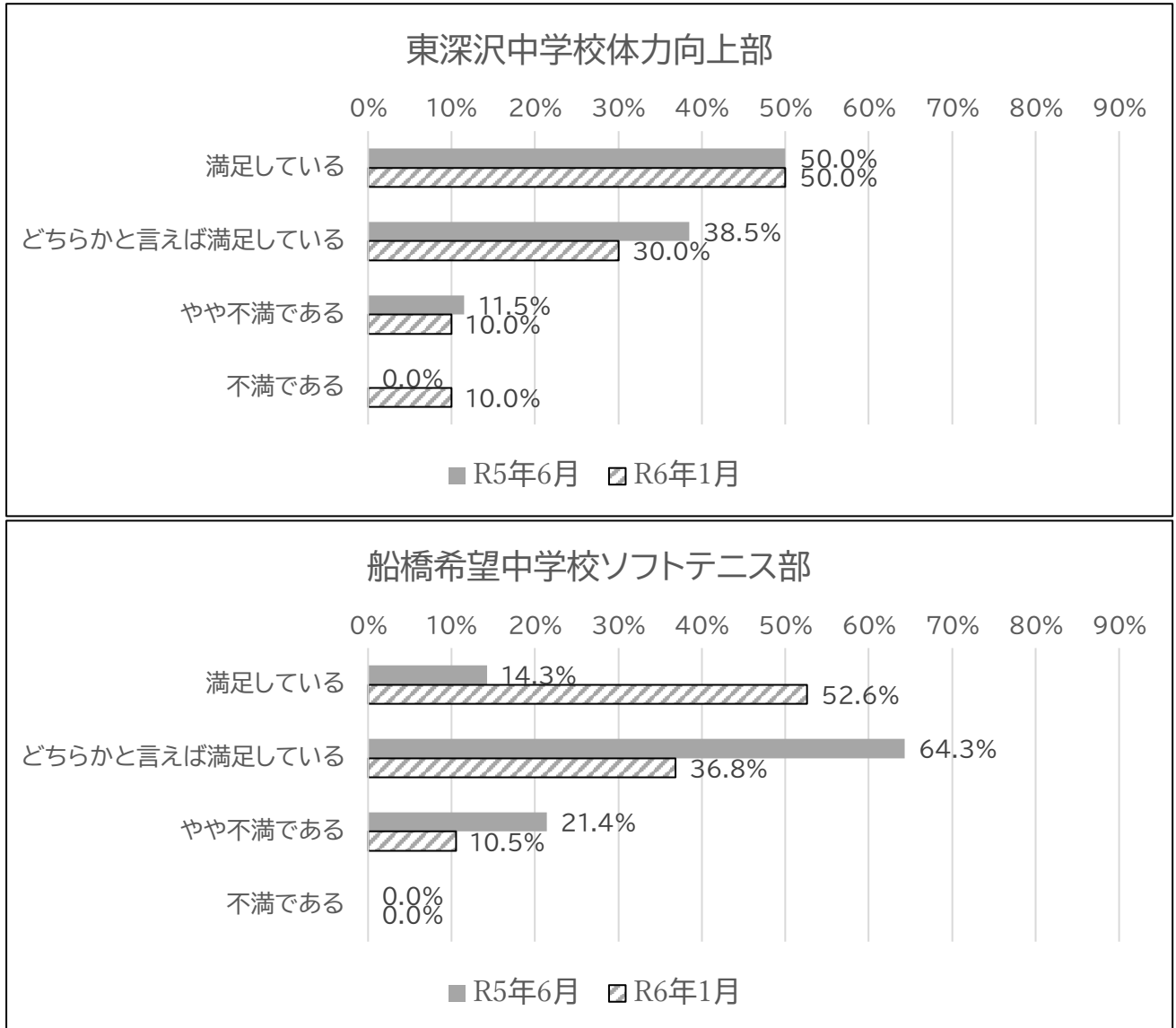
船橋希望中学校陸上競技部

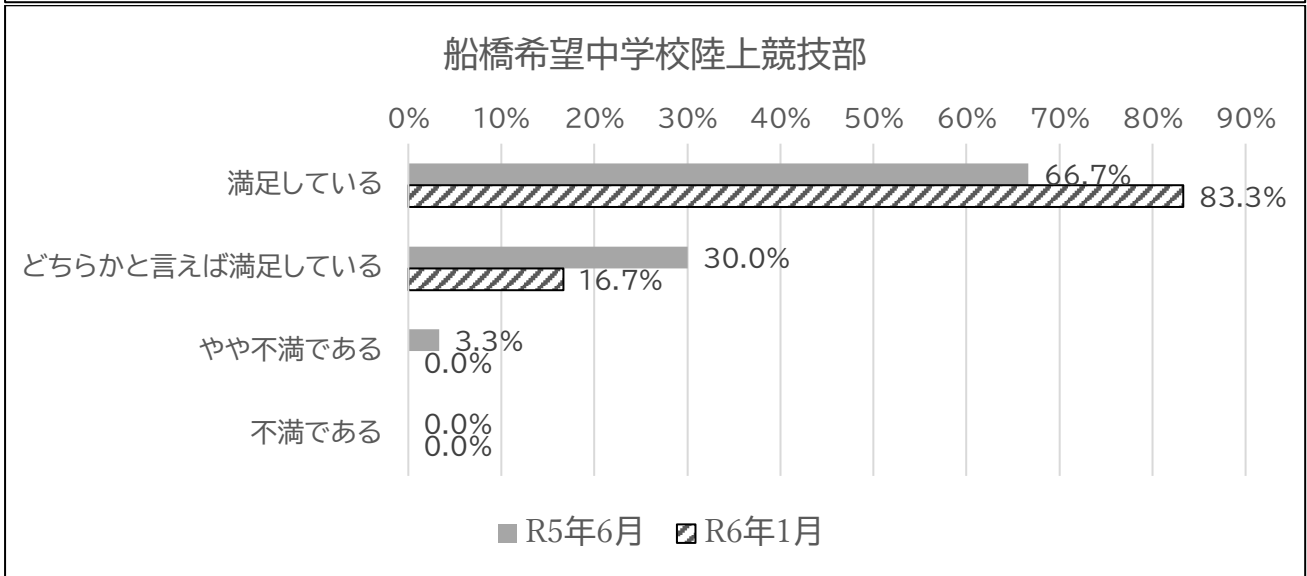
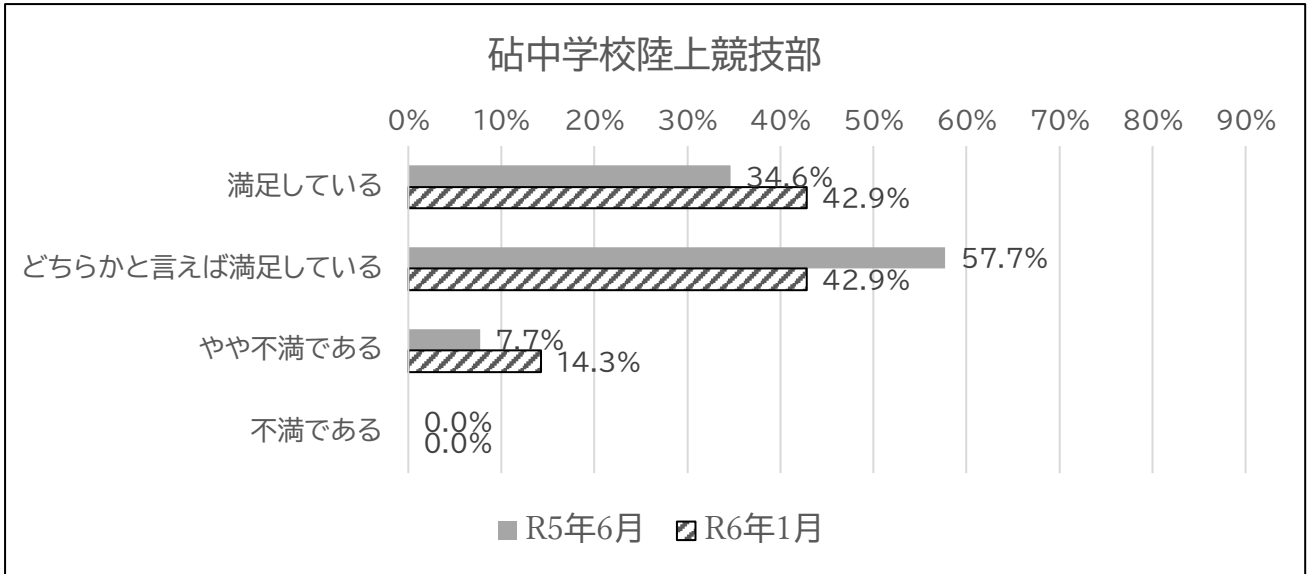


質問2 トライアル事業開始後の部活動に満足していますか。

※令和5年6月実施時：質問3 昨年度の部活動と比較した場合、トライアル事業開始後の部活動に満足していますか。中学1年生と今年4月以降に入部した生徒は、「中学1年生または今年4月以降に入部」を選択してください。

※「中学1年生または今年4月以降に入部」の選択肢は、令和5年6月実施時のみ設定したため、本質問にかかる集計において、「R5年6月」の部分は、当該選択肢を選んだ人数を除外して算出している。





質問3 質問2で「満足している」または「どちらかと言えば満足している」と回答した理由を記入してください。

■東深沢中学校体力向上部

- ・楽しいから。
- ・楽しく地域の人にも優しいから。
- ・バドミントンやバスケットボールなど様々なスポーツが一つの部活で出来るから。

■船橋希望中学校ソフトテニス部

- ・専門的な指導が受けられるから。
- ・コーチからの指導は明確なので、大会などに向けてより良い指導をしてもらっているから。
- ・楽しいし、コーチがちゃんとしているから。

■砧中学校陸上競技部

- ・競技場で練習できるというのは大会と同じ地面やフィールド用スパイクを使えて大会までの調整ができるから。
- ・いつもは出来ない、他の学校の子達と一緒に活動することが出来て走れて、色々学べることがあるから。
- ・充実しているから。

■船橋希望中学校陸上競技部

- ・色々な人と関われるから。
- ・校庭ではできないような練習ができるから。
- ・競技場での練習で大学生の先生が教えに来てくれた、他校の人とメニューができて刺激になる。
- ・充実した練習ができているから。

質問4 質問2で「やや不満である」または「不満である」と回答した理由を記入してください。

■東深沢中学校体力向上部

- ・バスケなどで男子だけ盛り上がりすぎてしまい、女子が一回もボールを触れない。
- ・活動を勝手にきめられる。

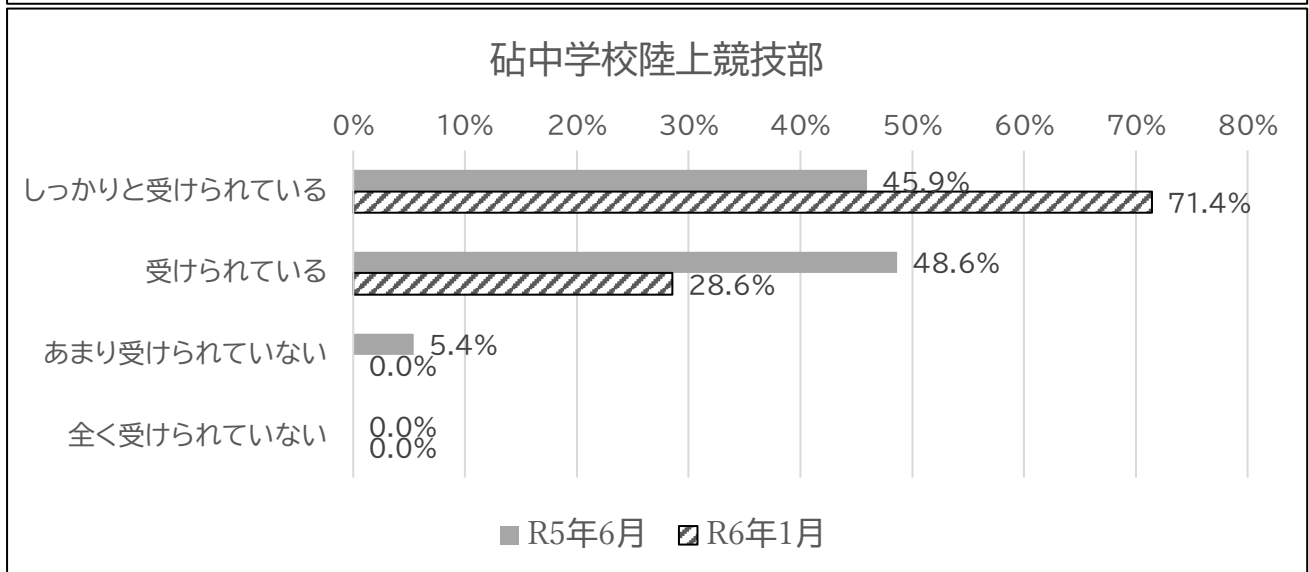
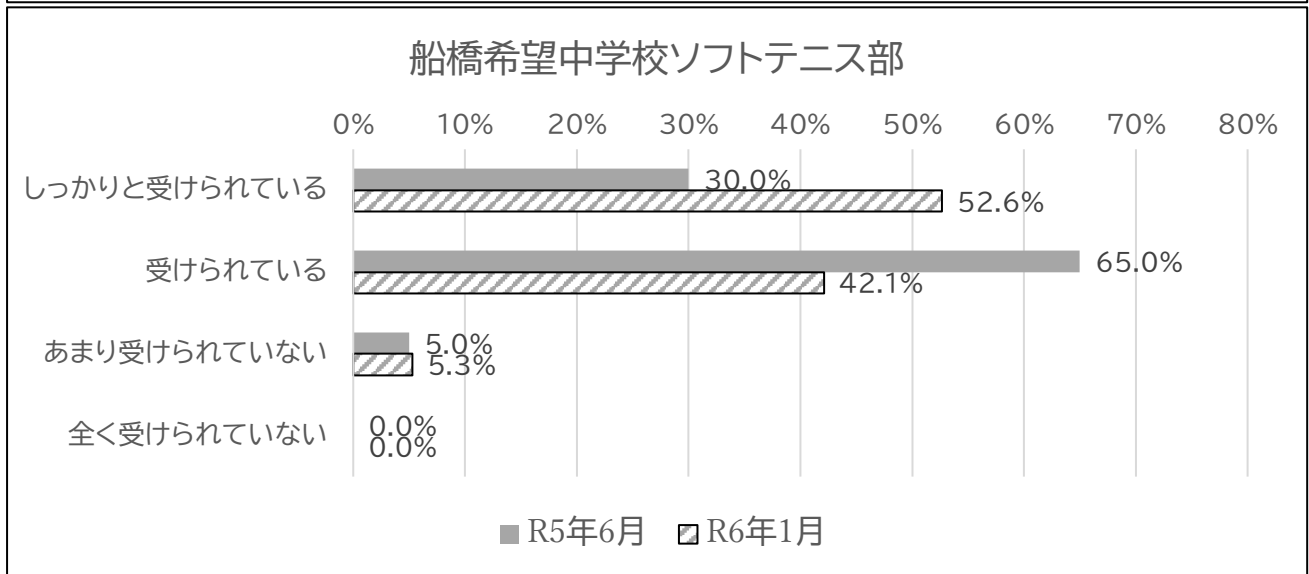
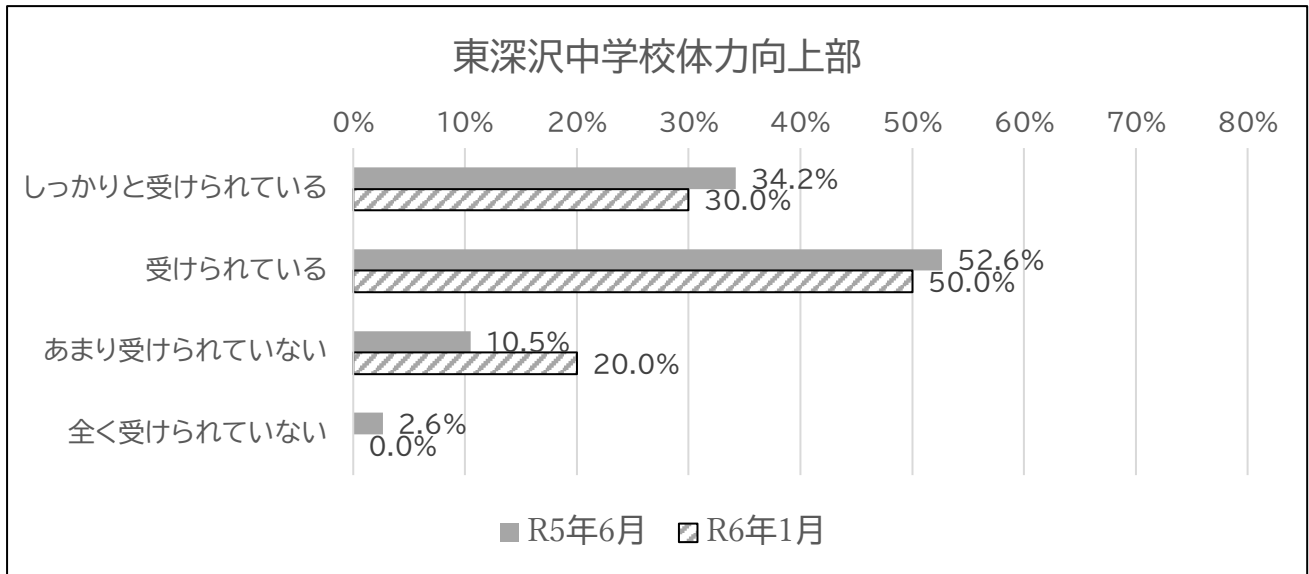
■船橋希望中学校ソフトテニス部

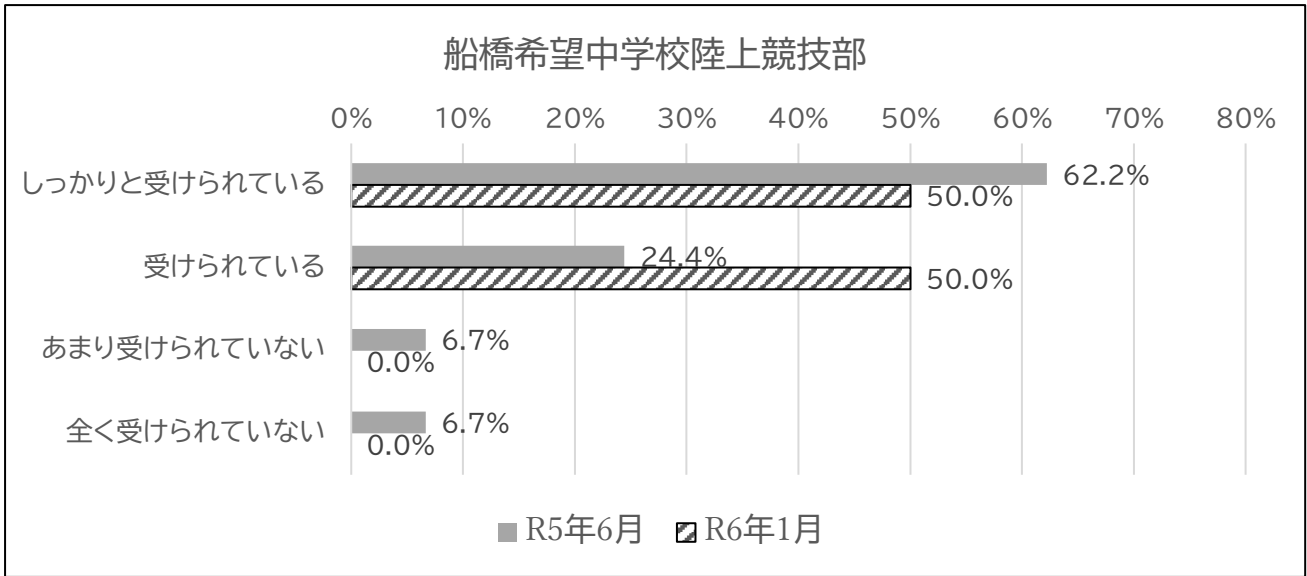
- ・コーチが2人いて教え方がコーチによって違う。

■砧中学校陸上競技部

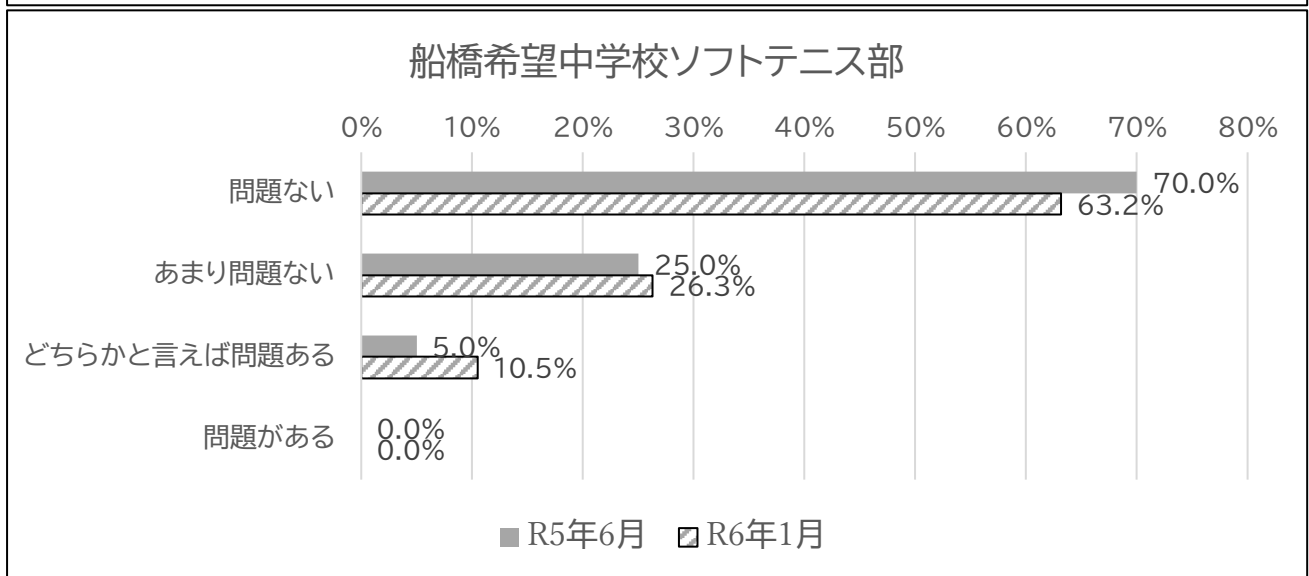
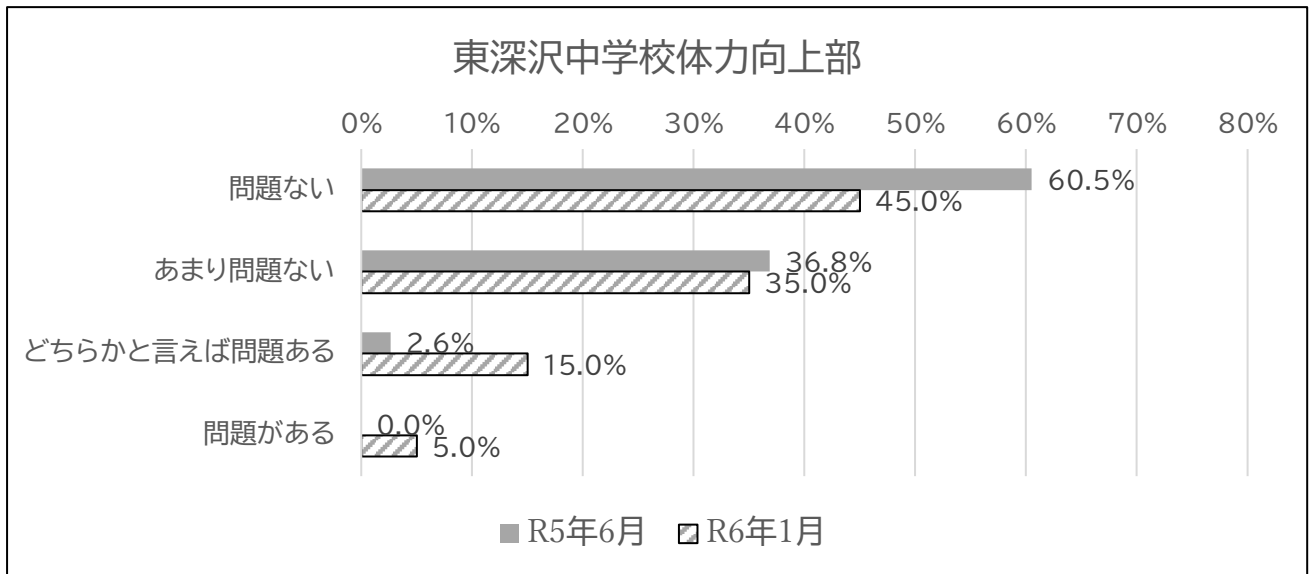
- ・環境はいいけど砧中だけ自転車使えないのが不満。他校と一緒にするのが少し嫌。

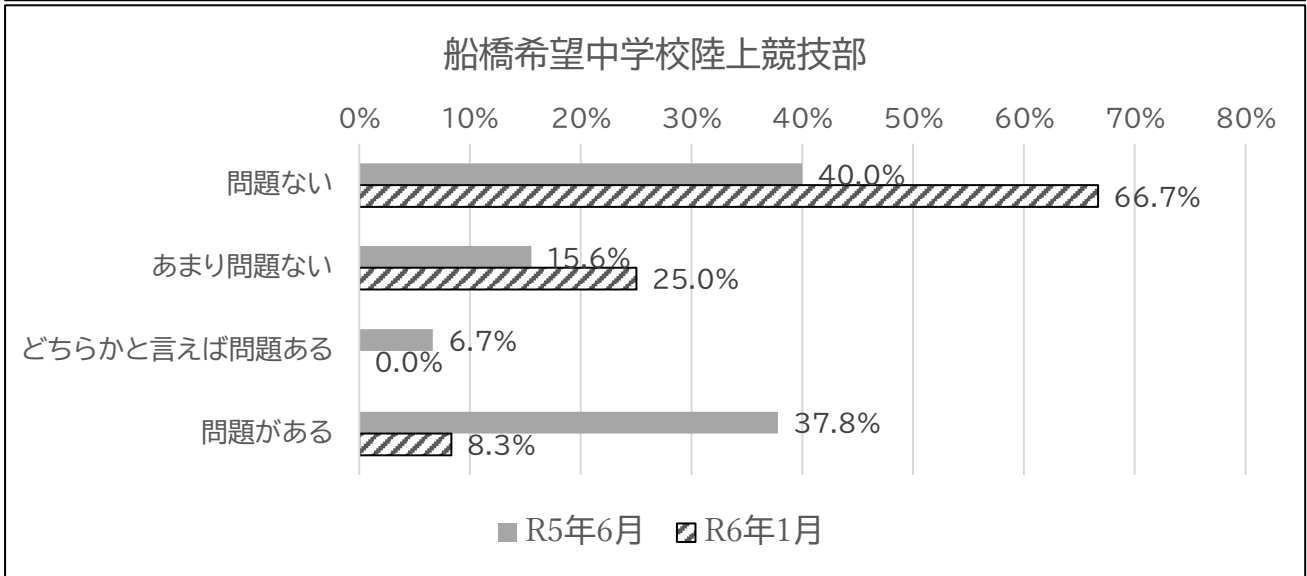
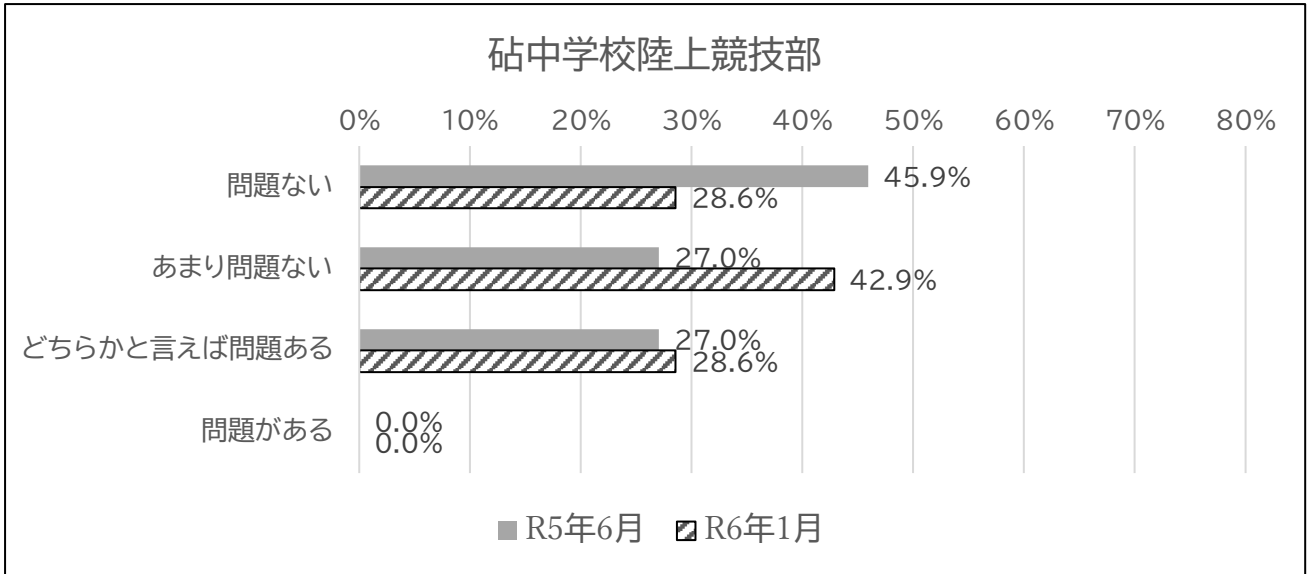
質問5 トライアル事業では、より満足のいく指導が受けられていますか。





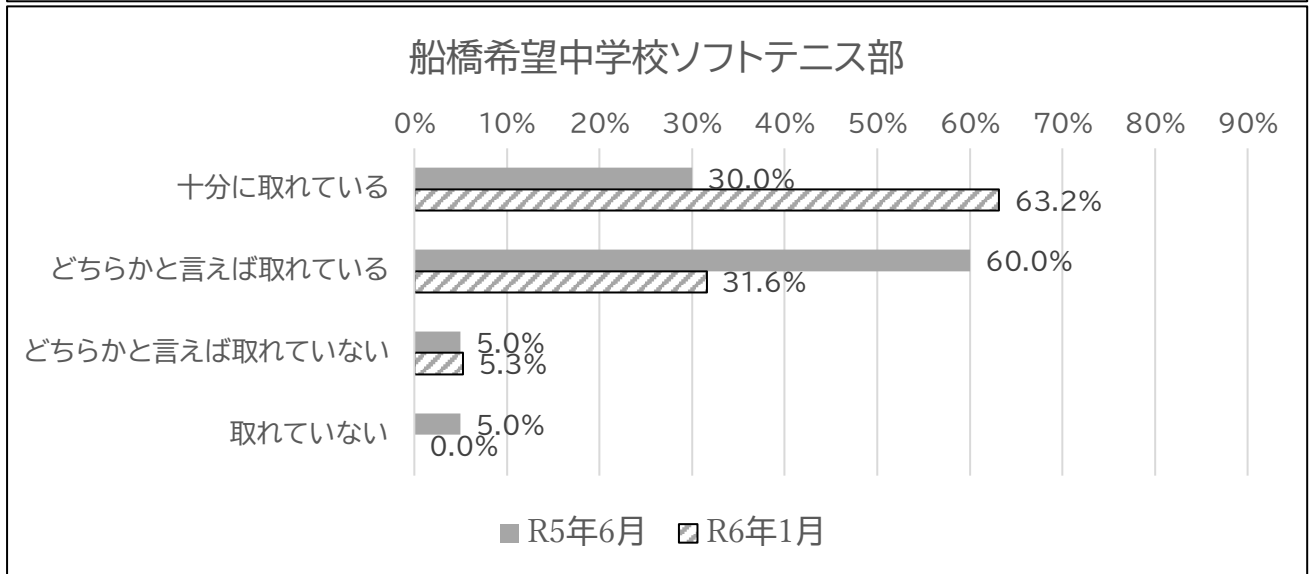
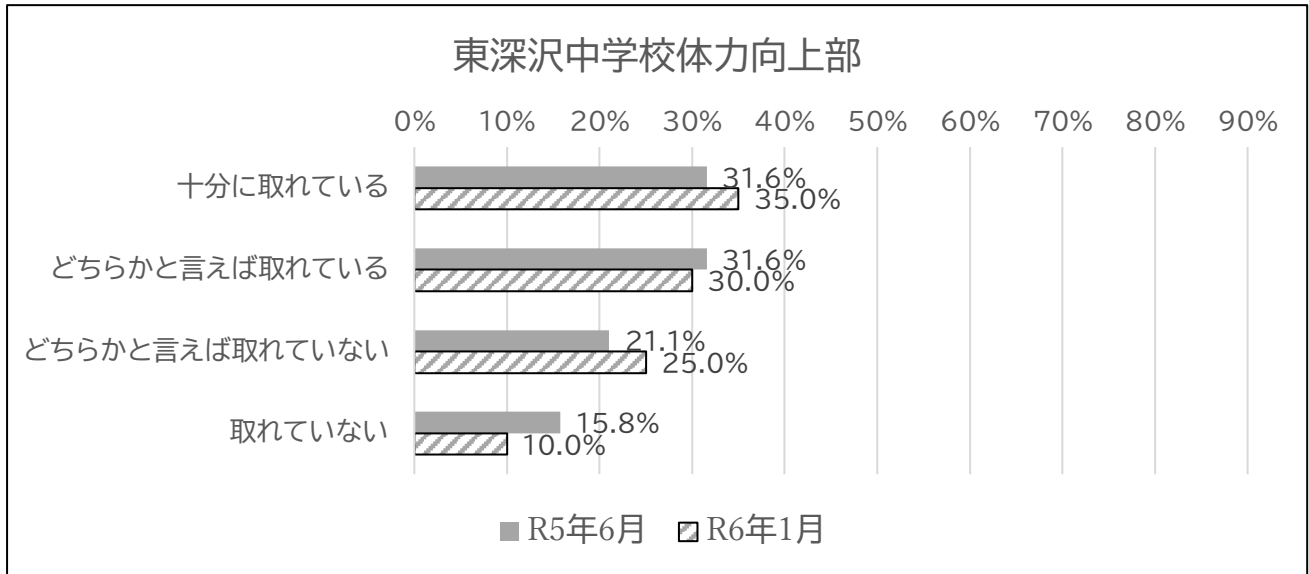
質問6 部活動を地域移行した場合には、活動日によっては指導者が代わる場合がありますが、指導者が活動日によって代わることについてどう思いますか。

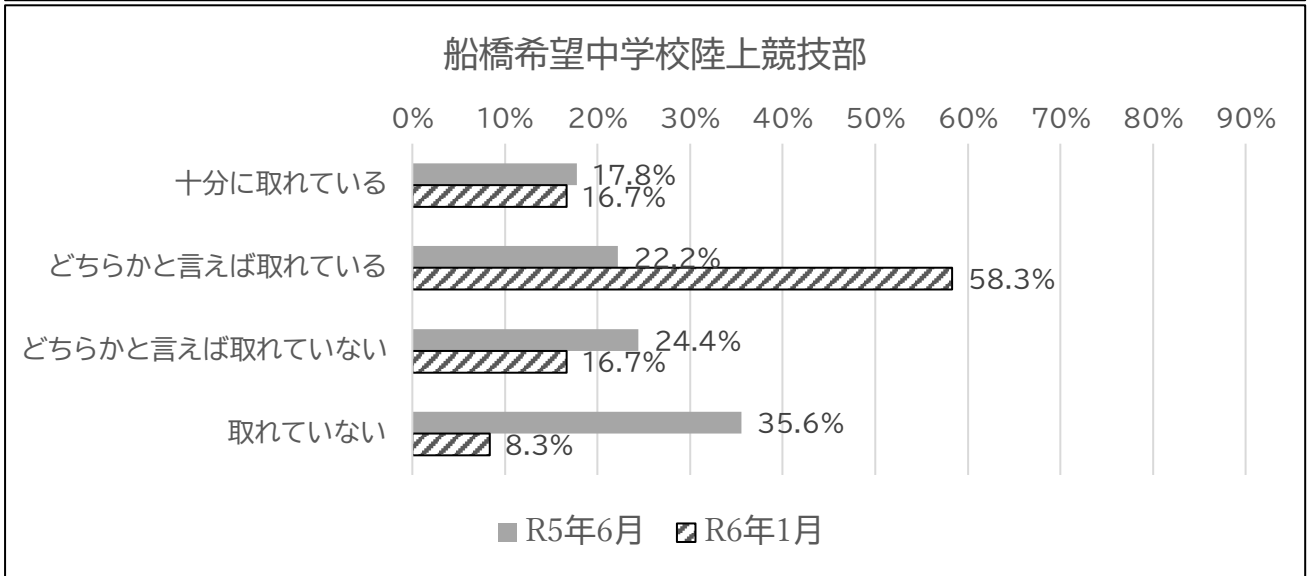
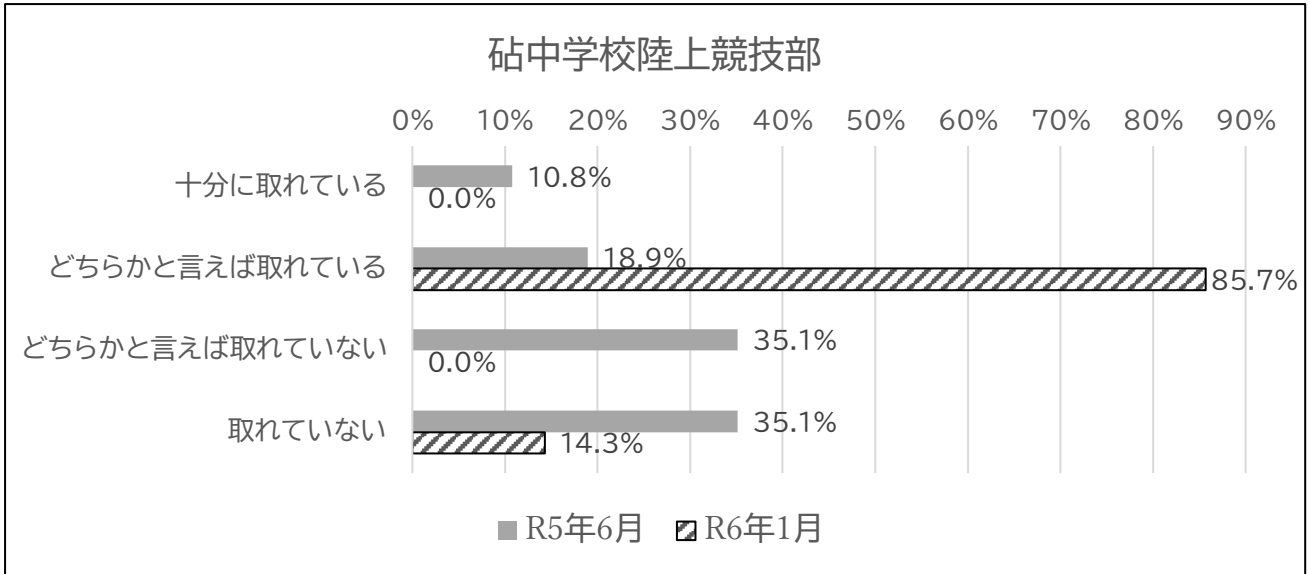




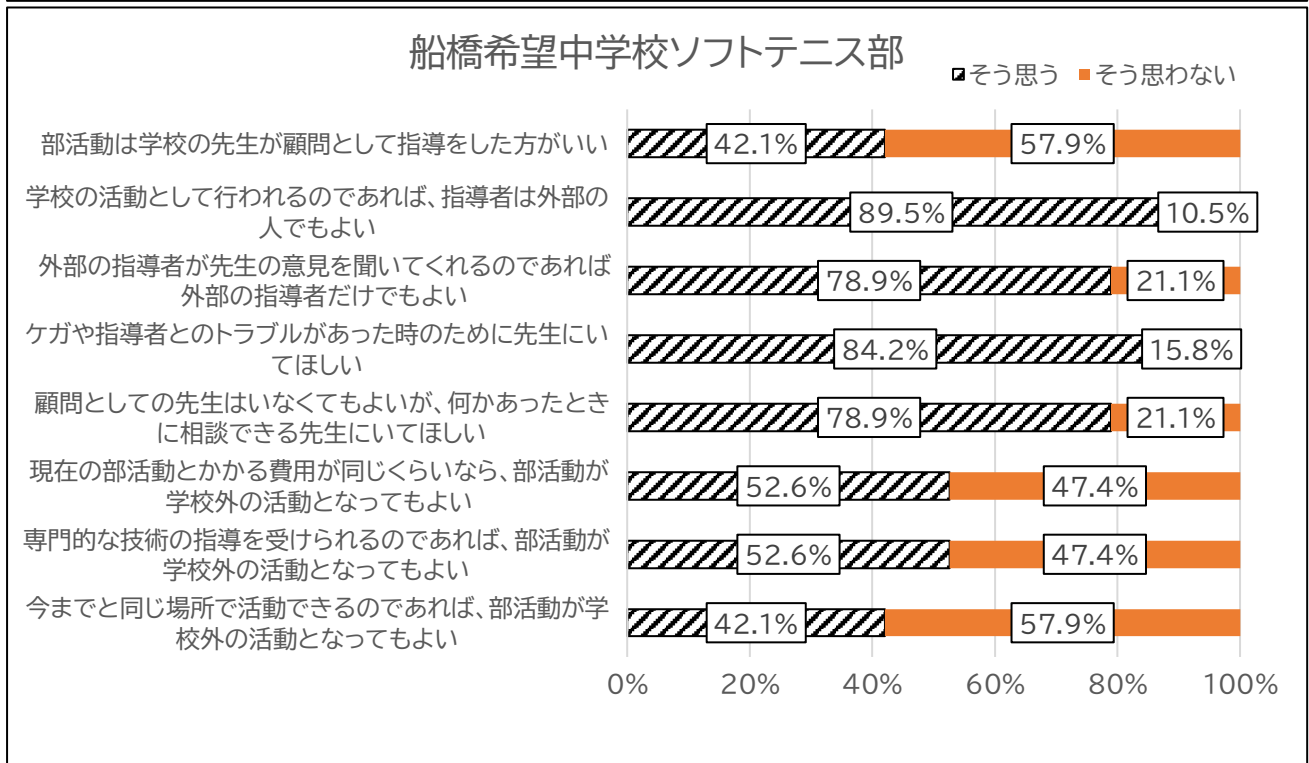
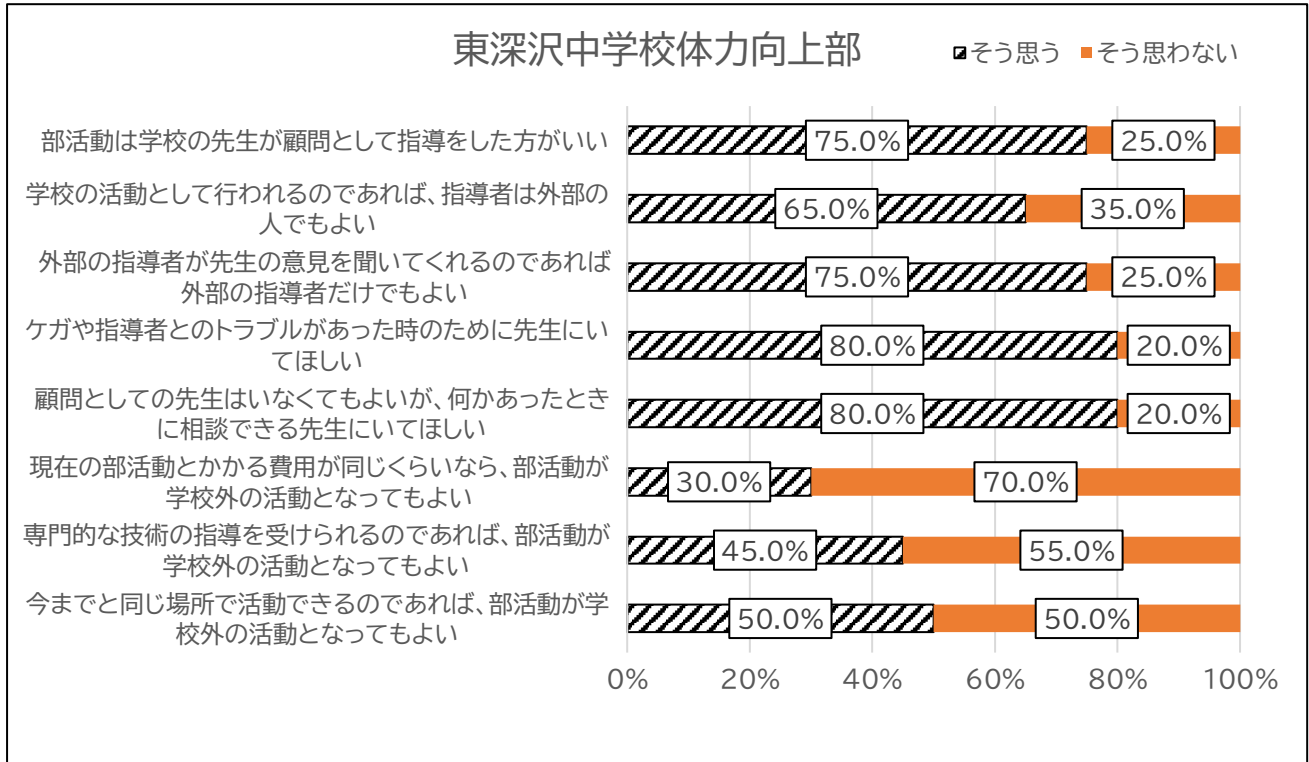
質問7 学校の先生以外の外部の指導者とはコミュニケーションが取れていますか。

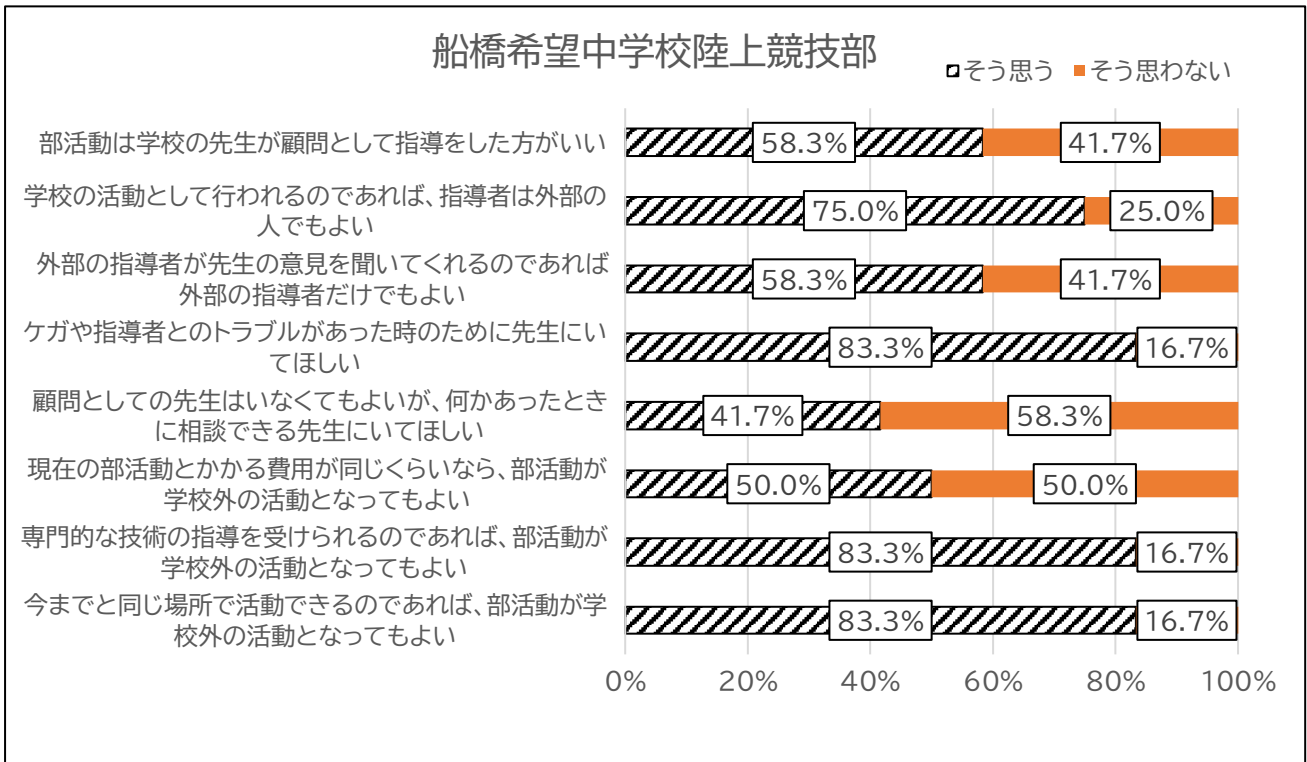
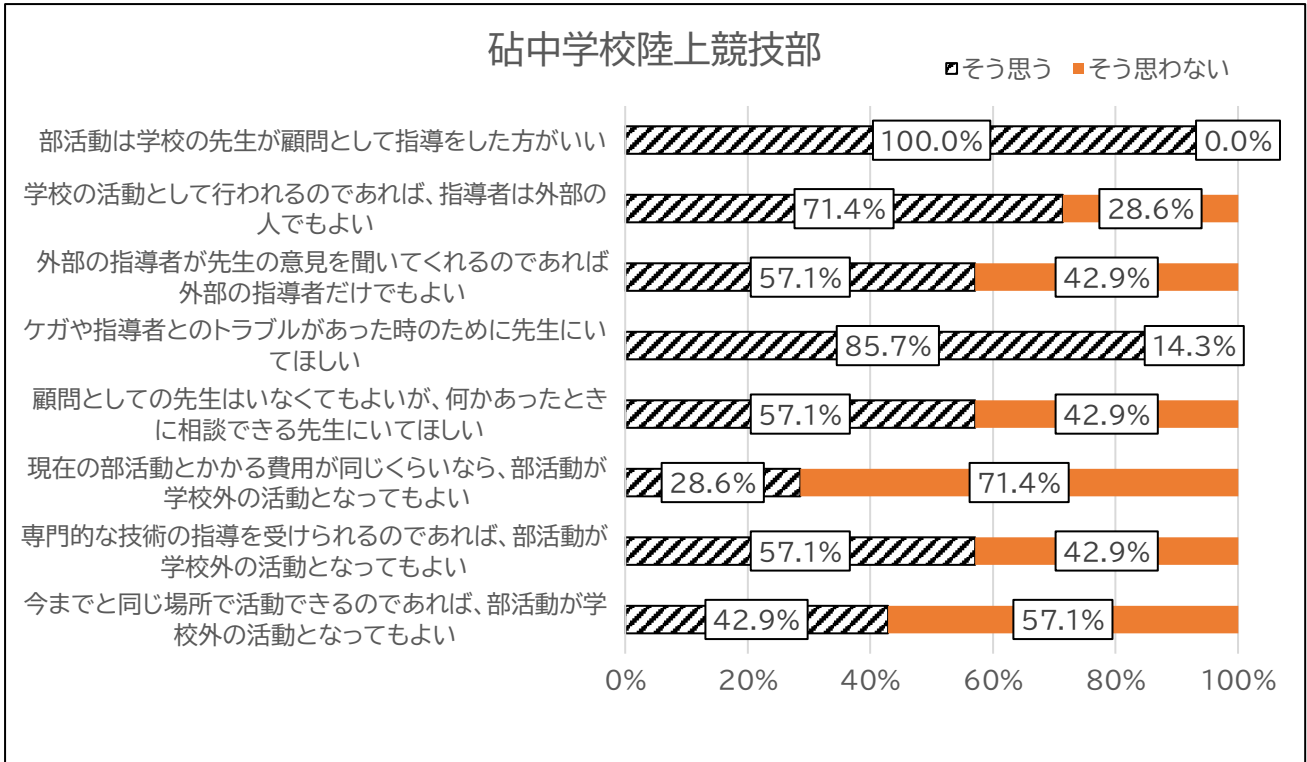
(陸上競技部：合同部活動を一緒に指導する他校の先生とはコミュニケーションが取れていますか。)





質問8 今回トライアル事業として、東深沢スポーツ・文化クラブ/公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団に部活動指導をお願いしています。今後、部活動の指導者が外部の方に代わることや、学校外の活動として地域に移行される可能性があることについて、あなたはどのように思いますか。「そう思う」もしくは「そう思わない」のどちらかを選択してください。





質問9 部活動の地域移行に関する取り組みを行ったなかで、気づいたこと、感じたこと、思ったことを自由に記入してください。

■東深沢中学校体力向上部

- ・様々なスポーツのことを専門としている人が教えてくれるため、技術が向上して良い。
- ・色々な人と関わることができていいと思った。
- ・顧問の先生に居てもらった方がいいと思った。

■船橋希望中学校ソフトテニス部

- ・指導者がいることにより上手くなって行ってると思う。
- ・分かりやすく良い。
- ・コーチによって教え方が違って少し混乱する。
- ・コーチがいるからこそそのメリットとデメリットが多い。

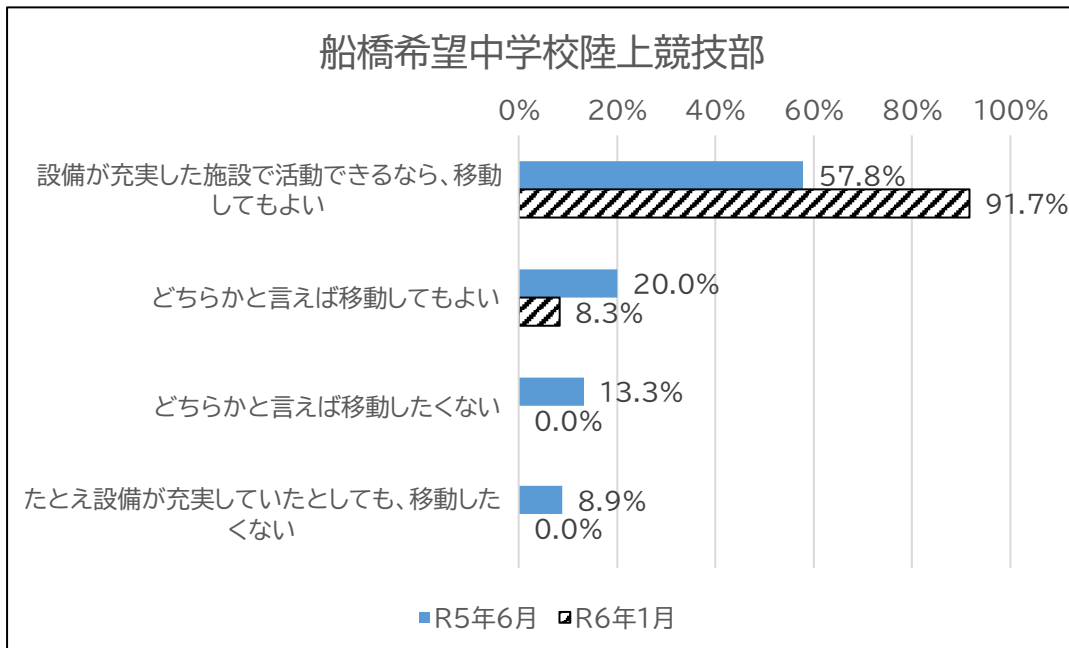
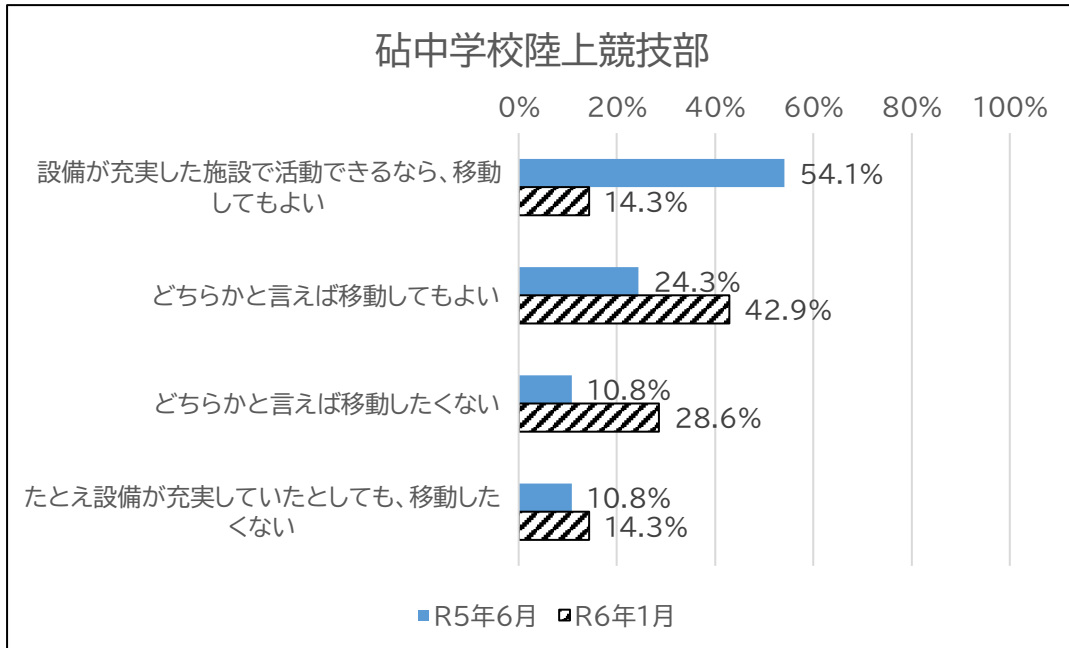
■砧中学校陸上競技部

- ・他の学校と一緒に部活動をやることでコミュニケーション能力を高めたり、競争の能力が高まると負った。
- ・他校でできて楽しい人もいれば嫌な人もいるから、合同練習の日は自由参加にしてほしい。
- ・競技場で練習出来るのはとてもいい。一方の学校のメニューだけになってしまっているからどちらの学校のメニューも出来るよう融合したらいいと思う。
- ・合同練習はためになることが多かった。

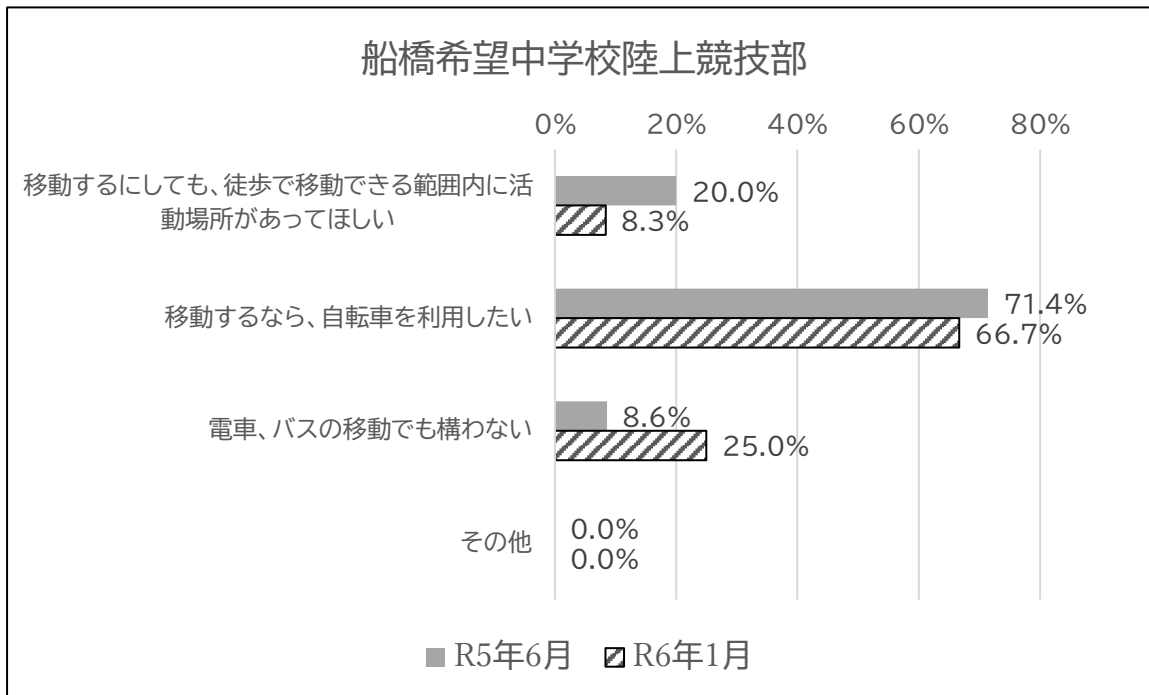
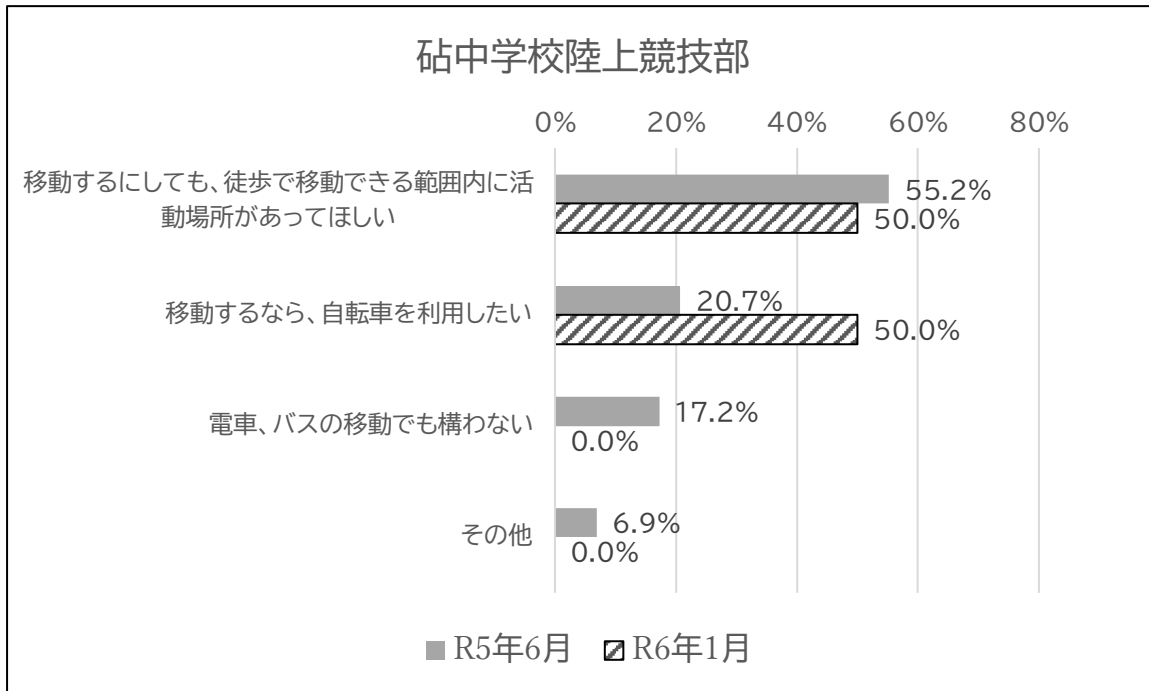
■船橋希望中学校陸上競技部

- ・顧問とはまた違った視点で指導をしてくださるため、新しい視点で自分の課題を見つめ直せる。
- ・他の学校の子達の練習方法とかを聞けたりするのがいいと思った。
- ・移動が大変であること。

質問10 学校外のグラウンドや施設まで移動することについて、どのように思いますか。



質問11 質問10で「移動してもよい」または「どちらかと言えば移動してもよい」と回答した方にお聞きします。移動の手段について、どのように思いますか。



質問12 質問10で「どちらかと言えば移動したくない」または「移動したくない」と回答した理由を記入してください。

■砧中学校陸上競技部

- ・設備が充実していても慣れてる環境で練習したいから。
- ・今のままで部活動をしたいから。

質問13 総合運動場グラウンドへの往復の時に、実際に困ったことや、こうであったら良いのに、と思うことがあったら教えてください。(任意回答)

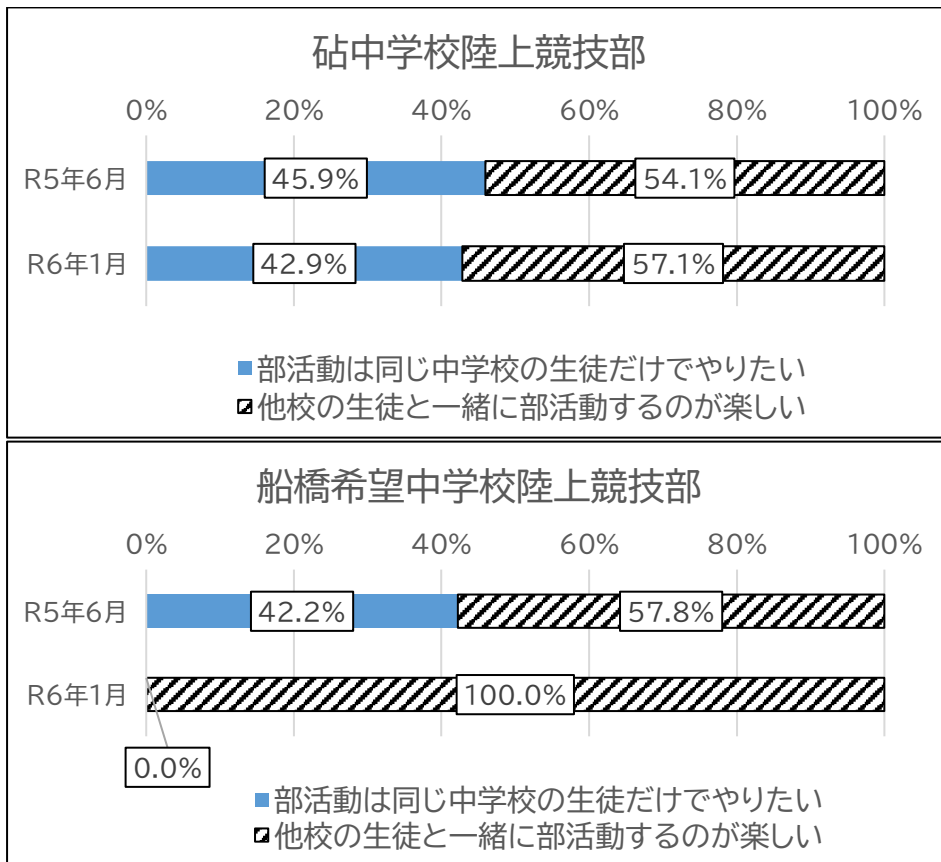
■砧中学校陸上競技部

- ・自転車で行きたい。

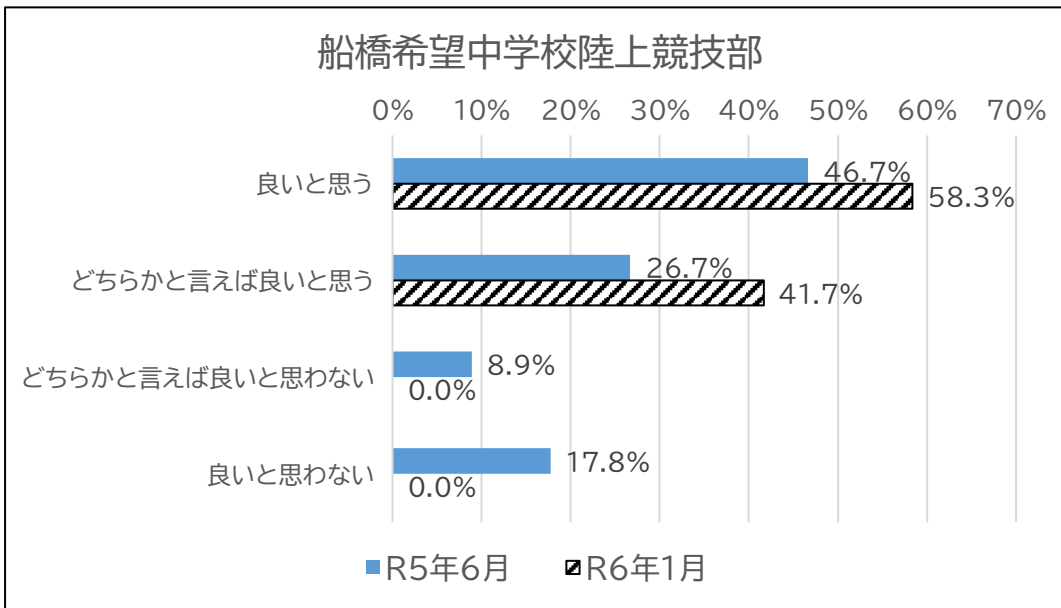
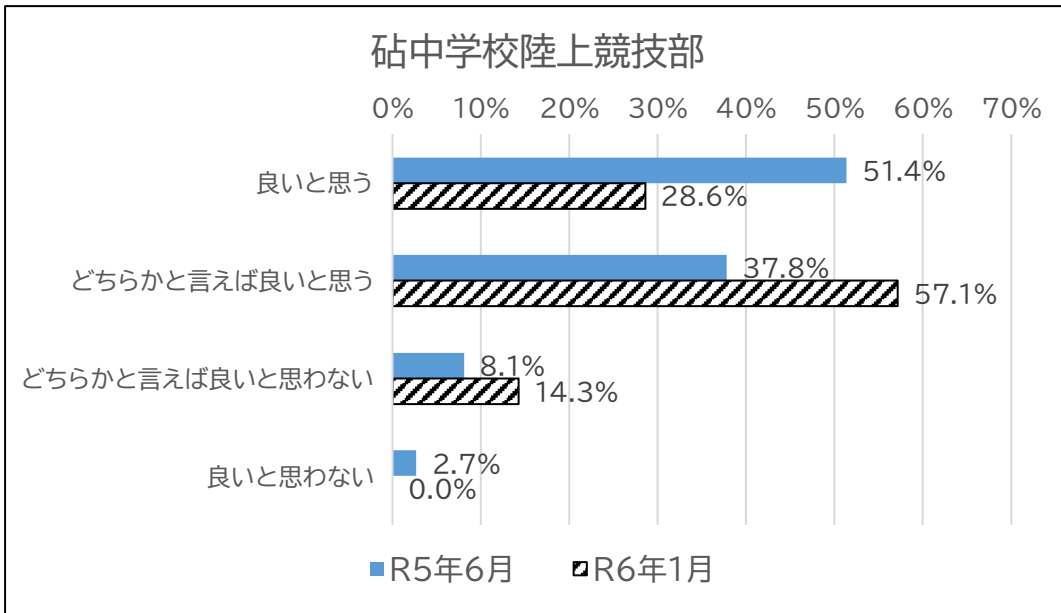
■船橋希望中学校陸上競技部

- ・人が多くて道が狭くなっている。

質問14 他校の生徒と部活動を行うことについて、どのように思いますか。



質問15 他校の先生から部活動の指導を受けることについて、どのように思いますか。



2. 顧問教員対象 アンケート結果

※顧問教員へのアンケートでは、対象者の人数が少なく、回答した個人を特定可能な状況が想定されるため、検討委員会以外には回答内容を非公開とする。

以下、アンケートの質問内容のみ掲出する。

質問1 トライアル事業の実施にあたり、部活動の運営について外部指導者と十分な意思疎通が図れていると思いますか。

質問2 質問1で「どちらかと言えばできていない」または「できていない」と回答した先生にお聞きします。どのような場面でそのように感じますか。また、それを解消するためにはどのような改善策があると考えますか。

質問3 トライアル事業は、教員の学校業務の負担軽減につながっていると思いますか。

質問4 質問3で「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答した場合、どのような点が負担軽減につながっていると思いますか。

質問5 質問3で「どちらかと言えばそう思わない」または「そう思わない」と回答した場合、どのような点が負担軽減につながっていないと思いますか。

質問6 トライアル事業では、外部指導者と連携し自身が理想とする部活動運営ができていると感じていますか。（陸上競技部：トライアル事業では、顧問教員として自分自身が理想とする部活動運営ができていると感じていますか。）

質問7 質問6で「どちらかと言えばできていない」または「できていない」と回答した先生にお聞きします。その理由を記入してください。

質問8 トライアル事業実施前と比較して、部活動以外の学校業務（授業や指導）に変化はありましたか。

質問9 質問8で「あまり変わらない」または「かえって、学校業務に関われなくなった」と回答した先生にお聞きします。その理由を記入してください。

質問10 部活動の地域移行に関する取組みを、来年度以降も活用したいと思いますか。

質問11 質問10で「積極的に活用したい」または「どちらかと言えば活用したい」と回答した先生にお聞きします。これからの部活動をさらにより良いものにするために、必要だと考えられる事柄について、ご意見がありましたら記入してください。

質問12 質問10で「どちらかと言えば活用したくない」または「活用したくない」と回答した場合、その理由を記入してください。

質問13 運動部活動の顧問の視点から見て、部活動の地域移行に関する取り組みについて、気になる点や直してほしい点、地域移行に関するご意見がありましたら記入してください。

3. 指導者対象 アンケート結果

※集計表中、①は1回目（令和5年6月実施）、②は2回目（今回実施）の回答者数を表す。

質問1 トライアル事業にあたり、部活動の運営について学校（管理職や顧問の教員）と十分な意思疎通が図れていると思いますか。

	体力向上部	ソフトテニス部	陸上競技部
できている	①5人	①0人	①4人
	②2人	②2人	②2人
どちらかと言えばできている	①0人	①2人	①2人
	②1人	②1人	②1人
どちらかと言えばできていない	①2人	①0人	①0人
	②1人	②0人	②0人
できていない	①0人	①0人	①0人
	②0人	②0人	②0人

質問2 質問1で「どちらかと言えばできていない」または「できていない」と回答した方にお聞きします。どのような場面でそのように感じますか。また、それを解消するためにはどのような改善策があると考えますか。

■東深沢中学校体力向上部

- ・顧問とは話をしているが、管理職とはあまり話をしていない様子。解決策としては、少なくとも月1回以上の関係者の会合が必要。

質問3 トライアル事業は、教員の学校業務の負担軽減につながっていると思いますか。

	体力向上部	ソフトテニス部	陸上競技部
そう思う	①1人	①0人	①3人
	②2人	②2人	②1人
どちらかと言えばそう思う	①4人	①2人	①2人
	②1人	②0人	②1人
どちらかと言えばそう思わない	①1人	①0人	①1人
	②0人	②1人	②0人
そう思わない	①1人	①0人	①0人
	②1人	②0人	②1人

質問4 質問3で「そう思う」または「どちらかと言えばそう思う」と回答した方にお聞きします。どのような点が負担軽減につながっていると思いますか。

■東深沢中学校体力向上部

- ・トライアルとして、教員は、体力向上部の時間7時20分～8時最後の時間のみ参加。地域の指導者が鍵の開け閉めから指導まで携わっている。
- ・顧問の先生の自由時間が増加。
- ・早朝のクラブなので先生の出勤時間が緩和された

■船橋希望中学校ソフトテニス部

- ・少なくとも、部活動の時間は部活動以外の業務を処理する時間に充てることができていると思う。
- ・部活動中の付き添い時間の削減。

■砧中学校・船橋希望中学校陸上競技部

- ・指導プログラムの作成については軽減できていると思う。
- ・種目ごとに分かれて指導をする事になっているので、単純にみる生徒の数が減る事による負担が減っていると思う。時間が遅れてしまうような場面でも、外部指導員とのコミュニケーションによって負担が減っているように感じている。

質問5 質問3で「どちらかと言えばそう思わない」または「そう思わない」と回答した方にお聞きします。どのような点が負担軽減につながっていないと思いますか。

■東深沢中学校体力向上部

- ・現状で何ら教員の負担軽減の内容となっていないから。

■船橋希望中学校ソフトテニス部

- ・指導者が部活動に出なくて良いのは負担軽減になっていると思うが、教員が居ないと部活動が出来ない現状の運用では、土日含め負担軽減にはつながっていないと感じる。

■砧中学校・船橋希望中学校陸上競技部

- ・17時から19時という時間で教員がボランティアで指導しているので、負担軽減どころか負担が倍増している。

質問6 トライアル事業では、指導者として自分自身が理想とする指導ができていると感じていますか。

	体力向上部	ソフトテニス部	陸上競技部
できている	①0人 ②0人	①0人 ②1人	①2人 ②1人
どちらかと言えばできている	①3人 ②0人	①2人 ②2人	①3人 ②2人
どちらかと言えばできていない	①4人 ②3人	①0人 ②0人	①1人 ②0人
できていない	①0人 ②1人	①0人 ②0人	①0人 ②0人

質問7 質問6で「どちらかと言えばできていない」または「できていない」と回答した方にお聞きします。その理由を記入してください。

■東深沢中学校体力向上部

- ・体力向上部、指導者のスキルが足りない。
- ・立ち位置が中途半端で責任の所在も不明確なため、ほぼお客さん状態での関わりとなっているから。
- ・生徒と、どう対応していいのか、まだつかめない。どこまで突っ込んで意見や指導をしていいのか？
- ・まだ模索中。

質問8 外部指導者の視点から見て、部活動の地域移行に関する取り組みについて、気になる点や直してほしい点、地域移行に関するご意見がありましたら記入してください。

■東深沢中学校体力向上部

- ・ 1. 世田谷区として3ヵ年計画等のスケジュール
- ・ 2. 地域指導者研修の充実（共通科目、専門科目）
- ・ 3. 登録人材バンク制度の活用、コーディネータによる、学校・地域との調整
- ・ 4. 個人情報管理の運用マニュアルの制定
- ・ 5. 総合型地域スポーツクラブへの補助制度、地域部活動指導者への謝金規定の充実
- ・ 我々もそうだが、教員側もどうしたいのか不明確なため、このままトライアルを進めていっても部活の地域への全面移行は不可能だと思われる。
- ・ 移行後の費用、責任、リスク管理、指導の程度など見えないところがいっぱい。
- ・ 保険、安全面

■船橋希望中学校ソフトテニス部

- ・地域移行した際の活動場所が不安だという声があるのと、指導者不足を感じる。今後の展開が見えず、一校で終わってしまうのではないかという不安がある。
- ・現在の中学校での基準（例えば、生徒個人の呼び方等決まった形があるなら）について、明確にしておいてもらおうとよいのではないか。どうしても自分の育った環境での基準で指導してしまうことがあるため。
- ・地域移行になる場合の施設の管理はどうするのか。複数の学校で一つの団体になった場合の平日の活動は？

■砧中学校・船橋希望中学校陸上競技部

- ・本事業では学校の先生も指導者として携わっている。このことから、先生の負担が0にはならないが、外部指導者同様に賃金を支払うことで負担に対する補填が可能になると考えられる。
- ・早く地域の指導者として副業を認めてほしい。

資料1-1 中学校部活動地域移行に関するアンケート集計結果

中学校部活動地域移行に関するアンケート 集計結果

実施概要

○世田谷区立中学校全29校において、学校部活動に参加していない生徒を含めた全ての生徒と保護者、教員を対象に、部活動の地域移行についてどのように感じ、考えているのかを把握する目的で実施した。

○期 間：令和5年10月31日（火）～11月12日（日）

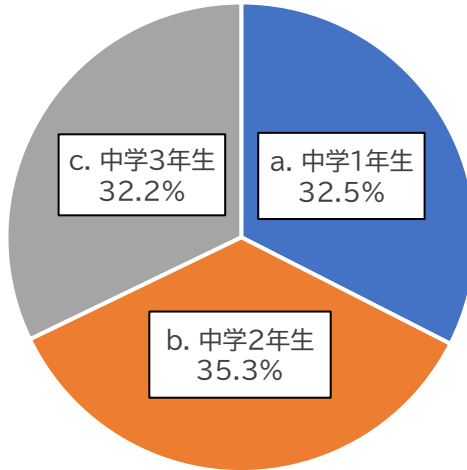
○回答数：(1) 生 徒 7,664人（全生徒数約11,800人、回答率約65%）

(2) 保護者 2,650人

(3) 教 員 372人（全教員数764人、回答率48.7%）

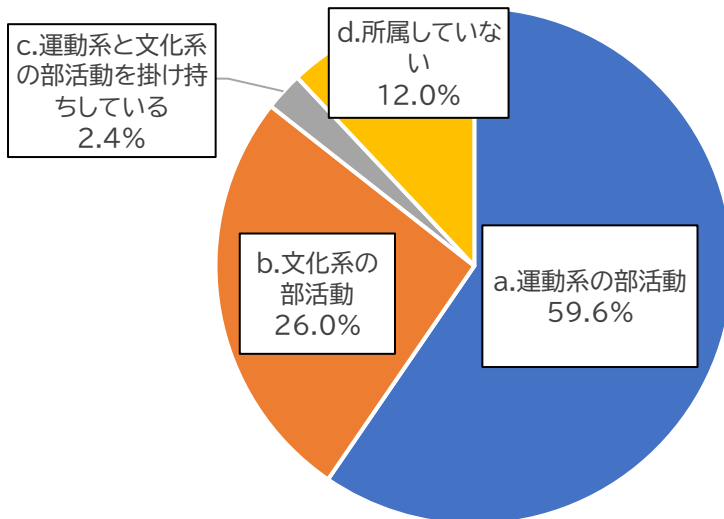
(1)生徒対象 アンケート結果

質問1 あなたは何年生ですか。



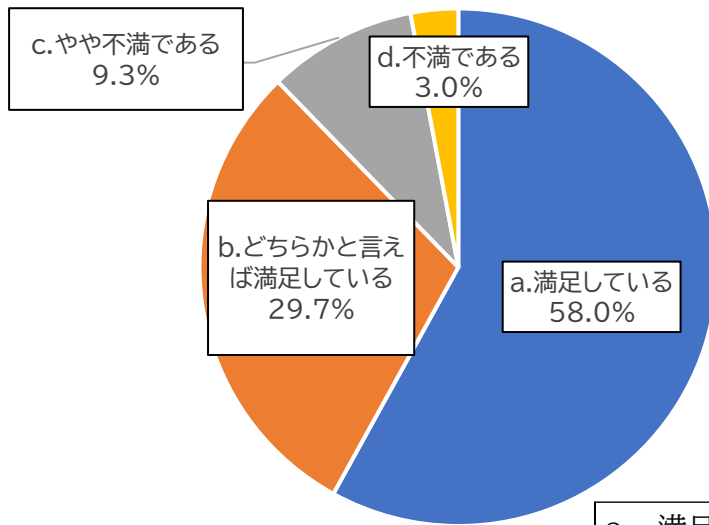
a. 中学1年生	2,491人
b. 中学2年生	2,709人
c. 中学3年生	2,464人

質問2 あなたは、どのような部活動に所属していますか。



a. 運動系の部活動	4,565人
b. 文化系の部活動	1,995人
c. 運動系と文化系の部活動を掛け持ちしている	184人
d. 所属していない	920人

質問3 あなたは今の部としての活動に満足していますか。



a. 満足している	3,913人
b. どちらかと言えば満足している	2,003人
c. やや不満である	628人
d. 不満である	200人

質問4 質問3で、「a. 満足している」または「b. どちらかと言えば満足している」と回答した理由を教えてください。

(回答から抜粋)

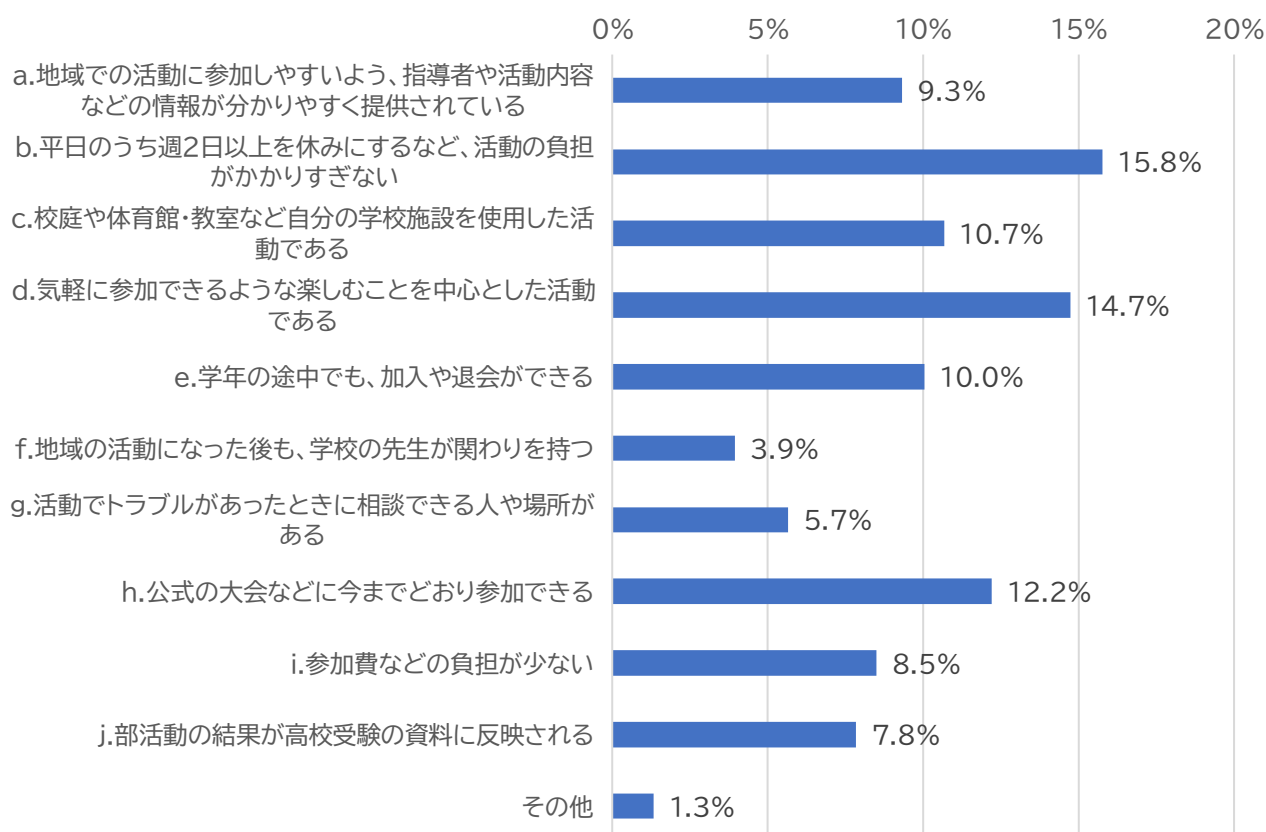
- 不満に思うことがなく先輩や友達と仲良く話せるし、部活としても楽しく部活ができてから。
- 部員同士で仲が良く、充実した内容だから。
- 部員と顧問の先生の距離が近くていい雰囲気だから。
- 勝つための練習をしてるから。
- 辛い時はあるにはあるけどそれでも、やり切った時の嬉しさや優越感はたまらないし、日々面白いことが起こるから満足している。
- 目標へ向かって努力する姿勢があるから。
- 部活の雰囲気が好きだから。
- 大会などでの達成感があるから
- とてもやりがいがあり楽しいから
- しっかり競技を教えてくれる指導者がいるから
- 毎日部活が楽しいし友達との絆も深まるから

質問5 質問3で「c. やや不満である」または「d. 不満である」と回答した理由を教えてください。

(回答から抜粋)

- 先輩がうるさく口が悪かったり、態度が悪いから。
- 自分たちの意見が尊重されにくい。
- AチームとBチームで練習の量に差がありすぎたから。
- 休みが少なくて勉強と部活両立できない。
- 部活動で土日両方が練習なので片方を休みにしてほしい。
- 自分と部活の雰囲気があっていない。
- 顧問の先生とうまく意見が合わない。
- もっと積極的に試合や大会に参加したい。

質問6 部活動の地域移行をするときに、優先してほしいことを3つまで選んでください。

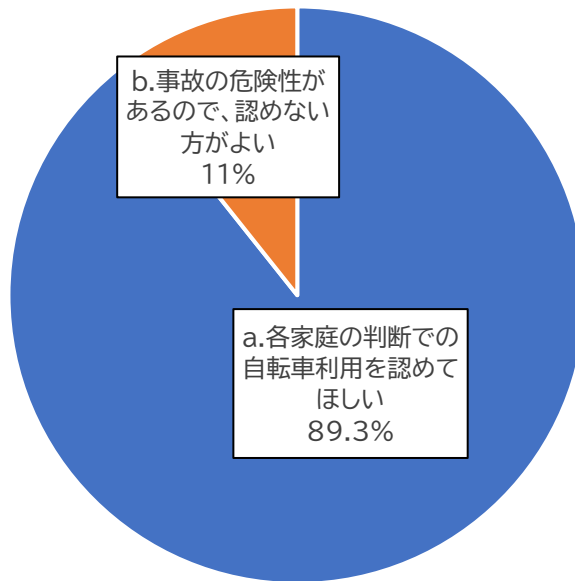


a. 地域での活動に参加しやすいよう、指導者や活動内容などの情報が分かりやすく提供されている	1,925人
b. 平日のうち週2日以上を休みにするなど、活動の負担がかかりすぎない	3,259人
c. 校庭や体育館・教室など自分の学校施設を使用した活動である	2,207人
d. 気軽に参加できるような楽しむことを中心とした活動である	3,045人
e. 学年の途中でも、加入や退会ができる	2,075人
f. 地域の活動になった後も、学校の先生が関わりを持つ	815人
g. 活動でトラブルがあったときに相談できる人や場所がある	1,168人
h. 公式の大会などに今までどおり参加できる	2,525人
i. 参加費などの負担が少ない	1,758人
j. 部活動の結果が高校受験の資料に反映される	1,620人
その他	275人

(その他 回答から抜粋)

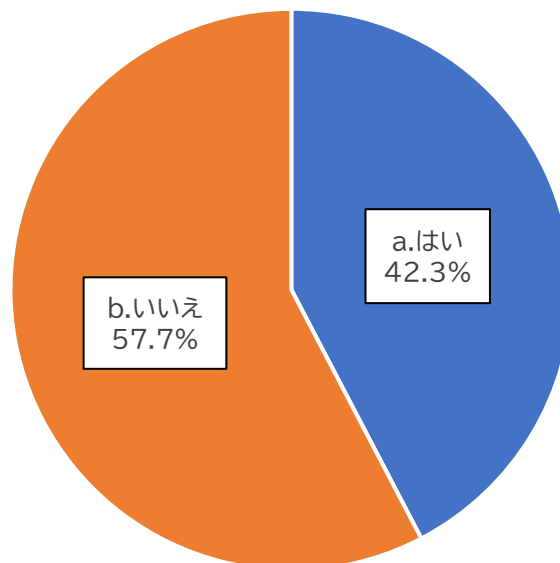
- 指導者がしっかりしていること、しっかりした指導が受けられること
- 生徒の意見も取り入れること
- 顧問の先生やコーチの変更をしないこと
- 学校の先生が関わりを持つ場合、その立場を明確にしてほしい
- 参加費を安くする
- 予定を前もってしっかり伝えてほしい

質問7 学校以外の施設で部活動を行うとき、移動手段として、自転車を使うことについて、どう思いますか。



a. 各家庭の判断での自転車利用を認めてほしい	6,844人
b. 事故の危険性があるので、認めない方がよい	820人
合計	7,664人

質問8 学校で主に平日に行っている部活動とは別に、土・日曜日などに地域で行う活動があったら、参加してみたいと思いますか。



a. はい	3,245人
b. いいえ	4,419人
合計	7,664人

質問9 実在する部活動かどうかを問わず、中学生の間にやってみたい部活動があれば1つあげてください。(任意記述)

(記載があった部活動の例)

ダンス部、弓道部、競技かるた部、チアリーディング部、軽音楽部、空手部、ラクロス部、自転車部、ゴルフ部、天文部、鉄道研究部、登山部、ジャグリング部、eスポーツ部、体操部・器械体操部・新体操部、合気道部、バレエ部、等

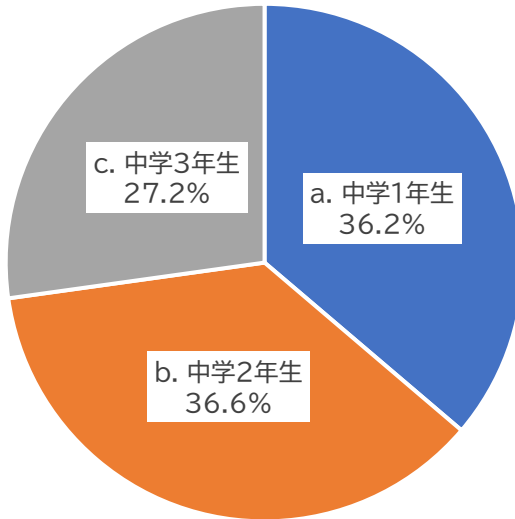
質問10 部活動が今の形と変わって、地域で参加する活動となるとしたとき、あなたが思うことや考えることがあれば、記入してください。(任意記述)

(回答から抜粋)

- 地域クラブとなっても今まで通りの練習がしたいが地域の人のごとも考えみんなが楽しめる活動にしたい。
- 部活は、学校対抗というのが自分の中に定着しているから、地域で参加の活動は抵抗がある。
- 学校外の人と一緒にやるのは緊張する。
- 学校の先生も部活できるようにしてほしい。
- 顧問が学校の人であってもなくても、コミュニケーションのとりやすくなるような工夫をしてほしい。
- 学校との関わりは保ったままにしておく、安心につながる。
- 部活という形をなくすかはそれぞれの顧問と生徒の考えを踏まえてほしい。
- 地域でやると、知らない人が増え、人と関わるという面では良いと思うが、部活動としての仲間と協力し合い、仲を深めるというところでは地域の活動ではないほうが良いのではないかと思う。
- 出来るだけ今まで通りの雰囲気続けてほしい。
- 学校内だからこそ意味があることもあるのではないか。同じ学校であるからこそ団結することもできるのではないか。
- 正直、先生側の負担が無くなるのはすごくいいと思う。しかし、地域で部活動を行うとなった時に、生徒側が参加しやすい、内容が変わっていくかなど、まだ明確なビジョンが見えていないので少し不安がある。
- 地域と交流ができるのは良い事だが、地域移行になった際のコーチの人はちゃんとすべきだと思った。

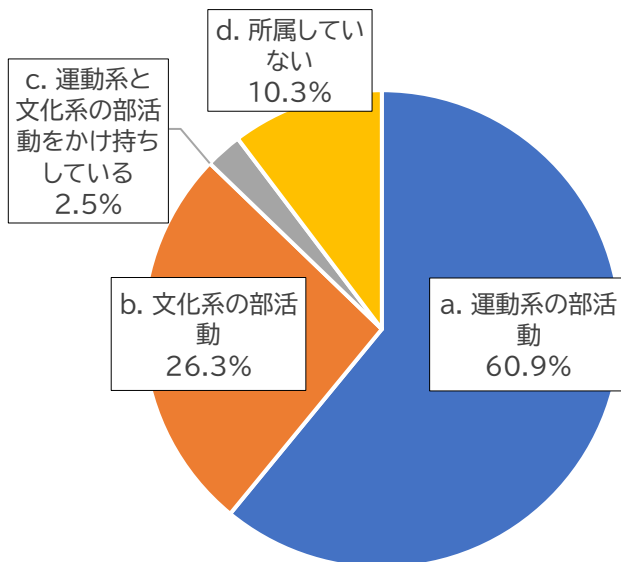
(2)保護者対象 アンケート結果

質問1 お子様は何年生ですか。



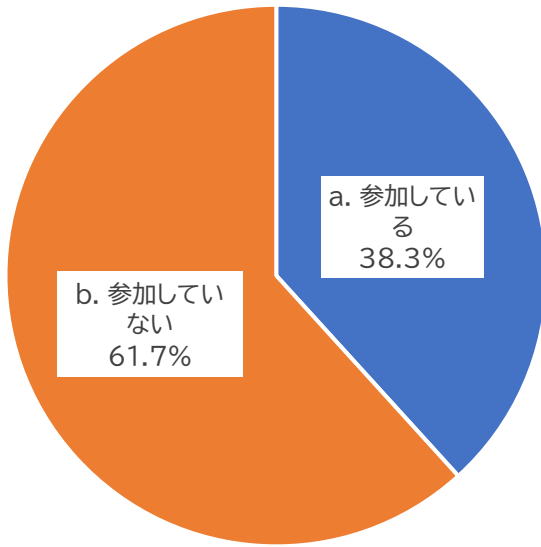
a. 中学1年生	960人
b. 中学2年生	969人
c. 中学3年生	721人

質問2 お子様は、どのような部活動に所属していますか。



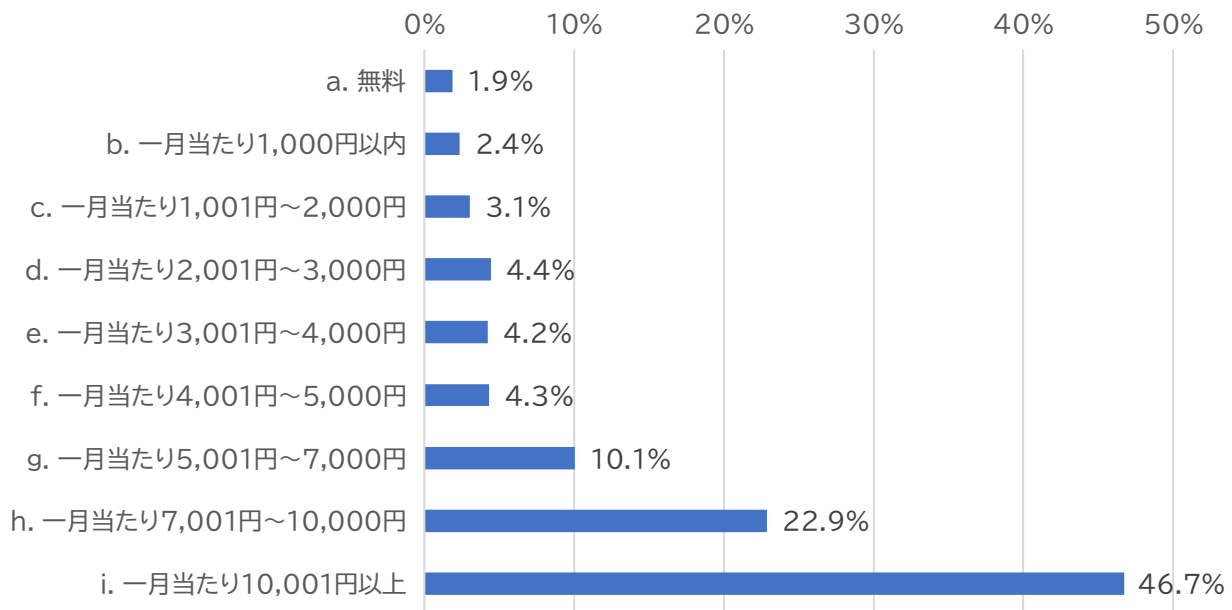
a. 運動系の部活動	1615人
b. 文化系の部活動	696人
c. 運動系と文化系の部活動をかけ持ちしている	66人
d. 所属していない	273人

質問3 お子様は、学校の部活動以外に地域やクラブチーム等の活動、習い事(学習塾以外)に参加していますか。



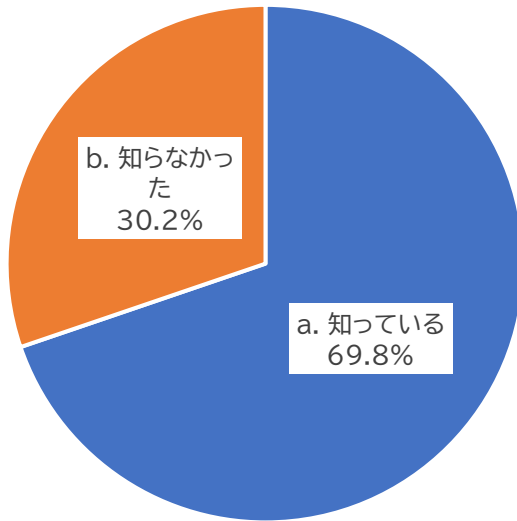
a. 参加している	1014人
b. 参加していない	1636人

質問4 一月当たりどれくらいの参加費用を支払っていますか。いくつかの習い事(学習塾を除く)に参加している場合は、一番高いものを選んでください。



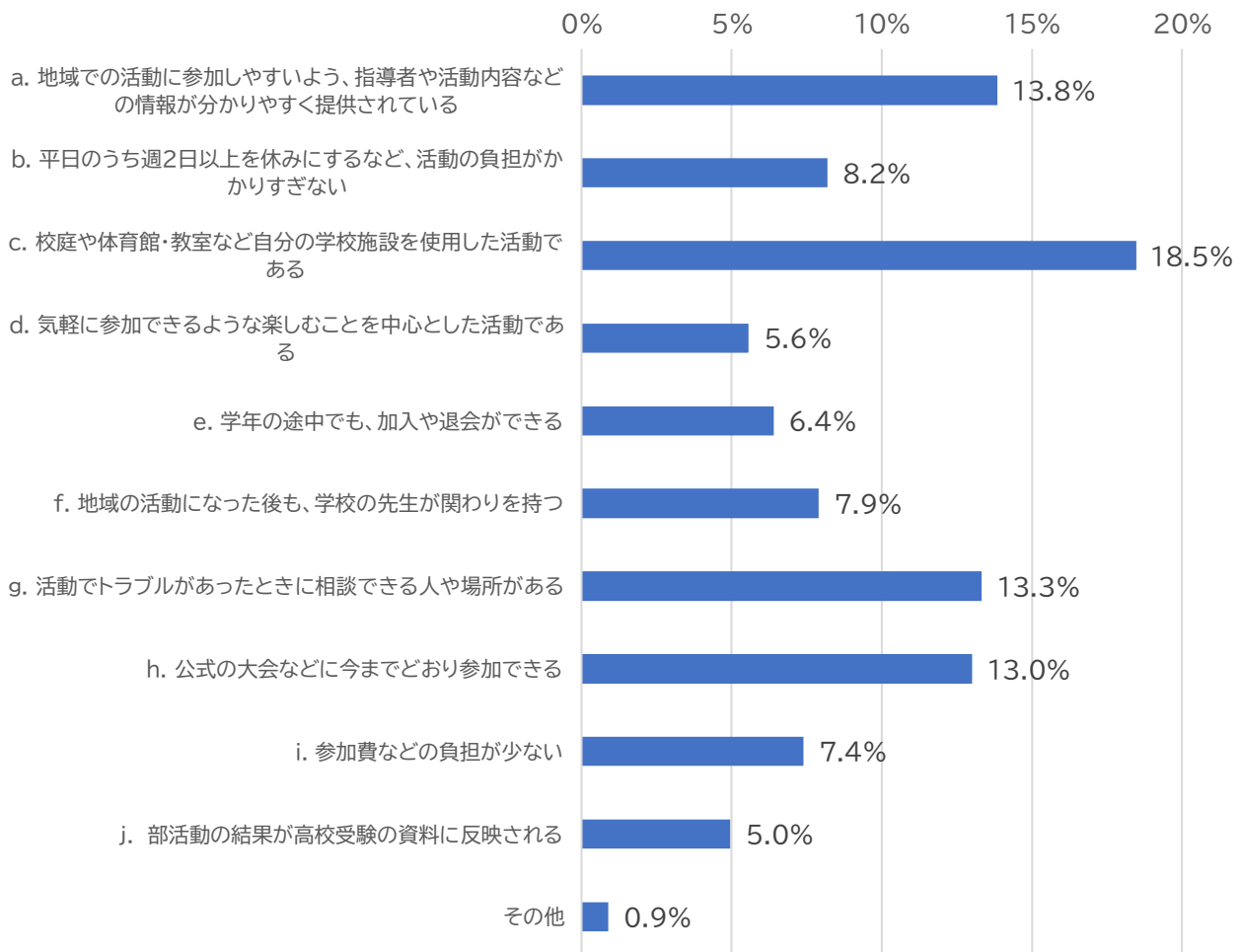
a. 無料	19人
b. 一月当たり1,000円以内	24人
c. 一月当たり1,001円~2,000円	31人
d. 一月当たり2,001円~3,000円	45人
e. 一月当たり3,001円~4,000円	43人
f. 一月当たり4,001円~5,000円	44人
g. 一月当たり5,001円~7,000円	102人
h. 一月当たり7,001円~10,000円	232人
i. 一月当たり10,001円以上	474人
合計	1014人

質問5 文部科学省が部活動の地域移行の検討を始め、世田谷区教育委員会でも、中学校の部活動を地域の団体や民間企業等の協力を得て、学校以外での活動に移行したり(地域移行)、学校の部活動のまま先生以外の方に部活動の運営や指導をお願いしたり(地域連携)することについて、検討していることを知っていますか。



a. 知っている	1849人
b. 知らなかった	801人

質問6 部活動を地域移行する場合に、優先してほしいことを3つまで選んでください。

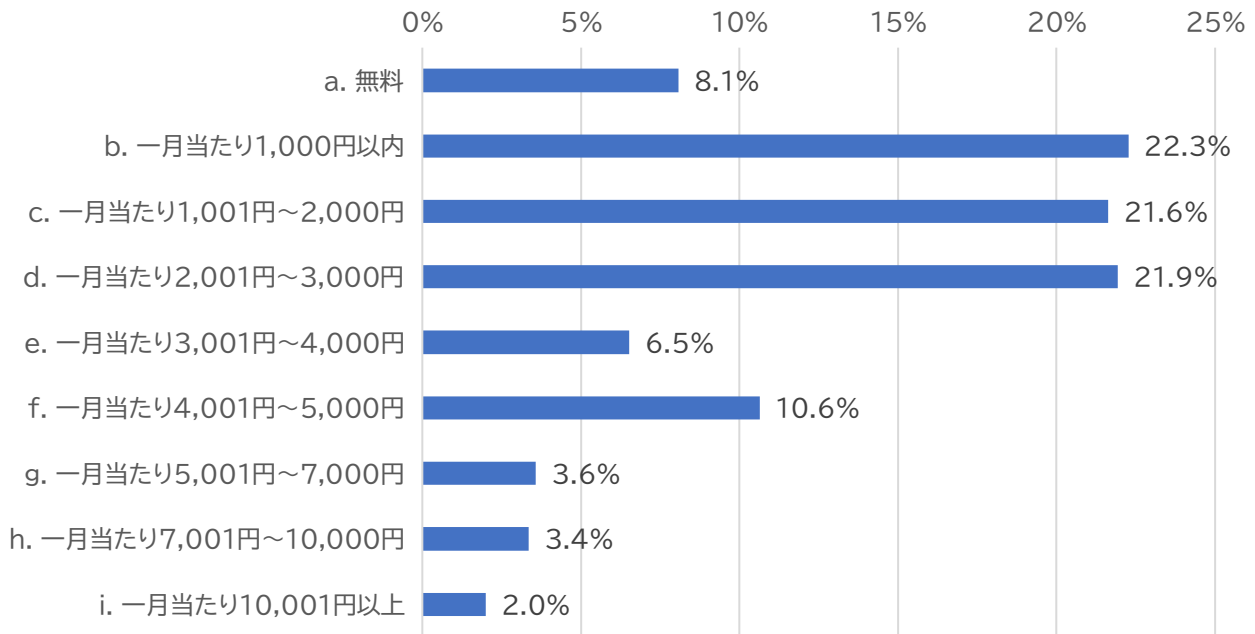


a. 地域での活動に参加しやすいよう、指導者や活動内容などの情報が分かりやすく提供されている	1061人
b. 平日のうち週2日以上を休みにするなど、活動の負担がかかりすぎない	628人
c. 校庭や体育館・教室など自分の学校施設を使用した活動である	1416人
d. 気軽に参加できるような楽しむことを中心とした活動である	427人
e. 学年の途中でも、加入や退会ができる	490人
f. 地域の活動になった後も、学校の先生が関わりを持つ	606人
g. 活動でトラブルがあったときに相談できる人や場所がある	1022人
h. 公式の大会などに今までどおり参加できる	997人
i. 参加費などの負担が少ない	567人
j. 部活動の結果が高校受験の資料に反映される	380人
その他	69人

(その他 回答から抜粋)

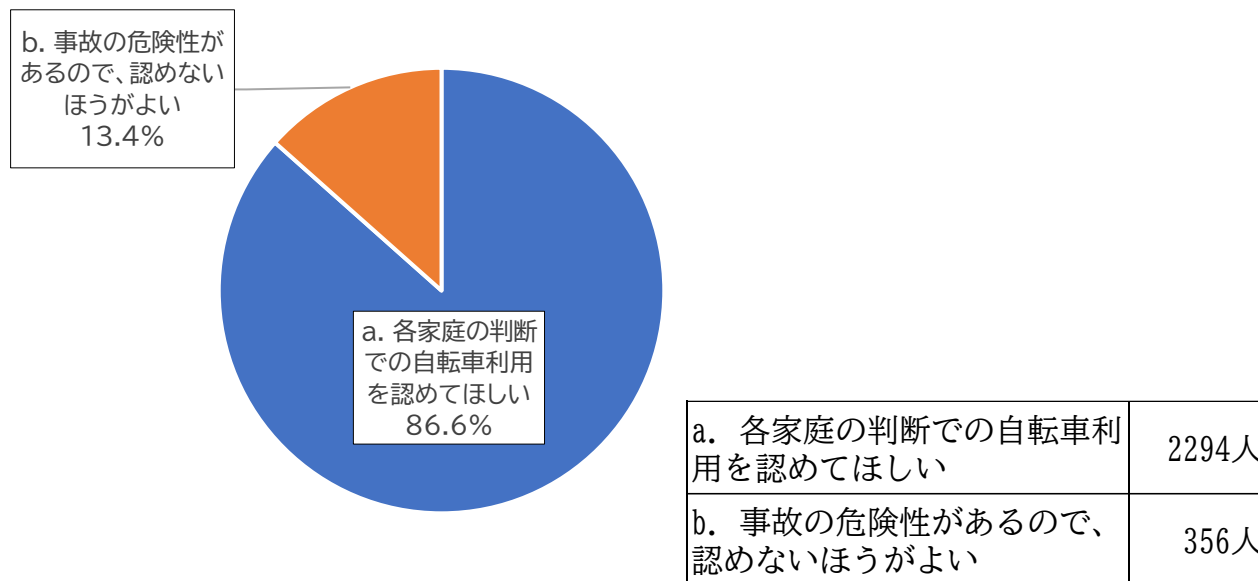
- レベルを下げて欲しくない。
- 自宅から子ども1人で通える場所
- 必ず生徒とコミュニケーションが取れる指導者に来て欲しい。熱心が過ぎて子供の体調や都合を一切聞き入れない、自分の意見を押し付けると言った指導は生徒にとって成長を促す部活動になり得ないため。
- 学校生活態度や教師や仲間との関わりの中で育むものなので、学校と切り離して部活をすることに強く反対。心のつながりがどんどんなくなる実態を把握してほしい。大人の都合ばかりを子どもに押し付けないでほしい。
- 強制参加がないこと、父母の負担が少ないこと
- 指導者や活動内容などの情報公開、指導者資格や研修、負担にならない程度の費用、中体連の大会にも参加できるなど。
- 不登校の子でも参加できるような場所もぜひ欲しい!
- 文化系の部活は学校内だと吹奏楽や美術部に限られてしまうので、中学生でも軽音や文芸や映画など多様な選択肢があるとうれしい。

質問7 今後、継続的な活動を維持するために、参加費、指導者に対する謝礼や施設利用料等の負担を参加者をお願いする場合があります。一月当たりどれくらいの費用が妥当だと思いますか。



a. 無料	214人
b. 一月当たり1,000円以内	590人
c. 一月当たり1,001円～2,000円	573人
d. 一月当たり2,001円～3,000円	581人
e. 一月当たり3,001円～4,000円	173人
f. 一月当たり4,001円～5,000円	282人
g. 一月当たり5,001円～7,000円	95人
h. 一月当たり7,001円～10,000円	89人
i. 一月当たり10,001円以上	53人
合計	2650人

質問8 お子様が学校以外の施設で部活動を行うとき、移動手段として、自転車を利用することについてどう思いますか。



質問9 部活動の地域移行について、思っていること・考えていることがあれば、ご記入ください。

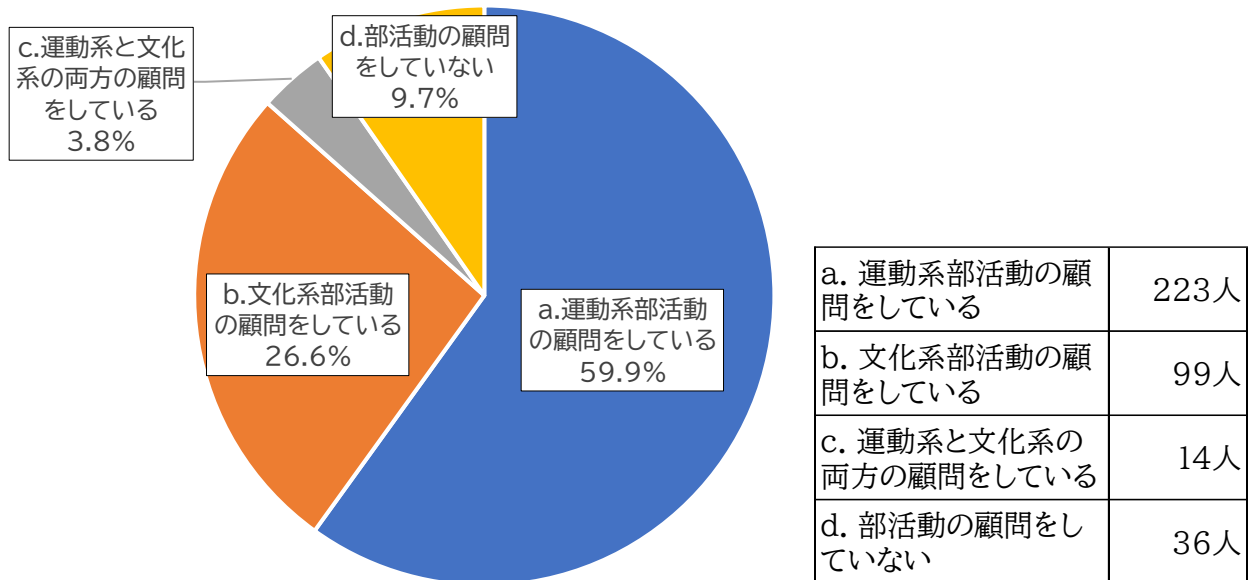
(回答から抜粋)

- 私立中学に通っている子、公立に通っている子、地域の方、いろんな方が、地元で(これが大事!)スポーツを通じて関わりを持てるような部活(習い事)になったら有難い。
- やる気の無い先生に顧問を任せるより、少しの費用はかかってもやる気のある外部の方に任せたい。
- 地域移行にあたり、指導者への指導方法や生徒との関わり方など規定を設け指導してほしい。
- 子どもの安全、安心を第一に考えてほしい。
- 何かあった場合の責任の所在を明確にしてほしい。
- 現在は学校活動の一部としてなので、ケガや破損の際もスポーツ振興センターやPTAの保険を使うことができる。だが、地域移行された場合は学校管理下ではないため使えなくなると思われる。新たに保険関連の負担(手続き、お金など)が増えないようにしてほしい。
- 今の学校にないクラブ活動も他と合同でできるならいいと思う。

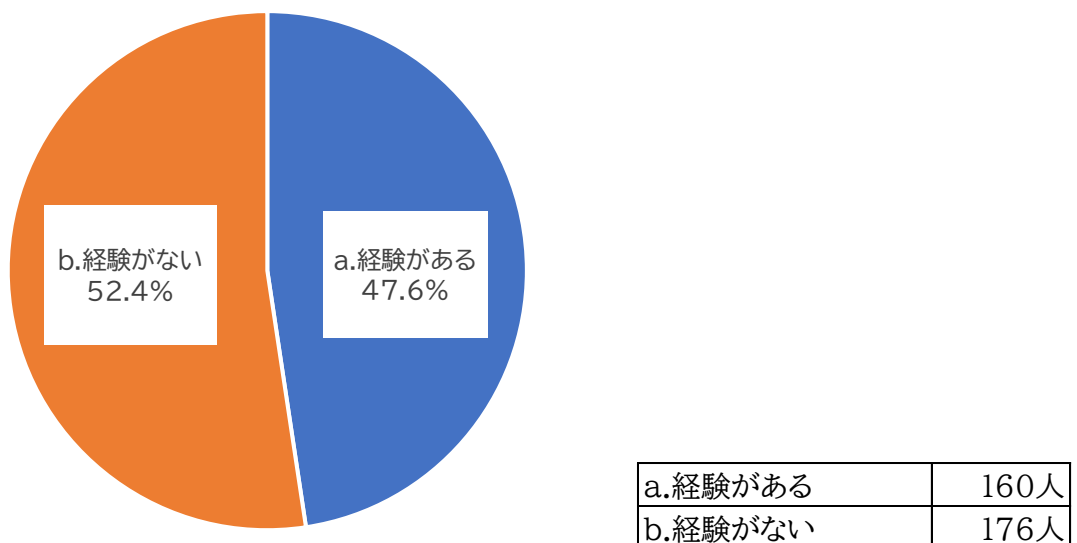
- 学校の先生の負担を考えると地域移行は良いと思う。関わる余裕があったり関わりたい先生は負担のない範囲で関わっていけば良いと思う。

(3)教員対象 アンケート結果

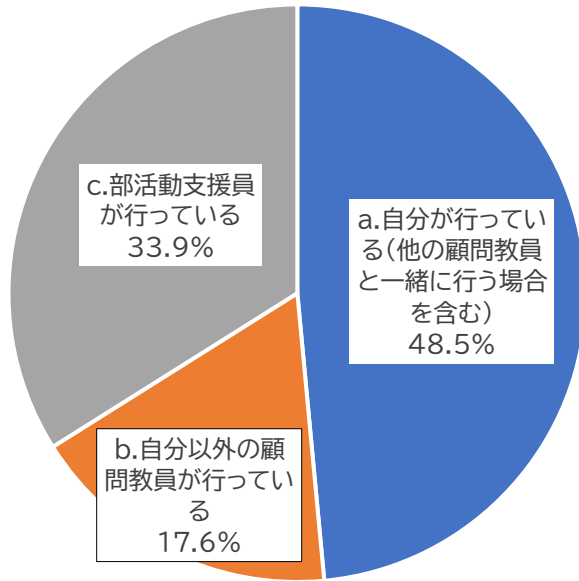
質問1 あなたは部活動の顧問をしていますか。



質問2 顧問をしている部活動について、中学、高校、大学等で競技者(選手・補欠を問わない)としての経験(文化系部活動の場合はその分野の経験)はありますか。(336人が対象)

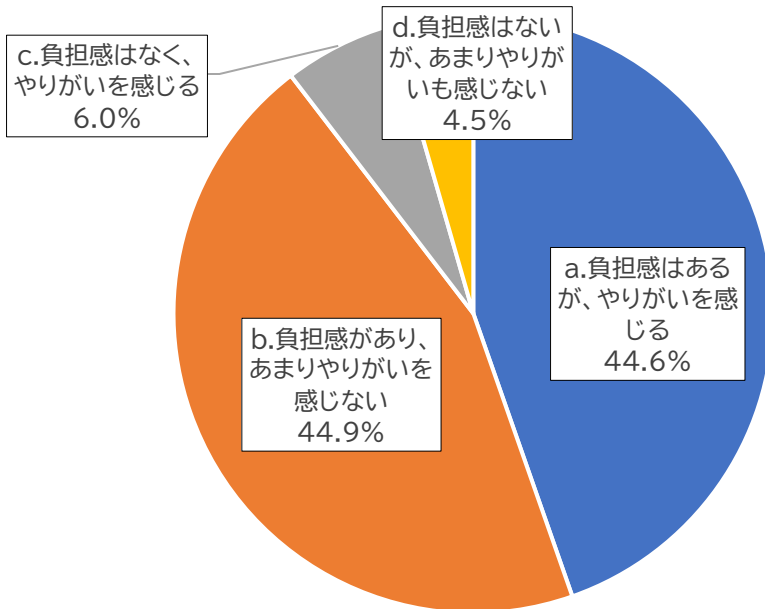


質問3 顧問をしている部活動の技術的な指導は主に誰が行っていますか。(336人が対象)



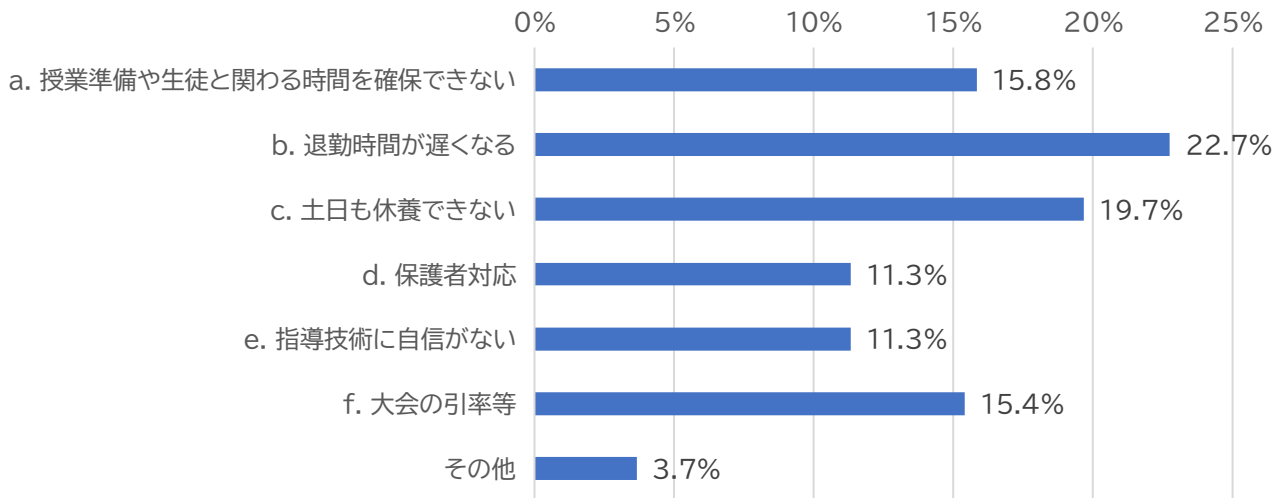
a.自分が行っている(他の顧問教員と一緒にいる場合を含む)	163人
b.自分以外の顧問教員が行っている	59人
c.部活動支援員が行っている	114人

質問4 顧問業務について、どう考えていますか。(336人が対象)



a.負担感はあるが、やりがいを感じる	150人
b.負担感があり、あまりやりがいを感じない	151人
c.負担感はなく、やりがいを感じる	20人
d.負担感はないが、あまりやりがいも感じない	15人

質問5 質問4で、「負担感がある」と回答した理由をすべて選んでください。(301人が対象)

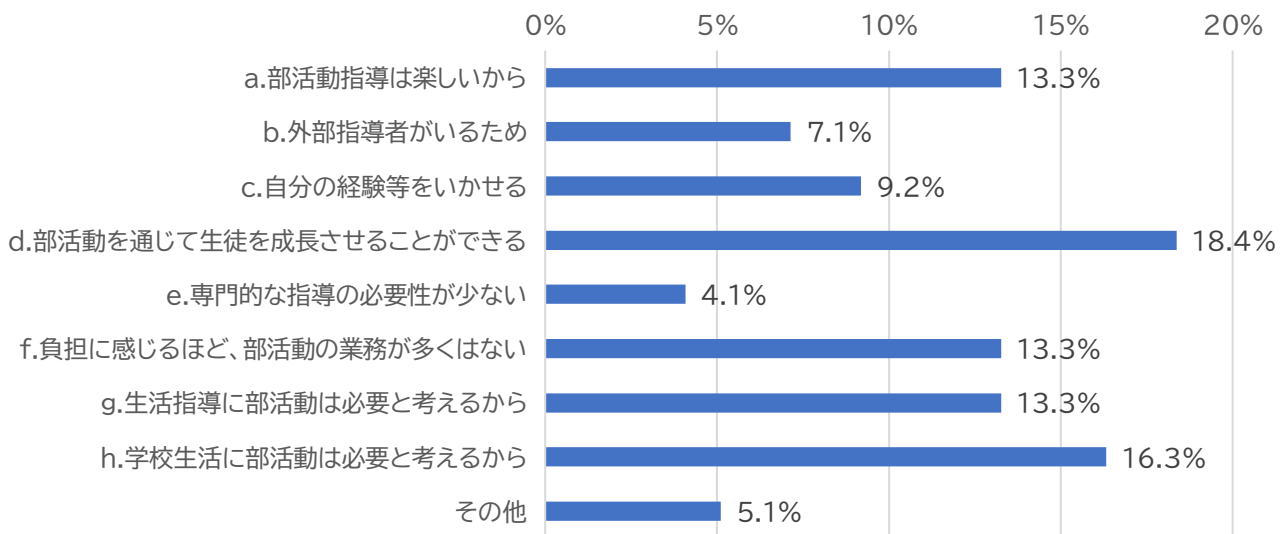


a. 授業準備や生徒と関わる時間を確保できない	186人
b. 退勤時間が遅くなる	267人
c. 土日も休養できない	231人
d. 保護者対応	133人
e. 指導技術に自信がない	133人
f. 大会の引率等	181人
その他	43人

(その他 回答から抜粋)

- 部活動支援員に生徒トラブルの対応を頼めない。
- 土日に大会運営に招集される。
- 遠征にかかる費用すら自己負担なので金銭面でも苦痛、特別勤務手当も少ない。
- 自分の家庭とのバランス
- 1人顧問に対し部員数が多いため指導が行き届かない。
- 学年、学校の仕事が18時以降からになり残業が多い。
- 部活動支援員と意思疎通が図れない。
- 部活の大会運営で審判だけをやりて遠くに派遣され、長時間拘束されるにも関わらず、交通費や昼食代も満足に出ない。
- 怪我をする生徒がでるとその対応で相当な時間や労力を要する。
- 部活動に関連する生徒指導

質問6 質問4で、「負担感はない」と回答した理由をすべて選んでください。(35人が対象)

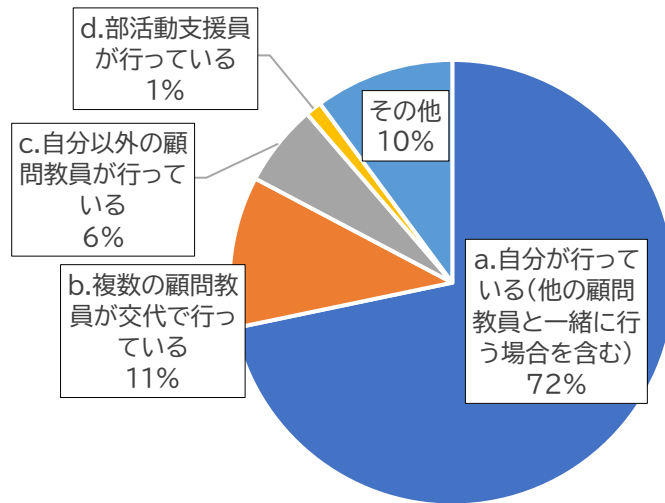


a.部活動指導は楽しいから	13人
b.外部指導者がいるため	7人
c.自分の経験等をいかせる	9人
d.部活動を通じて生徒を成長させることができる	18人
e.専門的な指導の必要性が少ない	4人
f.負担に感じるほど、部活動の業務が多くはない	13人
g.生活指導に部活動は必要と考えるから	13人
h.学校生活に部活動は必要と考えるから	16人
その他	5人

(その他 回答)

- 現在は休日の指導を別の顧問が全て引き受けてくれており、休日に部活指導を行うことが大会や本番を除きあまりないため。休日も自分が見なければならぬのであれば、負担を感じる。
- もう1人の顧問の先生がメインで行なっているから。
- 生徒が育つ環境だから。
- 複数顧問でメインの方がおこなうため。
- 副顧問だから。

質問7 大会や練習試合の引率業務は主に誰が行っていますか。(336人が対象)

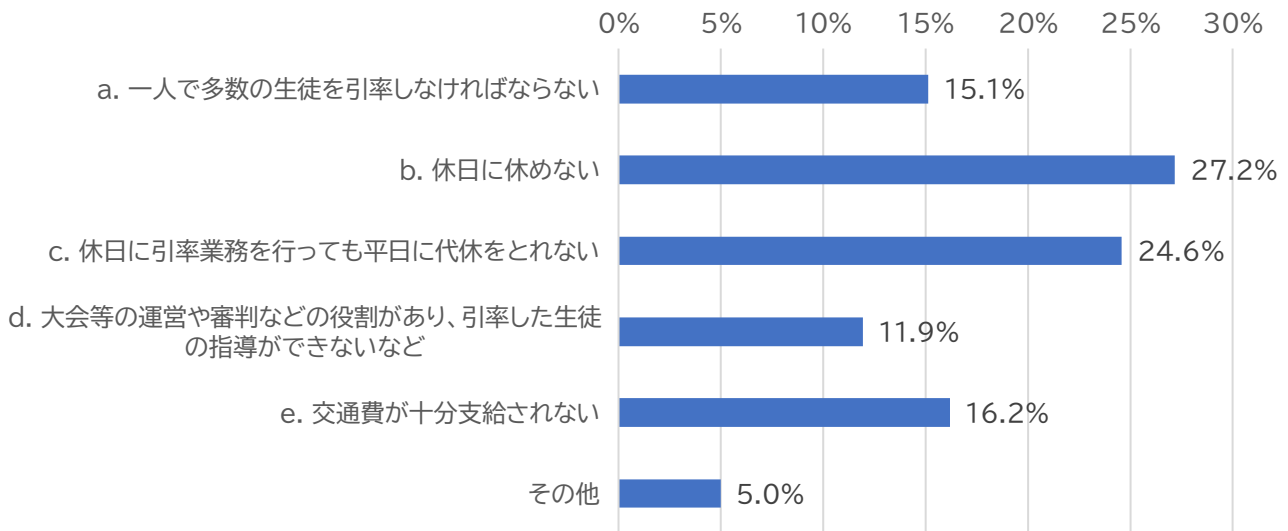


a. 自分が行っている(他の顧問教員と一緒にいる場合を含む)	241人
b. 複数の顧問教員が交代で行っている	37人
c. 自分以外の顧問教員が行っている	20人
d. 部活動支援員が行っている	4人
その他	34人

(その他 回答から抜粋)

- 大会がない／文化部のため引率がない／校外での活動がない。
- 自分で行う時と部活動支援員や保護者にお願いするときがある。
- 現在は対外試合のない部活動を持っているが、今までの経験では必ず自分が行っていた。
- 顧問、部活動指導員、保護者で連携して行っている。それぞれに負担の無いよう工夫して連携している。
- 顧問と支援員で分担している。
- 部活動支援員と保護者
- 親の送迎
- 大会はすべて自分と外部コーチ
- みんなで行っている。

質問8 大会や練習試合の引率業務で、特に課題があれば教えてください。(複数選択可)

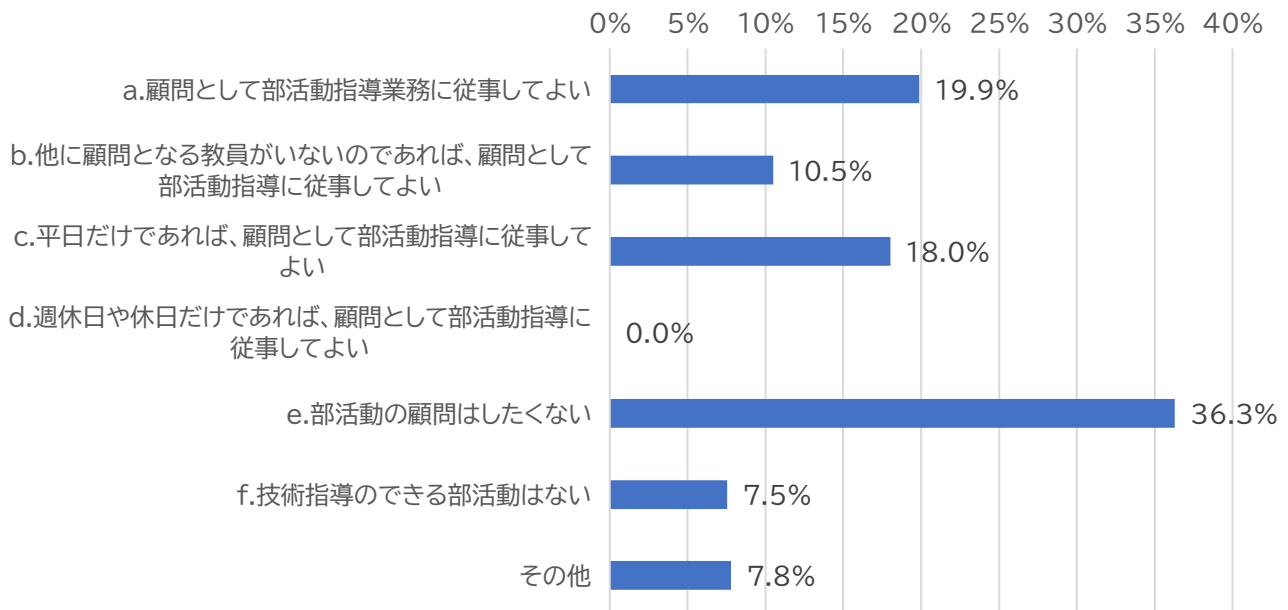


a. 一人で多数の生徒を引率しなければならない	146人
b. 休日に休めない	262人
c. 休日に引率業務を行っても平日に代休をとれない	237人
d. 大会等の運営や審判などの役割があり、引率した生徒の指導ができないなど	115人
e. 交通費が十分支給されない	156人
その他	48人

(その他 回答から抜粋)

- 会場が複数の場合、全ての生徒の試合を見れない。
- 引率業務がないため回答不可。
- 年に1回か2回なので特に課題はなし。
- 大会はない部活動にいるため今は負担を感じていないが、大会のある部活動の引率は上記の理由からとても負担に感る。生活指導も発生するため、クラスをもう一つ持っている感覚だ。
- 勤務時間外の引率になる場合もあり、負担がある。

質問9 自分自身が技術指導のできる競技等の部活動の顧問となることについて、教えてください。

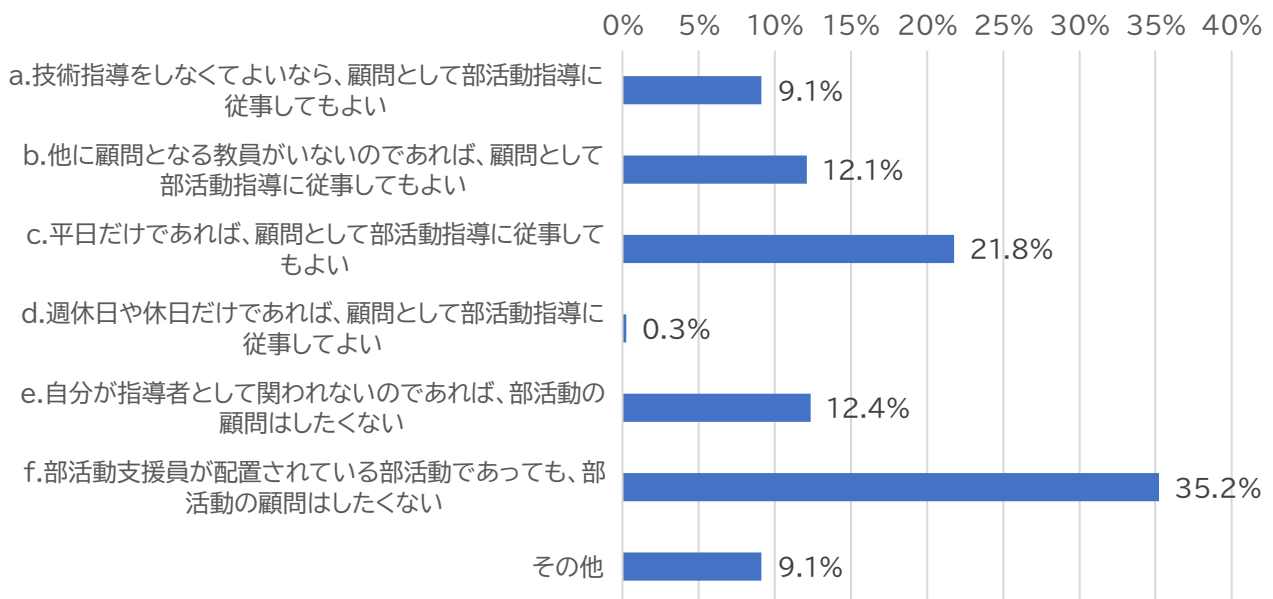


a.顧問として部活動指導業務に従事してよい	74人
b.他に顧問となる教員がないのであれば、顧問として部活動指導に従事してよい	39人
c.平日だけであれば、顧問として部活動指導に従事してよい	67人
d.週休日や休日だけであれば、顧問として部活動指導に従事してよい	0人
e.部活動の顧問はしたくない	135人
f.技術指導のできる部活動はない	28人
その他	29人
合計	372人

(その他 回答から抜粋)

- 地域移行の指導員としてならしてもよい。学校の教員としてならしたくない。
- 部活指導が勤務時間内に収まるならば従事して良い。
- 育児や家庭との両立を図るためには、厳しい。
- 部活動指導にやりがいを感じるので、顧問をすることに差し支えはないが、別で給料を出してほしい。
- 時間に見合った手当を出して欲しい。時給制にしてほしい。

質問10 技術指導者(部活動支援員)が配置されている部活動の顧問となることについて、教えてください。

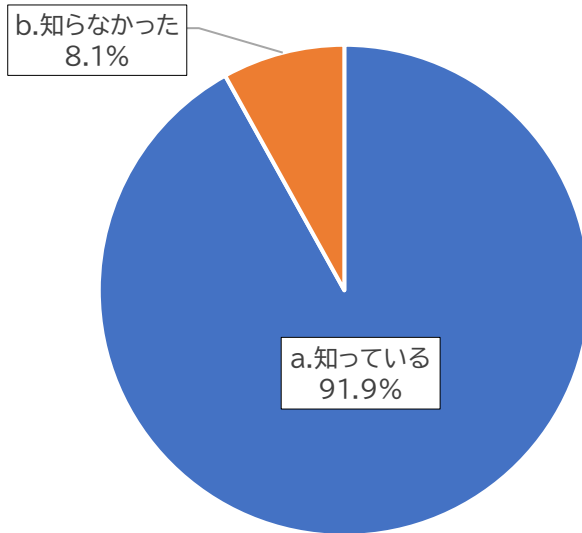


a.技術指導をしなくてよいなら、顧問として部活動指導に従事してもよい	34人
b.他に顧問となる教員がないのであれば、顧問として部活動指導に従事してもよい	45人
c.平日だけであれば、顧問として部活動指導に従事してもよい	81人
d.週休日や休日だけであれば、顧問として部活動指導に従事してよい	1人
e.自分が指導者として関われないのであれば、部活動の顧問はしたくない	46人
f.部活動支援員が配置されている部活動であっても、部活動の顧問はしたくない	131人
その他	34人
合計	372人

(その他 回答から抜粋)

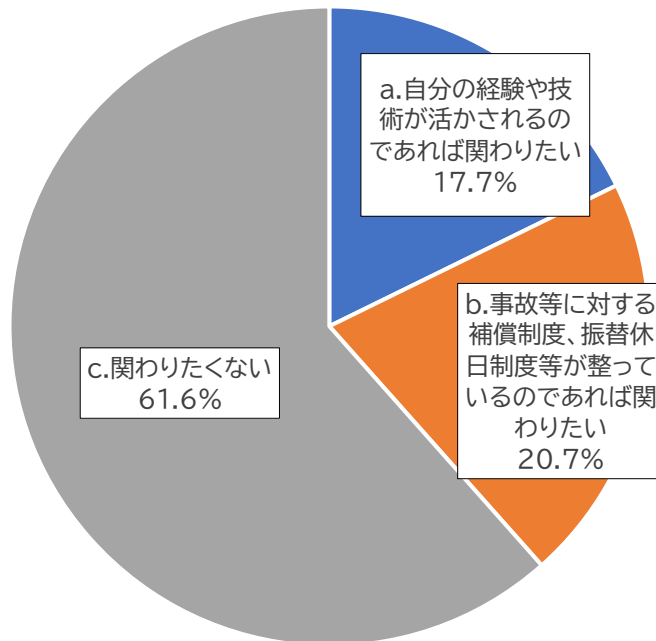
- 部活動支援員と一緒に技術指導をしたい。
- 部活の時間中、職員室で仕事をしていいなら顧問をしても良い。
- 管理顧問でよければ平日のみ顧問をしてもよい。
- 顧問の役割による。鍵の管理程度なのか、生徒指導や出欠の管理まで行うのであればいままでと変わらない。
- 自分の専門でなければ持ちたいとは思わない。

質問11 文部科学省が部活動の地域移行の検討を始め、世田谷区教育委員会でも、中学校の部活動を地域の団体や民間企業等の協力を得て、学校以外での活動に移行したり(地域移行)、学校の部活動のまま先生以外の方に部活動の運営や指導をお願いしたり(地域連携)することについて、検討していることを知っていますか。



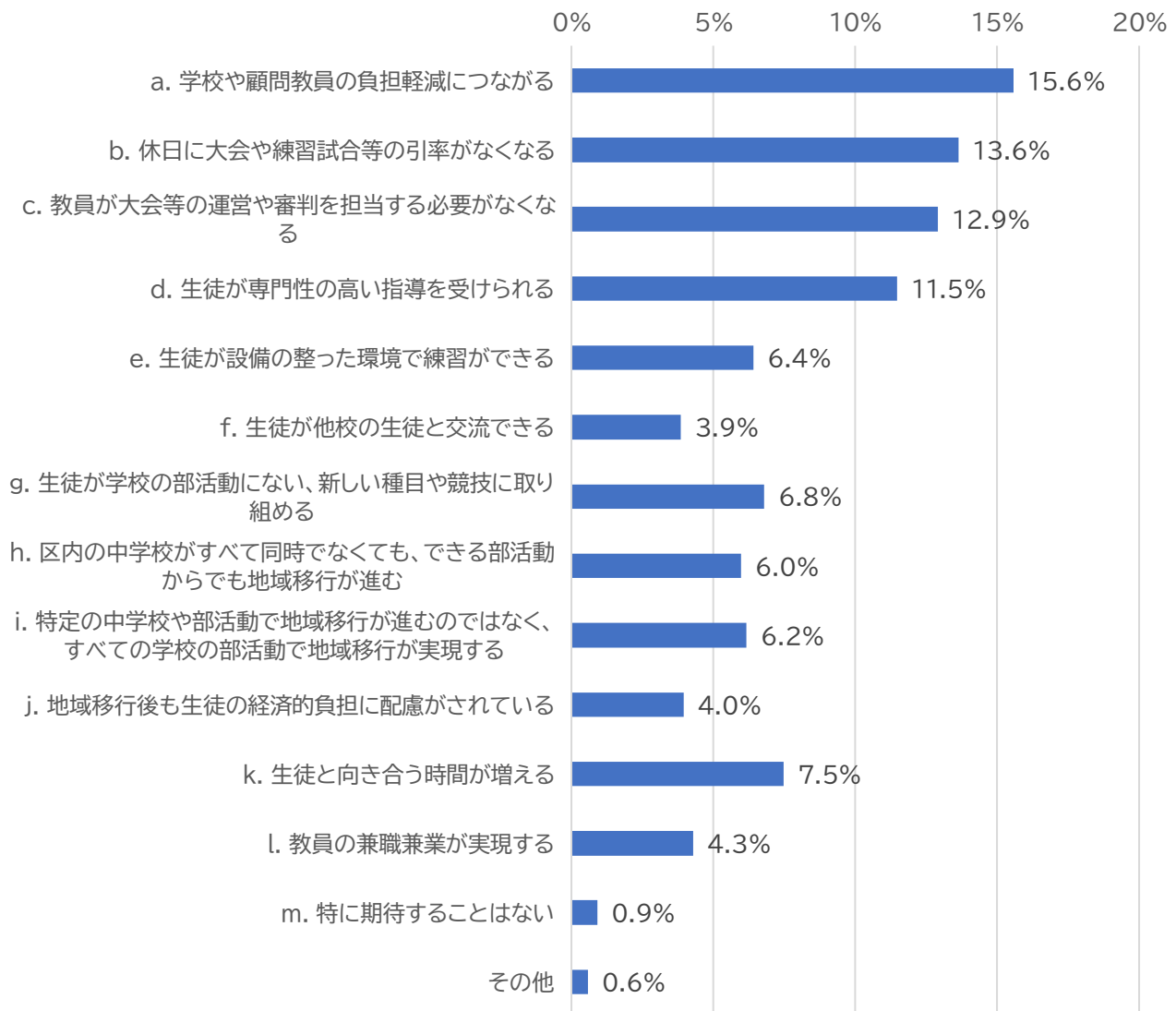
a.知っている	342人
b.知らなかった	30人

質問12 中学校の部活動が地域に移行された場合、教員の兼職兼業制度により、地域の指導者として関わりたいと考えますか。



a. 自分の経験や技術が活かされるのであれば関わりたい	66人
b. 事故等に対する補償制度、振替休日制度等が整っているのであれば関わりたい	77人
c. 関わりたいくない	229人

質問13 中学校の部活動が地域に移行される際に、期待する項目をすべて選んでください。

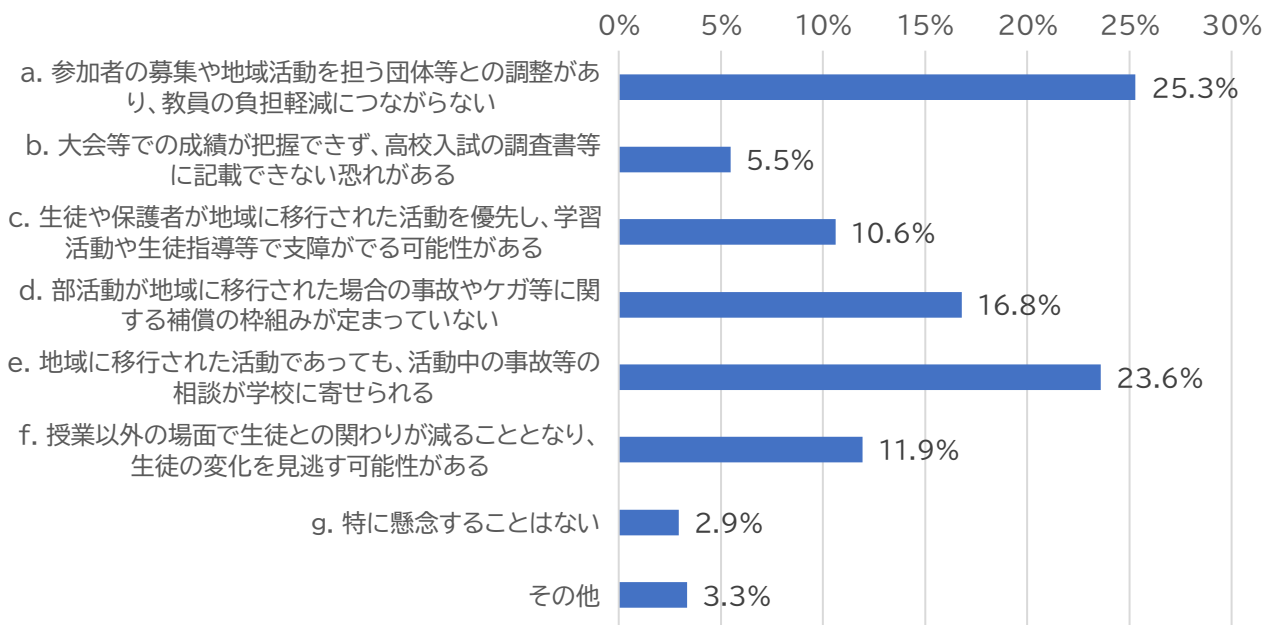


a. 学校や顧問教員の負担軽減につながる	323人
b. 休日に大会や練習試合等の引率がなくなる	283人
c. 教員が大会等の運営や審判を担当する必要がなくなる	268人
d. 生徒が専門性の高い指導を受けられる	238人
e. 生徒が設備の整った環境で練習ができる	133人
f. 生徒が他校の生徒と交流できる	80人
g. 生徒が学校の部活動にない、新しい種目や競技に取り組める	141人
h. 区内の中学校がすべて同時でなくても、できる部活動からでも地域移行が進む	124人
i. 特定の中学校や部活動で地域移行が進むのではなく、すべての学校の部活動で地域移行が実現する	128人
j. 地域移行後も生徒の経済的負担に配慮がされている	82人
k. 生徒と向き合う時間が増える	155人
l. 教員の兼職兼業が実現する	89人
m. 特に期待することはない	19人
その他	12人

(その他 回答から抜粋)

- 部活手当の改善
- 実際にどこまで期待をして良いのかわからないし、どこまで実現できるのかも分からないことだと感じている。

質問14 中学校の部活動が地域に移行される際に、懸念する項目をすべて選んでください。

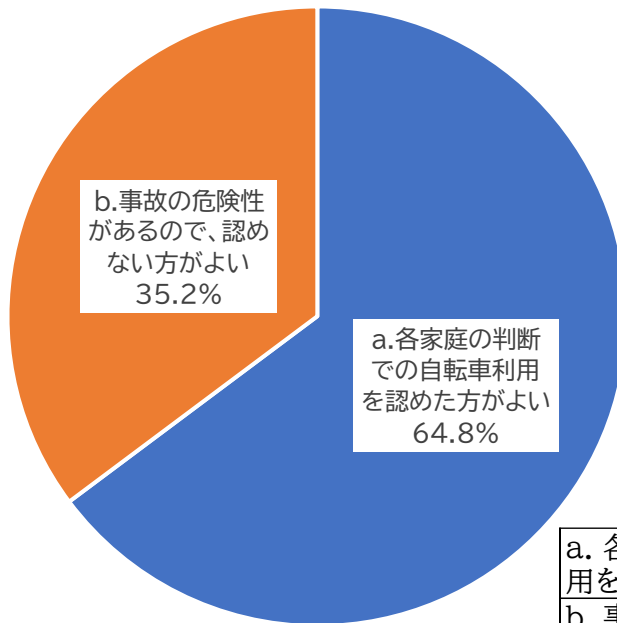


a. 参加者の募集や地域活動を担う団体等との調整があり、教員の負担軽減につながらない	250人
b. 大会等での成績が把握できず、高校入試の調査書等に記載できない恐れがある	54人
c. 生徒や保護者が地域に移行された活動を優先し、学習活動や生徒指導等で支障がでる可能性がある	105人
d. 部活動が地域に移行された場合の事故やケガ等に関する補償の枠組みが定まっていない	166人
e. 地域に移行された活動であっても、活動中の事故等の相談が学校に寄せられる	233人
f. 授業以外の場面で生徒との関わりが減ることとなり、生徒の変化を見逃す可能性がある	118人
g. 特に懸念することはない	29人
その他	33人

(その他 回答から抜粋)

- 部活動中の人間関係のトラブル対応(生徒指導)が適切に行われるのかが心配である。
- 地域移行をしても活動内の人間関係のトラブルを学校が介入しなければ解決しない可能性がある。
- 活動場所として学校が使われてしまうと、結局学校に関わることになってしまう。
- 大会が運営できない。教員の審判で成り立っている。大会運営の委託も行わなければならないと思う。

質問15 部活動の活動場所が勤務校以外の施設(区の競技場や他の中学校等)を利用する場合に、移動の手段として自転車利用についてどう思いますか。



a. 各家庭の判断での自転車利用を認めた方がよい	241人
b. 事故の危険性があるので、認めない方がよい	131人

質問16 部活動の地域移行について、思っていること・考えていることがあれば、ご記入ください。

(回答から抜粋)

<教員の兼業・兼職等>

- 完全移行の前段階として、顧問として指導することを希望する教員が、今までのボランティアでなく、学校の施設を利用して、指導員としての立場で技術指導を行うことを可能にすることはできないか。
- 部活動が地域移行された場合でも、兼職兼業で教員が部活動に関わるのならば、それ相応の報酬があれば関わりたいと思う。
- 教職調整手当ではなくきちんとした対価を払えば、教員も含めて指導者確保に繋がると思う。
- 現状として大会運営を無賃で教員がやっているということも不合理である。部活動指導や大会運営に従事した時間分は、それに見合った手当を支給すべきである。
- 部活動の顧問を希望する人はできる、希望しない人はやらないシステムをつくってほしい。

- 指導をすることにやりがいを感じている教員には指導の機会はあると良いと思う。

<ワークライフバランス>

- 現在の部活は本当に教員の善意で成り立っている。特に土日の練習に関わると十分に休めないことや家族との時間をとれなくなる。
- 授業や行事の準備だけでも大変なのに放課後、ましてや部活動で休日まで拘束され責任も問われる現状は、教員が減っている何よりの原因だと感じる。

<部活動の縮小、合同化など>

- 現在行っている部活動の活動を縮小することから始めないと移行は進まないと考える。
- 全体的に部員が減っていることから、合同で練習を行うなどしてもいいのかもしれない。経済的な負担が少なく気軽に音楽と触れ合えるようになるといい。

<経費>

- 地域移行の実施にはお金がかかるとは思いますが、その金額は、現在教員がボランティアでやっている分であることを理解してほしい。
- 地域移行のためには、部活動指導員が職業として成り立つ必要があると思う。費用の問題等が解消されなければ地域移行は難しいのではないか。
- 保護者や生徒に経済的な負担が多くならないようにしてほしい。

<大学連携>

- 他の自治体のように、大学等と連携して活動に取り組むことができれば、大学としては将来の学生の早期確保につながり、また、教職を目指す学生の指導力向上の機会となるのではないか(その活動を単位として認める代わりに、指導を必ず必須とすること、など)。
- 中学生は、教員よりも年の近い学生に教えてもらうことができ、かつ専門家の指導を直接受けられるという貴重な機会の確保になる。

<地域移行による負担>

- 生徒の事故、ケガの補償制度、生徒トラブルや、施設、日程調整などで結局学校に負担が現れるのが懸念である。

- 負担感を覚えている教員へのケアは別の形で必要だが、地域で完全に移行していない限り、かえってしきみを複雑化させ、結果的に負担が増えてしまい、部活動を通じた生徒の成長の妨げになるだけと考える。
- 教員の負担をなくすための地域移行にするのなら、手続きの仕方や問い合わせの窓口などインフラをしっかりと整えて欲しい。

<大会運営等>

- 大会運営を教員がやっていることから、地域移行すると大会運営の担い手がいなくなる可能性がある。
- 外部指導員にも大会運営に携わってもらえるようにしていただくしかないと思う。

<部活動支援員、外部指導者>

- 部活動支援員にも服務講習や救急講習などをする必要がある。
- 指導者の研修等が必要。
- 指導者の質が大切だと思う。結果ばかりを求め、技術指導に偏ってしまうと、たくさんの人が楽しめなくなる恐れがある。

<その他>

- 部活動は生徒の精神的な充足感や心身の健全な発達に必要不可欠だと思うし、そこに教員が携わることで、人間関係の構築、関わりの増加にも繋がると思う。地域移行を再検討してほしい。